

公民館活動の新たなステージ

富山県公民館連合会創立70周年記念



発刊にあたって

全国公民館連合会会長
富山県公民館連合会会長

中西 彰

富山県公民館連合会が昭和26年1月の創立から70周年を迎え、ここに富山県公民館連合会創立70周年記念誌「公民館活動の新たなステージ」を刊行できますことは、大きな喜びとするところであり、これまで活動を支えていただいた富山県教育委員会に感謝申し上げますとともに、歴代会長はじめ、役員、会員等、関係の皆様のご労苦に敬意を表します。

平成22年度に60歳の還暦を、その後、65歳のいわば高齢者の仲間入りの年を経て、このほど70歳の古希を迎えたわけです。今や「古来稀なり」どころか、「人生100年時代」と言われるほどですから、まだまだ発展途上の段階ではありますが、一つの節目として踊り場に一旦立ち止まり、この記念誌を編むことを通じて、過去、特にこの10年を振り返るとともに、その先にある「公民館活動の新たなステージ」を展望してみたいと思います。

さて、近年、少子高齢化、情報化、グローバル化等、社会が目まぐるしく変化していますが、公民館をめぐる環境も大きく変化しています。地震、台風、集中豪雨等自然災害の多発は、防災拠点としての公民館の存在意義の再認識をもたらしましたし、人口減少、過疎化、市町村合併等が地域の在り方を大きく変えました。社会教育法の改正や数次にわたる中央教育審議会の議論に伴う制度的な変化が社会教育の現場に变革を求めていますし、全国公民館連合会組織にも休止や脱退を余儀なくされた府県連が発生しています。

そして、昨年春以来の新型コロナウイルスによる感染症は全世界に猛威を振るい、我が国においても、医療面はもちろん、政治、経済、教育等、様々な分野で大きな問題を引き起こし、令和3年の年明け早々、緊急事態宣言の再発令という事態に至りました。このコロナ禍は、当然のことながら公民館活動にも襲いかかり、公民館が使用できない期間があったほか、活動再開に際しては、全公連から、参加人数の制限、マスク・消毒・検温等、感染防止策を講じながらの活動等、留意点を整理したガイドラインが公表され、各現場では、本来の姿からは程遠い活動を余儀なくされました。コロナの終息は先行き不透明で、当面ガイドラインに沿う形でコロナとの共存を考えるウィズコロナの立場をとる一方、晴れてコロナがほぼ終息し、本来の活動を取り戻しつつ、コロナ対応の中で編み出された様々な手法も取り込んでいこうというポストコロナを見据えた筋道をも追求する必要があると思います。

以上のような防災、人口減少、制度面での变革、コロナ対応等、いくつかの視点が「公民館活動の新たなステージ」の課題として求められているのではないのでしょうか。この記念誌がそうした課題解決のために少しでも指針を示すことができれば幸いです。

結びに、ご寄稿いただいた富山県知事 新田八朗様、富山県市長会会長・富山市長 森 雅志様、富山県教育委員会教育長 伍嶋二美男様はじめ、ご助言ご協力いただいた県及び各市町村教育委員会、並びに関係の皆様にあらためてお礼申し上げますとともに、今後とも本連合会の活動にご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます、発刊にあたってのご挨拶といたします。

目次

発刊にあたって

全国公民館連合会会長
富山県公民館連合会会長 中西 彰

富山県公民館連合会の創立70周年を祝して	1
富山県知事 新田 八朗	
富山県公民館連合会の創立70周年を祝して	2
富山県市長会会長・富山市長 森 雅志	
創立70周年記念誌の発刊によせて	3
富山県教育委員会教育長 伍嶋 二美男	

I 公民館活動の新たな潮流	4
はじめに	5
1 社会教育をめぐる国の動向	6
(1) 教育基本法	(2) 社会教育法
(3) 教育振興基本計画	(4) 中央教育審議会
2 自然災害の多発と公民館の役割	8
(1) 主な自然災害	(2) 公民館の果たす役割
3 人口減少時代に即した公民館活動	12
(1) 人口・市町村数・公民館数の推移	(2) 公民館施設の多様化
(3) 人口減少時代の地域づくり	(4) 東京大会
4 新型コロナウイルス感染症と公民館活動	15
(1) 公民館の臨時休館	(2) ガイドライン
(3) 月刊公民館の特集	(4) 北海道大会
(5) 朝日町教育委員会の実践	
(6) 全国公民館セミナーと富山県公民館主事・指導員等研修会	
(7) ウィズコロナとポストコロナ	
おわりに	17
II 富山県公民館連合会創立70周年記念 第14回富山県公民館大会	18
1 大会概要	19
(1) 趣旨	(2) 日時・会場
(3) 記念式典	(4) 実践発表
(5) 基調講演	(6) 創立70周年記念 パネルディスカッション
(7) 閉会式	
2 基調講演	22
社会が大きく変容する中で持続可能な地域づくりの推進のために ～北海道公民館振興首長会構想から5年～	
全国公民館連合会理事 北海道平取町前町長 川上 満 氏	

Ⅲ 創立70周年記念 パネルディスカッション	30
「新しい時代の公民館活動」	
Ⅳ 地域の特性を生かした公民館活動の実践	44
1 公民館活動研究委嘱事業	45
(1) 「公民館は『活動』である」という認識の定着	
(2) 「平素からの人と人との絆づくり」を意図した活動	
(3) 「地域づくり・まちづくり」をネットワークする活動	
2 県公連会報に見る公民館活動	52
(1) 少子・高齢化社会における活動の工夫	
(2) 地域の文化・伝統の伝承と再発見	
(3) 新たな地域ニーズへの対応	
3 市・郡公民館関係者研修会	58
4 第49回東海北陸公民館大会富山大会	63
(1) 大会趣旨	
(2) 大会主題	
(3) 分科会構成・テーマ	
(4) 成果等	
5 第52回東海北陸公民館大会富山大会	68
(1) 大会までの準備経過	
(2) 大会概要	
(3) 成果等	
6 県公民館連合会予算の推移（平成22→27→令和2年度）	72
資料	74
県公連活動 年譜70年	75
全国公民館研究集会・東海北陸公民館大会参加概要（平成23～令和2年度）	86
輝く表彰（平成22～令和2年度）	88
令和2年度富山県公民館連合会役員	96
平成13～令和2年度 歴代正・副会長・事務局	98
令和2年度各市・郡公民館連絡協議会（連合会）役員	99
富山県公民館連合会会則・富山県公民館連合会表彰規程	100
全国公民館連合会表彰規程	103

あとがき

富山県公民館連合会・創立70周年記念誌編集委員会

委員長 高井清高



富山県公民館連合会の 創立70周年を祝して

富山県知事

新 田 八 朗

このたび、富山県公民館連合会が創立70周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。貴連合会には、昭和26年の創立以来、70年の長きにわたり、公民館活動の充実、公民館職員の資質向上に積極的に取り組まれ、社会教育の推進や魅力ある地域づくりに大きく寄与いただいています。

また、各公民館は、学習や交流の場として、地域社会の中で大変重要な役割を担い、県民の教養と生活文化の向上や福祉の充実、健康の増進、地域の安全・安心の向上等のために、様々な活動を実施されています。

ここに、中西彰会長をはじめ、貴連合会の皆様の並々ならぬご熱意とご尽力に、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

また、少子高齢化や人口減少が進むなか、社会全体の活力を維持し、若者や女性、高齢者など、県民誰もが意欲や能力に応じて活躍できる社会を実現することが求められています。

そのため、様々な世代の皆様が、それぞれの目的や社会の課題に応じて、効果的な場を選択して学び、その成果を地域に還元していくことが大切です。

また、自然災害や新型コロナウイルス感染症の発生などの困難な状況に直面し、人と人との絆や、地域で支え合うことの大切さが改めて認識されています。

こうしたなか、県では、貴連合会の皆様と協力し、公民館での地域の魅力発信や課題解決に向けた学習会、世代を超えた地域コミュニティの強化、子供たちのふるさと学習などの施策を展開しているところです。

県としましては、今後とも、貴連合会をはじめ社会教育団体の皆様と連携し、生涯を通じた学びの推進や、学校、家庭、地域で取り組む子供の育成、地域の特性を活かしたふるさと教育などに取り組んでまいりたいと考えています。

貴連合会におかれましては、このたびの創立70周年を契機として、人と人との絆や人と地域のつながりを深めながら、心がふれあう温かい地域づくりに一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、富山県公民館連合会並びに県内各公民館の限りないご発展と、公民館に集う皆様のご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申しあげ、お祝いの言葉とします。



富山県公民館連合会 創立70周年を祝して

富山県市長会会長・富山市長

森 雅 志

このたび、富山県公民館連合会が創立70周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。貴連合会におかれましては、昭和26年1月30日の結成以来、歴代会長をはじめ、会員の皆様方のたゆまぬご努力のもと、県内公民館の提携や生涯学習の推進と公民館の発展に寄与され、活力あふれ、魅力ある地域づくりに取り組んでこられましたことに対して、深く敬意と感謝の意を表する次第です。

ご承知のとおり、公民館は、第二次世界大戦直後に世界で初めて日本で生まれ、地域住民の自主的な学びの支援を目的に全国に発展し、今では、身近な公民協働の「社会教育施設」として、地域に根付いたものとなっております。

一方、我が国では現在、少子・超高齢化の進行、情報化の進展などにより、社会環境は様々に変化しており、人々のライフスタイルや価値観が多様化しております。

このような時代の変化に対応するためには、柔軟な発想力や想像力が必要とされますが、その力は、学校教育だけではなく、家庭や社会の中で多くの人々との関わりにより培われていくものであると考えております。

こうした中、人々が集い学ぶ公民館は、最も身近な社会教育の場としての地域活動の拠点であるとともに、近年では、家庭や学校と地域を繋ぐコーディネーターとしての役割も期待されており、公民館の役割は時代に応じて変化しながらも、必要性・重要性はより一層高まっているところです。

各市におきましても、生涯学習や情報・文化の拠点として、また、地域住民のふれあいと交流を広げるコミュニティ活動の拠点として、公民館の整備や地域に根ざした生涯学習活動の推進に努める所存でありますので、どうか皆様方におかれましては、全ての世代が学び、豊かな心を育み、充実した生活を送ることができるよう、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、富山県公民館連合会の限りないご発展と、中西会長はじめ会員の皆様方の今後ますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



創立70周年記念誌の発刊によせて

富山県教育委員会教育長

伍 嶋 二美男

このたび、富山県公民館連合会が創立70周年を迎え、記念誌「公民館活動の新たなステージ」が刊行されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴連合会には、昭和26年の創立以来、70年にわたり、心豊かで安心して住むことのできる地域をつくる活動や住民の学習意欲、連帯感を高める事業を展開され、社会教育の振興に大きな役割を果たしてこられました。これもひとえに歴代の会長をはじめ、会員の皆様方のご尽力によるものと深く感謝申し上げます。

近年、少子・高齢化や頻発する自然災害、新型コロナウイルス感染症への対応等、様々な課題に直面するなか、平成30年12月の中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、「公民館など社会教育施設には、地域活性化・まちづくりの拠点、地域の防災拠点などとしての役割も強く期待されるようになっており、住民参加による課題解決や地域づくりの担い手の育成に向けて、住民の学習と活動を支援する機能を一層強化することが求められている」と示されるように、公民館には大きな期待が寄せられています。

県では、平成28年3月に策定した「富山県教育大綱」に即して、平成29年4月に本県が目指す教育の姿（目標）や施策の基本的方向などを明確に示し、それらを確実に実現するために必要な教育施策や取組を体系的に整理した「新富山県教育振興基本計画」を策定しました。「ふるさと富山に誇りと愛着を持ち、地域社会や全国、世界で活躍し、未来を切り拓く人材の育成」を基本理念とし、基本施策の一つに「ふるさとを学び楽しむ環境づくり」を掲げ、家庭、地域、企業等が一体となって、世代を超えて、ふるさとの自然や歴史、暮らし、産業等を学び、親しむ機会を充実し、ふるさと富山に誇りと愛着を育む取組を推進することとしています。

貴連合会には、これまで、子供たちのふるさとの学びや身近な自然体験活動の事業に積極的に取り組んでいただいております。心より感謝申し上げます。また、中西会長には、今年度から全国の会長として、公民館活動はもとより国の生涯学習振興のキーパーソンとして活躍いただいております。今後も公民館活動の一層の充実を大いに期待しております。

結びに、心がふれあう温かい地域づくり、人づくりにこれからもご尽力をいただきますようお願い申し上げますとともに、富山県公民館連合会の限りないご発展と会員の皆様方の一層のご活躍をお祈り申し上げます。



公民館活動の新たな潮流

はじめに

1 社会教育をめぐる国の動向

- (1) 教育基本法
- (2) 社会教育法
- (3) 教育振興基本計画
- (4) 中央教育審議会

2 自然災害の多発と公民館の役割

- (1) 主な自然災害
- (2) 公民館の果たす役割

3 人口減少時代に即した公民館活動

- (1) 人口・市町村数・公民館数の推移
- (2) 公民館施設の多様化
- (3) 人口減少時代の地域づくり
- (4) 東京大会

4 新型コロナウイルス感染症と公民館活動

- (1) 公民館の臨時休館
- (2) ガイドライン
- (3) 月刊公民館の特集
- (4) 北海道大会
- (5) 朝日町教育委員会の実践
- (6) 全国公民館セミナーと富山県公民館主事・指導員等研修会
- (7) ウィズコロナとポストコロナ

おわりに

はじめに

公民館という語感や歴史のある自治公民館のいかにも古民家風の建物、墨痕のやや褪せた看板の印象などから、その誕生は例えば江戸時代の寺子屋に匹敵するくらいに思っている向きもあるかと思いますが、わが国で公民館が正式に表舞台に登場したのは戦後間もない昭和21年のことです。時の文部省社会教育課長寺中作雄が著書「公民館の建設—新しい町村の文化施設—」の中で「社会教育、社交娯楽、自治振興、産業振興、青年養成」の五つの機能を有する新たな施設としての公民館の必要性を提唱したいわゆる「寺中構想」が始まりで、同年、文部省次官通牒「公民館の設置と運営について」が発せられ、全国に公民館の設置が広がり始めました。

本県では翌昭和22年に旧東礪波郡井波町（現南砺市）に高瀬村公民館が県内第1号として設置され、昭和26年1月には富山県公民館連絡協議会（昭和53年に富山県公民館連合会（以下県公連と称する）と改称）が全国に先駆けて発足しています。昭和29年に第3回全国公民館大会を本県で開催していることから、本県が先進的に公民館の組織化の取組を進めていたことが分かるのではないのでしょうか。

時代が下がって、県人口が平成10年の112万6千人をピークに減少に転じたことなどをきっかけに、平成10年代後半には平成の市町村大合併が起こり、それまで35（9市、18町、8村）だった市町村が最終的に15（10市、4町、1村）にまで進みました。また、それと連動するように県や市町村の財政難が表面化し、行財政改革の波が広がったことから、県の支援を得て運営されている各種団体についても、組織や事業の大幅な見直しを余儀なくされました。

県公連においては、その流れをいち早く察知した当時の鹿熊久三会長のリーダーシップのもと、平成17年頃から組織改革について精力的に検討が重ねられ、平成18年の総会で会則の改正を承認、平成19年度から施行しました。それにより、それまでの総会方式に代わって議決機関として評議員会を設置するとともに、長らく公民館研究集会と称していた全県的研修機能を公民館大会として復活させました。令和2年度が創立70周年という長い歴史にもかかわらず、定期評議員会並びに公民館大会がいずれも第14回と若い年次になっているのはこうした経緯によるものです。

一方、平成18年の教育基本法全面改正を受けて、平成20年に博物館法、図書館法などとともに社会教育法の大きな改正が行われ、併せて、中央教育審議会（以下場合により中教審を使用）が「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」を答申し、自立した個人や地域社会の形成に向けて、学校・家庭・地域が連携して地域課題を共有することなどが提言されました。こうした国の動きを受け、公民館の担う役割に少しずつ変化が見られ始めた時代の流れの中で、10年前の平成22年度に県公連創立60周年記念公民館大会が開催され、記念誌が発刊されたわけです。

それ以降の今日までの10年間は、自然災害の多発、人口減少、そして現下のコロナ禍などが時代を象徴するキーワードといえると思いますが、以下、これらを軸にこの10年間を振り返り、「公民館活動の新たな潮流」として整理したいと思います。それはまた、今後の10年、20年の公民館活動を進める上でも、引き続き重要なポイントになるのではないのでしょうか。

1 社会教育をめぐる国の動向

平成13年の省庁の大幅再編の断行により、文部省は文部科学省となりましたが、単に名称変更にとどまらず、様々な面でそれまでと同じやり方では通じないという時代の要請が表面化しました。そうした平成20年前後の数年とその後の10年間、国レベルで社会教育がどのように議論され、法整備につなげてきたかを振り返ってみます。

(1) 教育基本法

上記平成18年の教育基本法の改正において、社会教育に関連する内容としては、第3条「生涯学習の理念」、第10条「家庭教育」、第13条「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携」が新設されるとともに、第12条（旧7条）「社会教育」も拡充され、「国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置」等によって「社会教育の振興に努めなければならない」と規定しています。

(2) 社会教育法

これを受けて、平成20年には社会教育法が大幅に改正されました。主な改正点としては、「教育基本法の改正を踏まえた規定の整備」のほか、「社会教育施設の運営能力の向上」を図るため、「公民館」等は「その運営状況に関する評価及び改善並びに地域住民等に対する情報提供に務めるものとする」とし、また、「社会教育施設等における一定の職に3年以上あったことを、社会教育主事、司書及び学芸員の資格を得るために必要な実務経験として評価できるようにする」など、「資質の向上と資格要件の見直し」が行われました。

(3) 教育振興基本計画

また、中教審の議論を受けて、平成20年度から5年ごとに3期にわたって教育振興基本計画が策定されています。

第1期（平成20年）では「社会全体で教育の向上に取り組む」という基本的方向の中で、「公民館等の活用を通じた地域の学習拠点づくり」を取り組むべき施策に挙げています。

中間年の第2期（平成25年）では基本的方向性の一つに「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を挙げ、東日本大震災を教訓として、「学校、公民館等を拠点とした地域コミュニティの形成」を施策例としています。

さらに、直近の第3期（平成30年）では、「留意すべき視点」の一つに「新時代の到来を見据えた次世代の創造」を挙げ、「超スマート社会（Society5.0）の実現」、「持続可能な社会教育システムの構築」、「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」等を新たな課題としています。

(4) 中央教育審議会

一方、中教審は数次にわたって答申や議論の整理を行っています。その中で、社会教育に関わる主なものを挙げておきます。

① 「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」（平成20年答申）

まず、上記の教育基本法や社会教育法の改正と連動する形で、平成20年に「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」を答申し、「社会全体の教育力の向上」のために「学校・家庭・地域が地域の課題・目標の共有化」をすること

とし、「社会教育施設等のネットワーク化」をポイントに挙げています。

② 「(第6期)生涯学習分科会における議論の整理」(平成25年)

また、この10年の中間年にあたる平成25年の「生涯学習分科会における議論の整理」では、「今後の生涯学習・社会教育の振興の具体的方策」の柱の一つに「生涯学習・社会教育の推進を支える基盤の整備」を挙げ、「社会教育主事等の役割や配置の見直し、資質・能力向上の検討」や「地域人材を含む社会教育に関わる人材全体の在り方の検討」をすることが必要としています。

③ 「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年答申)

さらに、今後の社会教育の方向性を占う意味では最も重要と思われるのが、平成30年の答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた振興方策について」です。

まず、第1部「今後の地域における社会教育の在り方」の中で、人口減少、高齢化、グローバル化、SDGs等に向けた取組として、「持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要」とし、また、「人生100年時代の到来、Society5.0実現の提唱」のために「誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現へに向けた取組が必要」としています。具体的な方策として「学びの参加へのきっかけづくりの推進」、「教育委員会における社会教育主事の確実な配置」や「多様な主体による『社会教育士(社会教育主事講習や養成課程修了者が称することができる称号：令和2年4月新設)』の取得推奨」を挙げています。

また、第2部「今後の社会教育施設の在り方」の中で、公民館、図書館、博物館等の「社会教育施設の所管の在り方」について、「地方公共団体の長が社会教育施設を所管できる仕組み(以下「特例」という)」を導入すべきとの意見が提出される一方で、「特例を設けるに当たり、教育委員会による関与など、一定の担保措置を講ずる必要がある」ことや「法令の規定を踏まえた専門的職員の配置・研修、運営審議会等を活用した評価・情報発信等が重要」としています。

④ 「(第10期)生涯学習分科会における議論の整理」(令和2年)

そして、最新の動きとしては、令和2年9月に出された「生涯学習分科会における議論の整理」における「新しい時代の生涯学習・社会教育の広がり」と充実に向けて」の中で、「新しい時代の学びの在り方」として、「疑問をもち、課題を見付け、考えを発信し、他者と共に考え、新たな考えを想像するといったこと」や新型コロナウイルス感染症の拡大を念頭に置いた「オンラインによる学びと対面による学びの組合せで学びが更に豊かなものになる」との見解が示されています。また、「命を守る生涯学習・社会教育」では、「新型コロナウイルス感染症や自然災害などの課題に対し、必要な知識を得たり課題解決に向けて共に学び合ったりする機会の充実は、あらゆる人々の命を守ることに直結する」としています。

2 自然災害の多発と公民館の役割

(1) 主な自然災害

① 東日本大震災

平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」は、マグニチュード9.0、最大震度7で、地震としても最大級であったことに加え、海岸で9m、上陸後の遡上高で40m超とも言われる巨大津波、さらに東京電力福島第一原子力発電所の原子力事故も重なり、甚大な被害を及ぼしたことから、「東日本大震災」と称されています。福島、宮城、岩手の3県を中心に、死者19,729人、行方不明2,559人、家屋の全壊121,996棟、半壊282,941棟など、未曾有の災害を引き起こし、10年が経過した現在もなお、避難者が4万2千人いらっしゃるなど、復興までの道のりはなお険しいものがあります。

② 熊本地震

平成28年4月に発生した「熊本地震」は、震度5以上の地震が14日から18日までの5日間で21回を記録し、特に14日のマグニチュード6.5、16日のマグニチュード7.3の地震はいずれも最大震度7という激しいものでした。死者273名という被害もさることながら、熊本城天守閣の屋根瓦が崩落するという被害が強く印象付けられました。

③ 西日本豪雨

平成30年6月28日から7月8日にかけて、「平成30年7月豪雨」と名付けられた集中豪雨は、西日本を中心に全国的に広い範囲で台風7号及び梅雨前線の影響で発生したため、一般的には「西日本豪雨」と呼ばれています。特に広島県、岡山県倉敷市、愛媛県などで甚大な被害が発生し、死者263名、行方不明者8名、家屋の全壊6,783棟、半壊11,346棟という大きな被害が出ました。

④ 北海道胆振東部地震

平成30年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」は、マグニチュード6.7、最大震度7で、死者43名、家屋の全壊469棟、半壊1,660棟という被害がありました。特に、土砂崩れにより山肌があらわになった個所が無数に映し出された映像が目には焼き付いています。

⑤ 房総半島台風と東日本台風

令和元年は台風の当たり年で、発生数29個、日本への接近数15個、上陸数5個はいずれも平年を上回りました。特に、9月9日に関東地方に上陸した15号「令和元年房総半島台風」は、千葉県を中心に、死者9名、家屋の全壊457棟、半壊4,806棟の被害のほか、広範囲に長期間の停電が発生するなど、首都圏やその周辺の台風被害に対する脆弱性が浮き彫りになりました。また、10月12日に上陸した19号「令和元年東日本台風」は、長野、神奈川、福島、宮城などの広い範囲で河川の氾濫を引き起こし、死者105名、行方不明3名、家屋の全壊3,229棟、半壊28,107棟の被害が出ました。身近な出来事としては、長野県の千曲川の氾濫により北陸新幹線車両基地が水没し、10編成120両が冠水しました。

⑥ 熊本豪雨

もっとも記憶に新しい災害としては、令和2年7月3日から31日にかけて、九州や中部を中心に日本各地で発生した「令和2年7月豪雨」が挙げられます。熊本県球磨川が上流部の人吉市など13個所で決壊・氾濫したのをはじめ、全国で死者82名、行方不明4名、家屋の全壊319棟、半壊2,009棟の被害が出ました。

(2) 公民館の果たす役割

このように多くの自然災害が発生しましたが、発生時の避難や被災支援、防災教育等で公民館が大きな役割を果たし、公民館の存在意義が改めて見直されました。

① 災害発生時の避難

東日本大震災で東北3県を視察した当時の全国公民館連合会（以下全公連と称する）役員から聞かれた声で印象に残っているのは、発生直後の避難行動において、避難誘導、避難所の設置や運営等、一定のマニュアルに沿った行政主導の支援活動も重要であるが、公民館という施設やそこに勤務する館長はじめ職員の働きが非常に大きかったというものでした。

行政の場合、役所やその出先機関は、必ずしも住民が日常的に出かける場所ではなく、そこに勤務する職員も窓口で接する住民は限定的で、互いに顔見知りというほどにはなっていないのが普通であるのに対し、公民館の場合、館長や職員は地域住民であったり近隣地域に住んでいたりするケースが多いため、地域の諸事情に詳しく、また、日頃の講座やサークル活動、地域巡廻等を通じて顔見知りになっている人が多いことが、緊急避難の際に大いに役立ったと言えるのではないのでしょうか。

このことは、発生から少し経過した後の避難所生活についても、お互いに顔の分かる集団が知恵を出し合いながら、生活しやすい環境づくりに取り組むことにもつながっていると思います。

古くは「てんでんこ」や「いなむらの火」、近年では「自助・共助・公助」などが、災害避難の際によく出てくるキーワードになっていますが、根本には日常的に互いに「顔が分かる」関係を築いておくことが重要なのだと思います。その意味で、公民館の存在意義は大きく、今後、南海地震などのプレート型大規模地震や全国に存在する活断層由来の直下型地震、あるいは、地球温暖化による巨大台風や今までに経験したことのない集中豪雨の多発が予想されることから、正しい避難行動のために、今まで以上に地域及びそこに住む人々との絆づくりが重要になってくると思います。

② 被災地支援

個々の公民館の役割のほか、公民館は全公連を通じて、被災地支援という面で力を発揮しています。①で東日本大震災の際に、全公連役員が東北3県を視察し、各県連や公民館を見舞ったとの記述をしましたが、それ以外も含め、激甚指定を受けた災害に対して、現地を訪問しています。

ア 東日本大震災

平成23年4月：岩手県（理事1、事務局次長1）、平成23年7月：福島県、岩手県、宮城県（以下東北3県）（会長1、事務局次長1、エコー総合補償サービス(株)（以下エコー社と称する）1）、23年10月：東北3県（事務局次長1）、26年11月：東北3県（事務局次長1、エコー社2）、27年3月：東北3県（事務局次長1）

イ 熊本地震

平成28年7月：熊本県（会長1、事務局次長1、エコー社2）、平成28年7月：大分県（会長1、事務局次長1、エコー社2）

ウ 西日本豪雨

平成30年9月：愛媛県（会長1、事務局次長1、エコー社2）、平成30年9月：広島県、岡山県（会長1、事務局次長1、エコー社2）

③ 特定災害見舞金制度

また、全公連ではエコー社と提携して、公民館総合補償制度を設けていますが、その中で②にあるような甚大災害に対して見舞金を支給する特定災害見舞金という制度があります。上記の被災地訪問のメンバーにエコー社が同行しているのはそのことによるわけですが、この制度の平成23年度から令和2年度（12月末まで）までの10年間の利用実績は下記の通りです。

ア 地震（東日本大震災は津波及び核物質汚染を含む）

- ・ 東日本大震災（H23～25：54件、2,700千円）
- ・ 熊本地震（H28～29：116件、5,800千円）※熊本県は制度加入館数が多いため、件数、金額とも東日本大震災を上回っている。
- ・ 鳥取中部地震（H28：15件、750千円）

イ 台風・集中豪雨

この期間内では、（1）の①～⑥に記載したほかにも多くの台風や集中豪雨が発生し、それらを厳密に区分することが困難なため、年度別の合計を拾うこととする。

- ・ H24～26年度：4件、200千円
- ・ H27年度（台風15号等）：40件、2,430千円
- ・ H28年度：15件、860千円
- ・ H29年度：5件、320千円
- ・ H30年度（台風21、24号、7月豪雨等）：43件、2,490千円
- ・ R元年度（台風15、19号、10月豪雨等）：51件、3,060千円
- ・ R2年度（台風10、13、15号、7月豪雨等）：21件、1,380千円

ウ 落雷、火災、雪害、その他

- ・ H23～R2年度：54件、3,700千円

ア～ウの総計：418件、23,690千円

※ エコー社では加入公民館であっても請求もれがあった可能性があるほか、未加入館も多いことから、実際の被害はこれよりかなり多いと見ているようです。

以上のことからあらためて総合補償制度のありがたみを感じます。今後とも大きな災害がないとは言えないことから、加入館においては請求もれとにならないようにすることは言うまでもないことですが、未加入館においてもこの制度についてあらためて検討してみる余地があるのではないのでしょうか。

④ 防災教育

災害について果たすべき公民館の役割として忘れてはいけないのは、住民が日頃から災害に備えて必要な心構え等を周知させるための学びの機会を提供することです。それは防災士や行政の災害担当部局の職員等を講師に、公民館の館長や職員、自治会役員等を対象にした高度な研修の他に、一般住民を対象にした説明会的なものもありますが、その標準的なプログラムは次のようなものになるかと思えます。

ア 避難方法

避難については①でも記述しましたが、これは実際に被害が起きた場合の留意事項として記述したものです。防災という面からも、災害を想定して適切な避難方法を学ぶことは重要です。何よりも命を守ることを第一に、避難所の選定、そこへの経路、特に要援護者への対応、安否確認の流れなどを適切に理解しておくことが大切です。

イ 身近な防災対策

食料や飲料水、懐中電灯、携帯ラジオ等の備蓄品、非常持ち出し品の準備とその定期的な交換、家具等の転倒防止対策、家屋の耐震診断と改修など、日頃から心がけておく重要事項を整理しておくことも重要です。

ウ 自主防災組織

往々にして、自治会と同じ顔ぶれで組織化を済ませているケースがあるようですが、そうではなく、防災という観点を明確にした組織として編成されなければなりません。公民館はその拠点としての重要な役割をもつことになるのが自然な流れではないかと思われます。

エ 被災地体験から学ぶ防災対策

わが国では、平成7年の阪神・淡路大震災を機に、災害ボランティアの活動が広まり、東日本大震災では非常に多くのボランティアが全国から被災地へ駆けつけました。本県からも、様々な団体がボランティアを組織して支援活動に取り組みました。こうした方々から現地でのいろんな体験を聴く機会をもつことも大いに有意義です。

オ 防災グッズづくり

避難場所は何かと不便な生活が強えられることから、手近なもので防災に役立つ物品を作る方法を学ぶこともよくプログラムに取り入れられています。新聞紙で作ったスリッパ、竹竿と毛布で作った担架、段ボール製の簡易トイレなどが有名ですが、この他いろんな防災グッズが開発されているようです。

3 人口減少時代に即した公民館活動

少子高齢化が言われて久しいのですが、いよいよ本当に人口減少時代に突入してしまいました。必然的に、国でも地方でもそれまで進めてきた施策が根本から見直されることになり、社会教育分野でも様々な変化が起きています。

(1) 人口・市町村数・公民館数の推移

5年ごとに実施されている国勢調査によれば、全国の人口は平成22年の128,057,352人をピークに減少に転じ、平成27年には127,094,745人になっています。(令和2年の国勢調査は未集計)

人口減のほか行財政改革の事情も加わって、市町村の合併が進行(平成の大合併)し、市町村数は平成11年の3,229市町村から平成18年の1,821市町村(その後は漸減)にまで減少しました。これに伴い公民館数も平成11年の18,257館から平成27年には14,171館にまで減少しています。特に注目すべきことは、市町村の中で公民館を設置している割合が91.7%から83.2%に落ち込んでいることです。

(2) 公民館施設の多様化

また、公民館の設置の仕方や名称にも変化が見られます。従来、教育委員会の所管であったものを首長部局に移管するとともに、名称をコミュニティセンター等に変更する例が全国に広がっており、予算の付け方、職員の配置などが大きな問題になっています。館長や公民館主事等、公民館運営のノウハウを有する職員から、首長部局人事による事務系職員の配置に代わり、講座企画が進まず、サークルの日程調整等、貸館的な役割しか果たせないようなケースもあるようです。残念なことに、全国ではこのことを理由に、県公連から脱退するという動きも見られます。

本県では、射水市で平成23年から公民館がコミュニティセンターに代わりましたが、各種講座やサークル活動など、生涯学習施設の機能が維持されており、引き続き県公連に加盟しています。また、南砺市では平成31年から他分野と統合された地域づくり協議会制度がスタートし、公民館は交流センター化されましたが、ここも、引き続き生涯学習機能は維持され、県公連にも加盟しています。このほか、令和3年度から魚津市や黒部市でも類似の形に代わるとのことですが、上記2市同様、実質的に現在行われている講座やサークル活動等が維持され、引き続き県公連の仲間として活動されることを期待しています。

(3) 人口減少時代の地域づくり

こうした人口減少時代にどう対処するかを議論して出されたのが1(4)の③で紹介した平成30年中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」です。内容の重複は避けませんが、気になることがいくつかあります。

まず、様々なキーワードで象徴される新しい時代というものがやや漠然と感じられ、その捉え方が社会教育関係者の間で共有されているかどうかという点で懸念があることです。例えばSDGsについて、持続可能な17の目標については誰もが認めるところではあると思いますが、では具体的にどのようにアプローチするかということはあまり議論が深まっていない気がします。我々としても的確な問題意識をもって取り組んでいくことが重要だと思います。

また、社会教育施設を地方公共団体の長が所管できる「特例」についてですが、(2)の公民館施設の多様化で指摘したとおり、従来の生涯学習機能の維持など、教育委員会が所管する中で

ブロックを除いては中止・延期・誌上開催等を余儀なくされました。その意味では令和3年度以降の開催内容が重要になってきますが、令和4年度に東海北陸ブロック大会を開催する予定になっている本県としても、新しい企画を工夫することが求められています。



4 新型コロナウイルス感染症と公民館活動

最後に今後の公民館活動を考える上でどうしても避けて通れないのが、新型コロナウイルスによる感染症の影響です。令和元年12月に中国湖北省武漢市で発生したとされる新型コロナウイルスによる感染症は、瞬く間に全世界に広がり、わが国でも、令和2年1月16日に初めての感染者が発表されて以後、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客の大量感染など、全国各地に広がり始め、2月28日からの小中高校の一斉休校、4月7日からの7都府県に対する緊急事態宣言（16日に全国に拡大）など、かつてないような政策が取られました。5月25日の解除後も夏から冬にかけて第2波、第3波といった感染状況に合わせて、政策を強めたり緩めたりしながら現在に至っています。本県においては、当初全国でも珍しい感染者ゼロ県の状況が続いていましたが、3月31日に初めての感染者が発表されて以降、徐々に感染者が増加し、高齢者施設や保育所等、いくつかのクラスターも発生して、令和3年1月中旬現在で800人を超えました。

こうした社会状況に連動しながら公民館活動が辿った道筋をなぞり、今後の方向を探ってみたいと思います。

(1) 公民館の臨時休館

4月の緊急事態宣言によって、4月中旬ごろから各市町村では公民館の臨時休館の措置が取られました。本県の場合、多くは5月下旬まで続きました。この期間、まったく公民館の機能は停止されたほか、県公連や各市町村の連絡協議会では、年度当初の組織立ち上げに関する機関会議を書面会議にするなど、苦しい対応を余儀なくさせられました。

(2) ガイドライン

5月下旬に緊急事態宣言が解除されたことから、公民館活動も徐々に活動が再開可能になりましたが、どの程度までの活動が許されるかの判断を個々の公民館に任せていたのでは混乱が予想されたことから、全公連では文部科学省と協議の上「公民館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を策定し、5月14日付けで公表しました。（以後、5月22日と10月2日に一部改訂）この中では、密閉、密接、密集のいわゆる3密を避けることの徹底を基本的な考え方とした上で、接触感染リスク、飛沫感染リスク、集客規模のリスク、地域における感染状況のリスクを十分に評価して対応すべきとして、マスク着用、手洗い・手指消毒、咳エチケット等の順守という基本的な対策とともに対人距離最低1m、平熱+1度以上の体温がある場合の来館制限など、具体的な数字も挙げてあります。

(3) 月刊公民館の特集

全公連が発行している「月刊公民館」では、令和2年9月号と10月号の2回にわたって、「新型コロナ禍における公民館活動」と題した特集を組み、実践事例や論考を紹介しています。講座を動画で作成して配信する「オンライン講座」、講座の全てをオンラインとするのではなく、感染リスクを下げるためいくつかの少人数グループに分けるオフラインも併用した、いわば「ハイブリッド型の講座」、既存の公民館ではなく、テレビ会議アプリによる交流を目指した「オンライン公民館」などの事例が掲載されていますのでぜひご一読ください。

(4) 北海道大会

3の末尾で触れたとおり、令和2年度の全国公民館研究集会以参集の形で開催されたのは北海道ブロックだけでした。コロナ禍が少し落ち着いた10月開催だったとはいえ、開催に踏み切るには大きな決断があったと思われます。壮瞥町役場に隣接した地域交流センターがメイン会場でしたが、参加者を大幅に削減して100名程度にしたこと、会場でのマスク使用、手指消毒、検温などを徹底したこと、登壇者のマイク使用にも配慮したことなど、きめ細かい心配りがなされていました。プログラムの上では、「公民館が拓く北海道の未来」をテーマに展開されたシンポジウムでは、遠隔地の標茶町にサテライトを設け根釧支部の会員に集まってもらったほか、会場に陣取った壮瞥高校やりモートで参加した6校の高校生がシンポジウムに参加しました。首都圏大会の成果が早速表われていたように思います。

(5) 朝日町教育委員会の実践

令和2年11月に開催した県公連主催の「富山県公民館館長研修会」は、当初9月上旬の予定でしたが、2か月先延ばしして11月16日に新川文化ホールで開催しました。この中で「コロナピンチを学校改革のチャンスに」と題して講演していただいた朝日町教育委員会木村博明教育長のお話は、オンライン授業や保小中一貫教育、デジタル教科書、教員の働き方改革など、コロナ禍にあって国や県の動きを先取りする意気込みで様々な改革に取り組まれた様子が伝わり、学校現場と社会教育とのフィールドの違いを越えて、大いに参考になるものでした。

(6) 全国公民館セミナーと富山県公民館主事・指導員等研修会

毎年1月下旬ごろに開催している全公連主催の「全国公民館セミナー」は、当初1月20日から2泊3日で開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、YouTube配信によるオンライン開催に変更されました。3月1日から3日までの間に、予定していたプログラム内容を収録し、3月中旬に公開されました。「新しい公民館のカタチーコロナに負けない公民館活動―」をテーマに、「新しい公民館活動を探るため、公民館はこれからどうあるべきか、またコロナ禍における公民館運営について」などを検討する内容です。文部科学省横井理夫地域学習推進課長の講話、東京大学大学院牧野篤教授の集中講義とNPO法人こえとことばとこころの部屋上田假奈代代表、那覇市繁田川公民館南信乃介館長を交えたシンポジウム、那覇市若狭公民館宮城潤館長によるワークショップ、お笑い芸人に学ぶコミュニケーション術などが盛り込まれています。

県公連では、このセミナーの公開に先立ち、2月26日に開催した「富山県公民館主事・指導員等研修会」で、その時点までに全公連事務局から提供された内容を編集して、県公連本田正則事務局長が同名のタイトルで報告しました。この様子については県公連のホームページ上にYouTubeで公開されていますので、是非ご覧ください。

(7) ウィズコロナとポストコロナ

コロナの収束がなかなか見通せない今、コロナ対策を十分に取りながら活動するウィズコロナの時代がまだしばらく続くのはやむを得ないとして、いつかコロナが鎮まり公民館本来の活動が可能になるポストコロナを見据えた準備をしておく必要があります。

特に強調しておきたいのは、ウィズコロナでやむを得ず取った対策の中に、意外な収穫も見いだせたのではないかとことです。典型はデジタル化の広がりでしょう。日本の外国語教育で、中学校から大学まで何年も学んでいるのに、実際に外国の人との会話には役立たないということがよく言われますが、デジタル教育でもよく似た現象があります。学校に情報教育というのが導入されたのはずいぶん前のことになりますが、情報機器の全員配布が実現困難だったり、指導者を育成する部分が遅れがちだったりして、なかなか本格的な広がりにつながらなかったという印象があります。ところが、今回のコロナ禍にあって、上記の朝日町の例にあるように、オンライン授業やデジタル教科書などが一気に普及に向けて動き出しました。

このほか、様々な場面で従来気が付かなかった学びのスタイルが工夫されています。これをこの時期の一過性のものとして切り捨てずに、普通の生活の中でも役に立つのではないかと考える柔軟な思考が求められているのではないのでしょうか。

おわりに

ここまで過去10年を振り返りながら、その中に芽生え始めた新たな動きを探ってみました。その中で思い至った言葉があります。教育の現場でよく用いられる「不易流行」です。

言うまでもなく「不易」は「ずっと変わらないこと」であり、「流行」は「その時々に合わせて変えていくこと」ですが、どちらが大事というわけではありません。「去来抄」の中で芭蕉が残した言葉として「蕉門に千載不易の句、一時流行の句と云う有り。これを二つに分かって数えたまえども、その基は一つなり。不易を知らざれば基立ちがたく、流行をわきまえざれば風新たならず」という言葉が記されています。教育の世界に翻訳すれば「子供たちの現状や教師の力量に基づいて、流行的側面を取り入れた不易の教育が大事だ」ということではないかと思えます。

今後、様々な社会変化に応じて社会教育の理念や手法が変化すると思いますが、単に新しいとか改革だとかということでは、一時のブームで終わってしまいます。新しいものの中にいつの世にも通じる堅固な芯になるものがなければならぬということではないのでしょうか。

II

富山県公民館連合会創立70周年記念 第14回富山県公民館大会

1 大会概要

- (1) 趣 旨
- (2) 日時・会場
- (3) 記念式典
- (4) 実践発表
- (5) 基調講演
- (6) 創立70周年記念 パネルディスカッション
- (7) 閉会式

2 基調講演

社会が大きく変容する中で持続可能な地域づくりの推進のために
～北海道公民館振興首長会構想から5年～

全国公民館連合会理事
北海道平取町前町長

川 上 満 氏

1 大会概要

(1) 趣 旨

近年、本県においても自然災害の多発や少子・高齢化、過疎化、ライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染予防等、地域を取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、これまで培われてきた地域コミュニティの活力の低下が心配されている。

公民館は住民にとって最も身近な社会教育機関、住民がつどい・まなび・むすびあう場である。県内各公民館では、これまで、地域の文化・暮らし、自然・風土等それぞれの特性を踏まえ、心豊かで安心して住むことのできる地域をつくる活動や住民の学習意欲、連帯感を高める事業を広く展開してきたところである。

これからの公民館は、今まで以上に学校、家庭、地域との連携を図り、公共の精神を高め、地域の連帯感を深め、地域住民の協働による地域課題の解決や地域活性化の取り組みを促進すること、そして、公民館が地域づくり・人づくりの拠点となることが期待されている。

ここに県内の公民館関係者が一堂に会し、人々のニーズ、地域社会の要請等によりの確に対応できる活動の在り方について理解を深めるとともに、学習環境や地域協働体制整備に係る課題等について研修し、公民館関係職員としての資質の向上を図ることを目的として本大会を開催する。

(2) 日時・会場

令和2年11月26日(木) 13:30～ 富山県教育文化会館 ホール

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため参加者数を例年の70%に絞り、参加者は254名であった。

(3) 記念式典 13:30～14:05

※ 司会は、富山県公民館連合会 金谷明菜 評議員、岩坪智恵子 評議員が務めた。

- 来賓紹介 富山県知事 新田 八朗 様
(代理：富山県教育委員会教育次長 坪池 宏 様)
- 富山県教育委員会教育長 伍嶋二美男 様
(代理：富山県教育委員会生涯学習・文化財室室長 吉田 学 様)
- 富山県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班班長 辻 ゆかり 様

●「公民館の歌」斉唱

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため心の中で斉唱した。

●開会挨拶 全国公民館連合会会長・富山県公民館連合会会長 中西 彰

※ 会長から、「創立60周年の節目から今日までの10年間のポイント」として、三つのことが伝えられた。

「一つ目は、東日本大震災を始めとする自然災害の多発により、防災拠点としての公民館の存在意義が見直されていること。二つ目は、少子高齢化による人口減少の時代において、社会教育はどうあるべ



きか。三つ目は、新型コロナ禍におけるウイズコロナの公民館活動及び終息後を見据えたポストコロナの公民館活動の工夫はどうあるべきか。この三点については、10年後、20年後、創立100周年を見据えて考えていかなければならないのではないか。」との挨拶があった。

●表彰式

<全 国> 優良職員表彰 1名
 永年勤続職員表彰 18名

※ 第42回全国公民館研究集会・第56回東海北陸公民館大会福井大会が、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和3年度に延期となった。東海北陸大会の表彰は、来年度の大会で今年度の分と合わせて2ヵ年分表彰することとなった。全国の表彰は、本大会において全国公民館連合会の中西会長より表彰状を伝達した。



<富山県> 優良自治公民館 4館
 永年勤続職員表彰（20年以上） 2名
 永年勤続職員表彰（10年以上） 20名

●来賓祝辞 富山県知事 新田 八朗 様

※ 代理として出席の坪池宏富山県教育委員会教育次長から、知事祝辞が代読された。公民館における青少年の地域活動、世代間交流、子育て支援、環境保全等の活動を通じて、地域の活性化や地域課題の解決に力を注いできたこと、子供たちのふるさとの学びや身近な自然体験活動とともに、地域課題の解決に向けた「学び」のモデル的な活動に取り組んできたこと、県内公民館関係者の熱意と尽力によって、本県の社会教育や地域の絆づくりが着実に推進されていることなどを評価し、今後の地域の教育力の向上、教育環境の充実、子供から若者、高齢者まで、心がふれあう温かい地域づくりへの期待が述べられた。



(4) 実践発表 14:10~14:45

<発表題> 「東加積の自然と歴史に親しむ会及び地域マップの作成について」

<発表者> 滑川市東加積地区公民館 館長 阿部 一明 氏

① 主題について

「東加積の自然と歴史に親しむ会」は、平成19年に企画され、地域住民は勿論、子供や転入して来られた方々に、地域を知り親しんでもらい、郷土の魅力を再発見してもらうことが目的である。

② 実践事例

「自然と歴史に親しむ会」は、小学5年生と地域住民から参加者を募り、バスで地域を巡る。小学5年生を対象にしたのは、4年生で「椎名道三」について習うので、道三の功績である「室山野用水」等を見て学んでほしいという思いからである。地域マップ作成に当たり気を付けたことは、一枚に見やすく、農村の歴史も踏まえ用水も記入した。昔話など興味が湧く話題や椎名道三についても詳しい説明を入れ、マップ600部を作成し全戸配布した。

③ 成果と課題

この事業を10年以上続けているので、子供たちは紹介した史跡等の存在を知っている。逆に大人の方が知らない。作成した地域マップを活用し、子供が大人に説明しながら、お互いに地域の宝をよく知り、愛着をもってもらいたい。そのための活動をこれからも続けていく。

(5) 基調講演 14:55~15:25

① 演題

社会が大きく変容する中で持続可能な地域づくりの推進のために
～北海道公民館振興首長会構想から5年～

② 講師

全国公民館連合会理事
北海道平取町 前町長 川上 満 氏

③ 基調講演

※ 内容は、次ページから掲載

(6) 創立70周年記念 パネルディスカッション 15:40~16:50

① テーマ

「新しい時代の公民館活動」

<視点>

- ア 自然災害の多発に備えた防災拠点としての公民館
- イ 人口減少時代の新しい地域づくりとしての公民館の役割
- ウ 新型コロナ禍における公民館活動

② パネリスト

全国公民館連合会理事・北海道平取町前町長 川上 満 氏

富山県教育委員会生涯学習・文化財室室長 吉田 学 氏

富山県公民館連合会副会長・高岡市立成美公民館館長 高井 清高

コーディネーター

全国公民館連合会会長・富山県公民館連合会会長 中西 彰

③ パネルディスカッション

※ 内容は、30ページの「Ⅲ 創立70周年記念 パネルディスカッション『新しい時代の公民館活動』」に掲載

(7) 閉会式 16:50~

●閉会挨拶 富山県公民館連合会副会長 高井 清高



2 基調講演

社会が大きく変容する中で持続可能な 地域づくりの推進のために ～北海道公民館振興首長会構想から5年～

全国公民館連合会理事

北海道平取町 前町長 川上 満 氏



【プロフィール】

昭和26年1月8日生まれ／平取町生まれ

昭和49年4月 平取町職員採用

平成7年4月 社会福祉協議会事務局長

平成10年4月 企画課長

平成13年4月 総務課長

平成19年4月 副町長

平成20年7月3日 町長に就任

令和2年7月2日 3期12年任期満了により退任

平成27年4月～令和2年4月 北海道公民館協会会長

平成28年6月～現在 全国公民館連合会理事

平成30年7月～現在 公民館振興首長会理事

はじめに

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました北海道平取町の川上 満でございます。どうぞよろしくお願いいたします。今日、皆さんの前でこうしてお話できる機会を頂きましたことに、感謝を申し上げたいと思います。また、本日は富山県の公民館連合会創立70周年記念 第14回富山県公民館大会のご盛会、誠にありがとうございます。

さて、私は、町長職を今年の7月2日まで3期12年務め、任期満了により退任をいたしました。退任して5カ月目となりますが、役場に勤めて職員と特別職を通算すると約47年間、約半世紀にわたってふるさとで働くことができたことは、大変、喜びの極みだと思っていますところでは。

役場に入ったとき、最初の勤務地が教育委員会で、本庁中枢の機関から約25km離れた振内という町の社会教育係に配属されました。約3,000人の集落で、職員一人と掃除のおじさん・お婆さんがいる職場でした。前任者はベテランの社会教育主事でしたので、私が赴任しますと、地域では「この若造に何ができるか」というような雰囲気でした。プレッシャーはありましたが、これはやはり「論より証拠」だと。口よりも先に行動に移した方がいいだろうと。また、振内町には、営林署、鉄道、木工所やいろいろな職場などもありましたので、毎日、地域回りではありませんが、日課のようにそちら

に顔を出しながら、顔を覚えてもらうようにしました。そういう中で社会教育に関わるスポーツや文化活動に必要な指導者発掘も行ったわけです。おかげで地域との絆が少しずつでき、振内で勤務して4年目に、社会教育主事の講習を受けさせていただきました。

これから専門職として取り組んでいこうと考えていましたが、5年目に突然、一般行政職である企画課の方へ人事異動があり、相当ショックを受けました。組織というのは辞令1本でどこへでも行かなければいけないということでございます。

その後、本庁に戻りまして30数年間勤めました。プロフィールを見ていただくと分かるように、企画課では町総合10カ年計画等、いろいろな計画の作成に関わりました。企画課で係長と課長を10年務めたところで、「君はもう計画はいい。今度はその裏付けとなる財政について勉強せよ」というようなことで総務課の財政係長、総務課長となって総務課で16年と併せて26年間内部の仕事をしてまいりました。

その経過の中で町長への出馬要請があったわけですが、産業課などであれば地域といろいろと顔をつなぐことがあります。地域との密接な付き合いがなかったものですから、町長に出馬することになったときに一番先にお願ひに行ったのが振内町です。そうすると、「川上が立つのであれば応援するよ」ということで、すぐに後援会が設立されました。その後、15の自治会、集落でドミノ倒しのようにならなうと後援会ができて、応援を頂いて現在に至っております。

振り返りますと、本当に社会教育のおかげ、人とのつながりによって、町長になったのかなと思っています。この縁で北海道の公民館協会に関わりをもつことができ、多くの方と出会いながら、本当にいろいろなことを学ばせていただいたことは、私の財産ではないかと思っています。現在は北海道の公民館協会の相談役として、また、全国の公民館連合会の仕事もさせていただいております。中西会長には全国の公民館連合会でお会いさせていただき、一緒に仕事をさせていただきながら、大変お世話になっております。10月の中旬に北海道で研修会を行いましたけれども、会長さん自ら来ていただいて、その後、平取にもお越しいただきました。

今日は資料として、二つほど用意しております。一つは、公民館の首長会を構想して5年目になる経過についてのお話。もう一つは、パネルディスカッションの中で平取町のまちづくりを12年間やってきたことについて、パネリストとしてお話をしたいと考えております。

平取町の概要

それでは最初に、平取と言ってもどこなのか。よく「ひらとり」と言われますが、「びらとり」です。場所ですが、平取町はこの塗っている所です。この下が、えりも町です。北朝鮮のミサイルが飛んできたのはこのえりもです。千歳空港から約1時間の所にある町で、北海道の中でも道南の位置

1. 平取町の概要



- 人口 4,883人 (男性2,379人、女性2,504人)
- 世帯数 2,519戸 ※令和2(2020)年5月末現在
- 面積 743.09km²
 - 田(2,012.45) 畑(2,225.21) 宅地(289.90) 山林(61,013.44)
 - 原野(2,925.95) 牧場(715.10) 雑種地(513.00) 池沼(9.49)
 - その他(4611.39)
- 気温 平均 7.7℃ 最高31.0℃ 最低-25.0℃
- 気候 夏は涼しく少雪で北海道の中では比較的温暖

でございます。そして、皆さんもご存じのとおり、平成30年9月6日胆振東部地震があり、震度7強の大きな震災がありました厚真町、むかわ町の隣町です。平取では幸いにして亡くなった方はおりませんけれども、役場庁舎のガラスが割れるなど、震度6弱の大変な地震があった地区です。

簡単に平取の紹介をさせていただきます。平取町の名前の語源はアイヌ語の「ピラウトゥル」で、それが「ピラウトゥル → ビラトリ」と

なりました。「ピラ」は「崖」、「ウトゥル」は「間」という意味で、両崖に挟まれた町ということです。ですから、農地面積は少なく、人口4,800人の小さな町ですが、兵庫県の淡路島より大きな面積を有しており、その約80%を森林が占めている自然豊かな町です。北海道の中でも雪は少なく、町の中央を沙流川が流れ、肥沃な大地とミネラル豊富な水源により、おいしい農畜産物がたくさん採れる町です。

基幹産業は農業で、北海道一のトマトの産地になっておりますし、びらとり和牛や寒締ホウレンソウ、黒豚、キュウリ、お米などの農畜産物も生産しております。

また、古くからアイヌの人々が暮らし、希少な伝統文化が引き継がれている町です。

(1) 公民館の誕生

それでは、公民館協会で首長会を立ち上げてきた経緯について、時系列で話を進めさせていただきたいと思います。

はじめに、公民館の誕生につきまして、釈迦に説法になりますけれども、若干触れたいと思っております。戦後の公民館構想を政策として打ち出したのは1946年（昭和21年）の「寺中構想」です。敗戦直後の各地の町・村の郷土づくりの取組が進められていることを踏まえながら、さらに推し進めるために公民館設置の奨励がされたと聞いています。この構想は当時の文部省公民教育課長、後の社会教育課長であった寺中作雄氏らが作成し、まとめられたものです。それが「寺中構想」と呼ばれるようになっていきます。

「寺中構想」によりますと、公民館というのは第一に社会教育機関であるということ、二つ目には地域の交流機関であるということ、三つ目には町村自治振興の機関であること、四つ目には産業振興の機関であること、五つ目には新しい時代に処すべき青年の養成に最も関心をもつ機関であることと示されています。住民生活の様々な側面に対応した中核的機関として公民館が構想されていることが分かります。

公民館の設立当初は、公民館を中心に地域は動いておりました。さらに言うと、首長がその当時は館長を兼ねていた時代だと聞いております。その後、教育委員会制度の誕生、あるいは社会教育法の制定によりまして、教育行政は一般行政から独立する動きとなり、専属の館長が設置されるなどしたことで、公民館の底力が徐々に力が弱まっていったのではないかとされています。

公民館は戦後の荒廃の中で構想され、1960年代、昭和35年当時に、急速に広がりました。しかし、平成の大合併以降、公民館は減少し続けており、平成27年度の文科省の社会教育調査によりますと、平成11年度には全国で1万8,000館あった公民館は、平成27年度には1万4,000館と22%ほど減少しています。これを北海道で申しますと、平成11年度には590館、平成27年度は396館ということで、33%ほど減少しています。その要因はそれぞれの市町村によって異なりますが、人口減少時代を迎え、地域のコミュニティが希薄化していく中で公民館の役割はますます大事になっていくということで、危機感をもっているところです。

(2) 課題

現在の公民館の課題は、教育委員会と首長部会に見えない壁ができて、地域課題に直面した取り組みが北海道では減少しており、講座中心主義、さらには団体への貸し館が主流になっていることかと思っています。

次は北海道の課題です。特に北海道は全国を上回るスピードで人口減少が進んでおります。これまでマスコミ等で数々話題になっておりましたが、日本創成会議の人口減少問題検討分科会により

ますと、平成26年6月に公表されましたが、2040年、あと20年ですが、この推計によると人口の自治体の約半数、全国の市町村数は1,741となっていますが、これがこのままの状態では推移すると半分になるのではないかと。消滅する恐れがあるという内容の公表がありました。北海道においては特に全国を上回るスピードで人口減少が進行しており、地方の消滅そのものを現実的な危機として認識しながら、国が進める地方創生として総合戦略が作成され、これまで以上に各市町村が積極的に取り組まれているところです。しかしながら、過疎法に基づきながらこれまで何十年もかかって人口減少対策を行っておりますけれども、人口減少に効く特効薬はなかなか見付からないという状況です。地方創生はやはり「ひと」が中心であり、地方で「ひと」をつくり、「ひと」が仕事をつくり、「まち」をつくることとなります。地方創生の原点は、やはり人づくりだというふうに思っております。そういった意味で子供たちにはふるさとに誇りをもち、愛郷心をもちながら、将来はまちを支える人に育ってほしいと願っているところです。

特に人口減少になりますと、まちの自主財源である町税が減ります。なおかつ、保育園や幼稚園、学校の児童生徒数も減り、さらには地元購買力も下がり、地域のコミュニティも低くなるなど様々な影響が出ています。そういった意味においては、本当に北海道の場合は、どちらかという行政依存が強い地域ですので、これから脱却しながら、地域の課題は地域自らの力で解決する自治の力といえますか、地域力を高め、側面から行政が応援する、やはり住民主体のまちづくりが、消滅しないまちづくりになるのかなと思っているところです。

そういった意味で、自治の力が消滅しないためにも、自治会やあるいは学校、PTA、民生委員など様々なコミュニティが結集し、地域の課題、将来について話し合い、地域の目的を共有しながら、みんなで支え合うまちづくりが求められています。公民館はそのコーディネート役として、果たす役割は大きくなっているものと思います。今年は新型コロナウイルス感染がまだ終息しておりませんが、ポストコロナを想定していかなければならないと考えております。

(3) 公民館振興首長会設立の経緯

次に、公民館振興首長会設立の経緯です。私は町長として3期12年働かせていただき、まちの活性化に向けて様々な取組をしております。この間、この公民館協会の仕事をさせていただき、やはりまちづくりは人づくりだなど。いくら建物を建てても魂を入れなければなかなか効果が出ないということで、その重要性をあらためていろいろな研修、さらには、多くの出会いを通じて気付かせていただきました。この気付きは自分だけでは駄目で、もっともっと他の首長にも気付いてもらわなければならないということで、声掛けを随分としました。本物の人づくりに公民館としてしっかり取り組むべきではないかというのが、一つのきっかけとしてありました。

2点目は、平成27年4月に教育制度が大きく改革され、首長と教育長、教育委員等が連携しながら教育大綱を作成することが定められました。教育に関する重要事項について、首長も入って協議されることになり、首長（市長、町長、村長）はこれまで以上に教育に関心をもって教育をどう進めていくか、しっかりと方向性を出さなければならない時期を迎えたということも動機になりました。

それから3点目は、人口減少に直面しているという話は前段に申しましたが、人口が減るということは、町の税収が減ることにつながります。ということは、これまで以上には公共サービスがよくなるということですか。ということは、今まで行政がやってきたことを地域住民が自分たちで担わなければならない時代が間もなくやってくるということだと考えて、10年、20年先を見据えて地域の課題は地域で解決する。そういった住民主体のまちづくりが重要だという思いが、日

増しに強まってまいりました。

そういったようなことから、平成28年の公民館協会の定期総会におきまして、これからの時代は首長が教育にも地域にも積極的に関わらなければ、町が衰退していくのではないかという危機感をみんなで共有していただき、まずは公民館協会の組織の中に首長部会を設置してはどうかと提案して満場一致で可決を得て、同年7月に第1回目の首長の研修会を開催し動き出しました。

最初はどれだけ出席されるか心配しておりましたけれども、1回目の研修には約30名の町長、村長と、都合の悪いところは教育長等が全道各地から参加して頂き、公民館の大切さをあらためて確認したところです。この研修には、山形県の町長にもご参加頂いています。

そして、平成29年度に2回目の研修会が開催され、前年を上回る64名が参加しての研修となりました。そして講演が終わった後の意見交換の中で、これは単なる研修会に留めることなく、さらなる発展を目指して公民館協会から独立した形の組織を立ち上げてはどうかというご意見を頂きました。それを受けて検討委員会を立ち上げることになり、検討委員会のメンバーは事務局に一任して頂いて5名の市町村の首長を選考し、10月31日に1回目の独立した組織のための検討委員会を開催して、目的や今後の進め方等々について検討・協議しました。

検討委員会のメンバーは、委員長には言い出しっぺの私、平取町長、委員には釧路市長、東神楽町長、余市町長、更別村長で、スケジュール感としては年度内3回程度でまとめ上げようということを確認し、1月11日に2回目の設立のための検討委員会を開催して、会則等について検討・協議を行いました。

そして翌年、平成30年6月1日、第3回の検討委員会で事業内容等について最終調整をし、7月11日に正式に公民館の振興首長会設立総会が開催され、初代の会長に東神楽町の山本町長が就任して現在に至っています。公民館協会と首長会が車の両輪となって進められているところです。

(4) 公民館振興首長会の目的

次に、公民館の振興首長会の目的です。ここまででお話ししたように、人口減少や地方消滅、あるいは地域経済の衰退、地域のコミュニティの衰退等々により、地域には様々な課題が山積しており、行政の力だけでは解決できないことがたくさん出てきたということで、将来を見据えて早急に対応していこうといった背景の下、公民館振興首長会は社会が大きく変容していく中で持続可能な地域づくりを目指すことを目的としています。

主な活動としては、全国の先進地の事例等に学ぶこと、そして情報交換、いろいろな悩みを首長同士で話し合うこと、また、必要に応じて新たなプロジェクトの推進を図り、今後進めるべき政策の在り方等について、必要に応じて国あるいは道へ提言していきたいと考えています。その他には、年1回、北海道教育委員会の教育長と幹部と首長会の役員、それから希望者を募って意見交換会を開催しているところです。

(5) 研修会のテーマと内容

これまでの研修会のテーマと内容です。第1回の研修は平成28年度に行っています。NPO法人教育支援協会代表理事の吉田博彦先生を講師としてお招きし、「地域の元気な人づくりを」をテーマに、地域の未来は人と人との関係性の構築であり、地域社会の自立に向けた施設活用や地域産業あるいは雇用の創出を設計することが社会教育の役割であるというようなお話、また、失敗すればその地域は間違いなく消滅するという非常にインパクトの強いお話を伺って、地方創生を進める中で、教育との関わりとともにまちづくりのコーディネーター役として公民館の活用をどう進めるかに

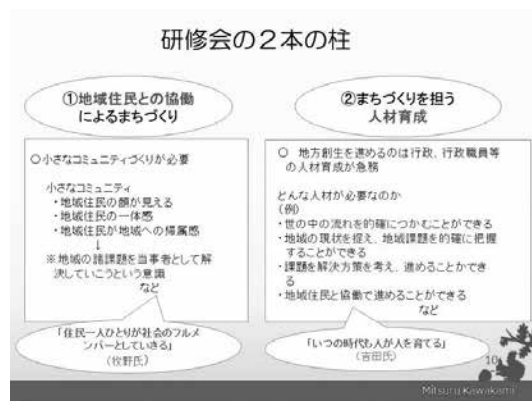
ついて研修しました。さらには、首長の意見交換にも重点を置いているところです。

2回目以降は、東京大学教育学部の牧野 篤教授をはじめ、自治公民館活動の先進地である宮崎県綾町の前田 譲町長にも来ていただき、いろいろな話をさせていただいています。終了後には研修会に参加した首長等から「本当に出席してよかった」という声が事務局に寄せられ、ある町では社会教育の予算を少し増やしながらしっかり取り組んでいきたいというありがたいお話もあったところです。

研修会の柱は2本あって、一つは地域住民との協働によるまちづくりです。やはり行政主導ではなかなか動かないといえますか、住民参加なくしてまちの発展はないと考えています。

もう一つはまちづくりを担う人材育成で、その重要性について講師の先生にお話をしてもらっているところです。

今年度、北海道では社会教育主事講習を6月から開催しておりますが、公民館協会に関わるメンバーも講師となって協力しながら、社会教育のマンパワーを育成しようと取り組んでいるところです。



(6) 成果と課題

これまでの成果と課題で、まだお話しできるようなところまでいっていない状況ですが、少し公民館の方に顔を向けて頂けたというようなことで考えますと、平成26年8月時点では公民館協会に加盟していた団体数が69市町村でした。これが30年度には80市町村ということで、11増えていきます。しかしながら、北海道は広くて全体の市町村数が179あり、まだその半分に満たない加入率ですので、今後ともさらに加盟団体を増やしたいと考えております。

また、首長会の会費については、現在は各市町村とも財政状況が厳しいことから、会費を取らず、公民館協会に依存している状況です。何とか一定程度軌道に乗った時点で、会費徴収について、あらためて協議することとしております。また、首長会の事務局については、北海道教育委員会に担当してもらうように北海道の教育長に談判して、今は北海道教育委員会の社会教育担当の職員に事務局をもっていただいています。自立した体制もっていくことが課題なのかなというふうに思っているところです。

今後の方向性について、4点ほど挙げています。

まずは、やはり研修会に参加してよかったというだけではなくて、そこで得た成果をそれぞれの地域で実践していくことが1点です。

2点目は、加盟市町村の拡大を図ること。

3点目は、全国の先進事例に学びながら情報交換し、課題解決に当たっていくこと。

そして、4点目が財政的な自立で、首長会として独立していくためにも、今後、会費を徴収して公民館協会への依存から脱却していこうと考えているところです。

現在、公民館協会と首長会で検討しているのは、北海道は非常に面積が広くて、どこか1カ所で研修会をやろうとすると、飛行機で釧路から千歳、あるいは札幌の丘珠空港に来なければならないような距離がありますし、宿泊ということになると町の予算等も限られているため出席者に限度があるというようなことから、コロナを契機に、北海道には出先機関が14ブロックあり、その振興局

がございますので、ブロックごとにオンラインを結んでの研修も検討していきたいと考えているところですが。

おわりに

最後に、本日、皆さんの前でお話しして、どれだけ伝わる話になったか分かりませんが、今年には特に予想もしないコロナ感染が長引き、大変な時期を迎えております。

しかし、いつも私が思っているのは、この「大変」という字は、「大きく変える」チャンスでもあります。ピンチをチャンスに変えながら、本当に元気な、地域の人々が地域で誇りに思えるまちをつくっていくためにも、これからは公民館が頑張らなければならないというふうにも思っておりますし、首長振興会もまだ試行錯誤を繰り返している発展途上の段階です。

今後とも、今日お集まりの皆さんをはじめ、多くの方々のご指導を賜わりながら、よりよい組織にしていきたいと思いますと考えております。今後とも首長の輪を広げながら、全国の模範となるように最大の努力をみんなで進めてまいりたいと思っております。

III

創立70周年記念 パネルディスカッション 「新しい時代の公民館活動」

パネリスト

全国公民館連合会理事

北海道平取町前町長

川 上 満 氏

富山県教育委員会

生涯学習・文化財室室長

吉 田 学 氏

富山県公民館連合会副会長

高岡市立成美公民館館長

高 井 清 高

コーディネーター

全国公民館連合会会長

富山県公民館連合会会長

中 西 彰

創立70周年記念 パネルディスカッション 「新しい時代の公民館活動」

<視点>

- ア 自然災害の多発に備えた防災拠点としての公民館
- イ 人口減少時代の新しい地域づくりとしての公民館の役割
- ウ 新型コロナ禍における公民館活動



中西 この後の進め方ですが、大きく二つの内容で進めようと思っております。第1ラウンドは「これまでの活動から」ということで、パネリストの皆さんご自身の自己紹介も兼ねまして、これまで活動してこられた中から主な内容を皆さんにご紹介してもらおうと思っております。第2ラウンドはテーマになっております「新しい時代の公民館活動」ということで、それぞれのお立場で現在お考えのご意見を出してもらおうと考えております。

早速ですが、第1ラウンドに入りたいと思います。

これまでの活動から



川上 私は行政経験が長いものですから、特に行政として力を入れてきた「平取町のまちづくり—食と文化のまちづくり—」について説明させていただきたいと思っております。

特に力を入れてきたのは、先人が築き上げてきた基幹産業を強化することです。そして、自然を大切にすることを大切にする文化を大切にする文化は、まちを発展させるものであると考えて、自然と共生するアイヌ文化振興に重点的に取り組んできたところです。

びらとりトマトの生産は、昭和47年の、国の米余りによる転作奨励に基づい

て、アスパラにするか、長芋にするか、キュウリにするかというようなことでいろいろ試行錯誤した結果、トマトにこだわってやっています。昭和47年に6戸の農家から始まり、現在は164戸で、7年連続で40億円を上回る生産・販売額を達成しております。北海道一のトマトの生産地になっており、1農家当たり生産額は約2,500万円です。経費として人件費あるいは肥料等々を除いても、半分は残るといようなことで、40年間トマトを作って、農業所得が上がってやっと町に自主財源である税収が増えています。

棒グラフを見てのとおり、平成10年くらいから右肩上がりにぐんと増えていますが、農協

と町がタイアップしながらこういったことに取り組んでいるところです。40億円の約80%は北海道以外の関西、関東の方に出荷をしております。「ニシパの恋人」びらとりトマトということで、全国ブランドになっております。「トマトが赤くなるとお医者さんが青くなる」ということわざがございますけれども、生食で出荷しておりますが、形の悪いトマトはトマトジュースにするので、捨てるところがありません。コロナで大変な時期を過ごしておりますが、今年は生産・販売額が43億円を超えるといわれています。

食と文化のまちづくり

(1) 農業の振興

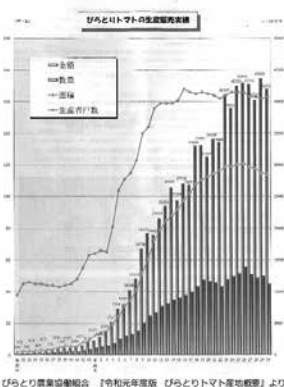
① びらとりトマトの生産

昭和47年に6戸の農家から始まり、現在は、40億円を上回る生産高にまで発展しています。



② びらとり和牛の振興

昭和37年に島根県から繁殖牛を導入



す。景気・不景気、あるいはコロナに関係なく売れているということです。この「ニシパの恋人」というネーミングですが、アイヌ語で「ニシパ」というのは「紳士」とか「親方」「頭領」のことを言います。紳士・親方・頭領も自分の健康を守るためにトマトを恋人のように大切にしたいということでネーミングしております。

びらとり和牛は、昭和37年に島根県から繁殖牛を導入し、年間300頭出荷しています。トマトと和牛が平取町の二枚看板で、地元の稲わら、牧草を食べさせて、その堆肥をトマトに還元するということで、循環型の農業を行っています。特にトマトは連作障害が大きいので、トマトが終わった後はほうれん草を植えて、連作障害を防ぐような工夫もしております。北海道の寒冷地ですが、本当に二毛作のような形で取り組んでいるところです。

平取の二風谷地区は、アイヌ文化の伝承地として、先住民のアイヌの伝統が色濃く残る地域として知られているところです。平成31年4月に「二風谷コタン」を整備し、昔のかやぶきの家、芝生、せせらぎの小川も整備して、多くの方に来ていただいています。「二風谷コタン」は、先住民族の文化・歴史を学び、現代の暮らしの中で未来を創造していく場所として整備したもので、アイヌ語の「コタン」というのは「集落」のことを意味します。

「二風谷イタ」は、平成25年3月に北海道初の伝統的工芸品に指定されたもので、「イタ」というのはお盆のことです。また、「二風谷アットウシ」は、オヒョウニレの木の内

アイヌ文化の伝承地

アイヌの伝統が色濃く残る地域として広く知られる平取町二風谷(にぶたに)地区。



光あふれる春から夏、彩り深める秋、そして白い世界へと四季折々の表情を豊かに映す河川や森林で自然を尊び、学びと共に生きる沙流川流域のアイヌ文化が現在まで脈々と引き継がれています。平成31(2019)年4月に「二風谷コタン」が整備され多くの人が訪れています。

側の皮をはいで糸状にして織りたたんだもので、こちらも伝統的工芸品に指定されています。この指定を契機に売り上げが右肩上がりに伸びて、生業に何とかつながっているところです。伝統的工芸品というのは100年以上の歴史を有し、今日まで継続している伝統的な技術・技法であることが条件で、ハードルは非常に高かったのですが、イギリスの女性探検家のイザベラ・バードが、今から142年前の1878年、47歳のときに北方を旅行し、平取に来てアイヌの首長のところに滞在したときにアットウシ織のスケッチを描いていたことから、100年以上の伝統的技法の一つとして認められました。全国の伝統的工芸品は220くらいあると思います。今はもう少し増えていると思います。



最後に、これは私の集大成ということで作りましたが、平成13年4月に「平取アイヌ工芸伝承館」を建設しました。アイヌ語で「ウレシパ」という愛称を付けておりますが、これには「育て合う」という意味がございます。工芸品の製作機械を備え、工芸家の作業所として、また観光客や町民がアイヌ工芸を体験できる交流施設として整備したものです。

以上の通り、平取町が重点的に取り組んできたことの一部をご紹介させていただきました。いずれにしても、平取町にある地域資源を磨き

上げながら、元気なまちづくりに取り組んでいるところです。

中西 実は10月上旬に全国公民館研究集会と北海道公民館大会、ブロック大会が、今年、全国で唯一行われたのですが、そこへお邪魔したときに、終了後、川上さんに案内していただいて平取町をゆっくり見させていただきました。びらとりトマトや和牛、川上さんが掘り当てた温泉など、3期にわたって平取町を盛り上げる、いろいろな政策が実った成果を十分に見てきたところです。そういった地域に対する非常に熱い思いが、先ほどご紹介のあった公民館の方への首長さんの力の入り方といったものとおちょうどつながっているのではないかと感じているところです。どうもありがとうございました。

では、次に吉田室長さん、お願いいたします。



吉田 公民館の皆様には県の事業である「はつらつ公民館学び支援事業」、あるいは放課後や土曜日の子供たちの学習の場、居場所づくりに大変お力を頂いております。この場を借りまして感謝を申し上げます。私の方からは、この生涯学習・文化財室というのはどういうところかを簡単に触れて、その後、公民館さんとの連携、協力をしてきた取組や歴史について少しお話をさせていただきたいと思います。

まず、生涯学習・文化財室というところなのですが、幅広い県民の目的やニーズに応じた様々な学習の機会や場の整備と充実に努めているところです。

本室では学校の教育課程として行われる教育活動以外、主に青少年や成人に対して行われる教育活動、いわゆる社会教育というところと、あと有形無形の文化財ですとか、民俗文化財、天然記念物とか、そういったような文化財を所管する部署です。社会教育団体である県の公民館連合会をはじめ県の婦人会やPTA、ボーイスカウト・ガールスカウト、各種の生涯学習団体と連携しているところです。

その中で、大きな柱としているのがふるさと学習です。富山の歴史や文化などを自ら学んで、その成果が地域社会へ還元されるということが期待される生涯学習。また、富山の子供たちや若者が健全で心豊かに育つよう、家庭や地域の絆を大切にしながら向上を目指している社会教育、家庭教育、そして富山の貴重な文化・伝統を次の世代へ継承するとともに、その魅力を発信するという文化財保護・活用といったことをやっています。今、言われている人生100年時代を迎え、このふるさと富山の学びをはじめとした多様な学びの充実・発展のために微力ながら貢献しようと頑張っているところだと思っただけであればいいかなと思っております。

さて、公民館連合会と公民館と連携しているところについて、少しご紹介させていただきます。平成20年より公民館を中心としたふるさと自然体験活動に取り組んでいただいております。このきっかけになったのは何かと言いますと、実は平成20年ごろに全国調査がありまして、富山県は非常に自然が美しく豊かであるにもかかわらず、海・山・川で遊んだ経験があるという子供が少なかったという結果が出ています。それは全国平均よりも少なかったのです。こういったことを受けまして、平成20年に「公民館わくわくどきどき自然体験事業」という事業を始めさせていただきます。そこで、地域の方々と子供たちで自然体験活動を行っていただきました。例えば3世代交流自然探索とか、米作りといったことを始めていただいております。平成20年に始めたときには、10市町村で28の公民館で延べ4,000人以上の人たちに参加していただいております。2年後の平成22年には、80公民館で延べ1万8,000人以上の方に参加していただきました。このようにして、非常に大きく発展したということになります。

平成23年にはその自然体験に加えて、子供たちが地域の人たちとふるさとの素晴らしさを体験したり意識したりするなど、ふるさと学習も取り入れるといった取組を始めております。これが「公民館子どもふるさと自然体験事業」ということになっております。例えば身近なふるさとの歴史を探訪したり、あるいは伝統行事や伝統文化に参加したり、遺跡とか天然記念物、世界遺産などといった文化財を訪ねるといったようなことに取り組んでいただいております。

また、ふるさとの名所マップや散策マップ、あるいはふるさとカルタを作るなどして、ふるさとづくりに子供たちが参加するというようなことを始めております。

これらは身近なふるさとの素晴らしさを体験・学習して、それだけではなく地域の教育力を活用して地域の絆を深める、地域みんなで子供たちを育てることを目指したものです。この事業は平成23年度には、延べ約2万人の参加者をいただいております。この事業につきまして、隣接する複数の公民館で連携して行っていただいていたわけですが。

さらに、平成26年度からは、それまでは地元の公民館に限られた範囲でのふるさと学習や自然体験活動を行っていただいたものを、学ぶ対象や体験する範囲を広げたいということで、県で作りました「ふるさととやまの人物ものがたり」というものがあります。あるいは高校生のための「ふるさととやま」といったような冊子を作りました。これは多分公民館さんとか図書館の方にもあるのではないかと思います。これをちょうど平成26年度あたりで作りました。ふるさと学習の充実を図りたいという県の取組がございました。

そこで、新たに「公民館親子で高志の国探検事業」という新しい事業を始めました。このために複数の公民館が連携していただき、子供たちにより広い範囲での学習や活動の提供、あるいは公民館のもっていらっしゃる人材や企画力、ネットワークを活用したり、自然・歴

史・文化など豊かな地域自然を一層活用したりするということで取り組んでいただいております。この取組によって子供たちには、身近な地域を中心に広い範囲で多くの学習が体験できたり、ふるさと富山への一層の愛着と誇りを育んだり、また、地域や公民館にとりましては、ふるさと学習の拠点づくり、あるいは世代間の絆づくり、地域の教育力向上といった点に貢献していただいたということになります。

こちらの事業には、48の公民館を中心として、さらに広域連携ということで123公民館、平成28年度には広域連携の公民館が142まで増えて、広く取り組んでいただきました。さらに平成29・30年度と親子で参加する自然体験活動と地域の敬老会あるいは婦人会等、地域の経験豊かな高齢者の方から例えば餅つきとかみそ作りなどの伝統食の料理体験、あるいは田祭り、盆踊りなど高齢者との交流による文化継承を行っていく事業というふうに発展しております。

これらは地元の学校やPTA、地元の団体さんとの連携を強化し、3世代の交流を通じた地域の絆、あるいは支え合う機能の強化を目指したものです。地域の方々の活動拠点としての公民館への関心をもってもらう、あるいは再認識してもらうということでも公民館の事業の活性化を目指したものでございます。こちら平成29・30と毎年1万1,000人以上の方々に参加していただいたということになります。

こういうふうに平成20年度からの取組をご紹介いたしました。初めは子供への自然体験活動が大きな目的でしたが、ふるさとへの自然だけではなくて文化や伝統など地域の誇りを見つけてそれを発信するというのも併せて、世代間の絆、地域の絆、地域が子供たちを教育する力を深めてもらうという活動へとここ十何年で発展してきたということになります。私どもとしても富山県の子供たちがふるさと富山の自然や歴史、文化といったことをしっかり学んでもらい、愛着と誇りをもって富山県や日本の活力ある社会づくりにしっかり貢献してもらえればなということで、これからも取り組んでまいりたいと思っております。

その核の一つを担っていただいているのが、公民館ということになります。その存在意義は大変大きなものであることをお伝えしたいと思います。また、現在、新たな取組もしておりますが、これについては次の新しい時代の公民館活動というところで、少し画像も入れながらご紹介したいと思います。

中西 ありがとうございます。実は私は十数年前、今の吉田さんと同じお仕事をしておりました。20年のころに海・山・川の体験が少ないというお話でショックということでしたが、その数年前に、確か私の記憶では富山県は「夕日を沈むのを見たことがあるか」というような項目が全国ランクより悪かったのです。それで、当時の知事さんあたりが大変なショックを受けまして、これは何とか活を入れなければいけないということで補助事業が始まったと記憶しております。それ以来、継続してこういう自然体験や世代間交流に補助していただいていることを大変ありがたく思っております。それに対して皆さん方に応えていただいて、県内各地の公民館でこういう事業に取り組んでもらっていることにも感謝をしたいと思っております。

それでは3人目、高井副会長さん、お願いいたします。

高井 高岡市公民館連絡協議会が発足したのは昭和24年12月7日。県よりも先輩なのです。そして、その当時、高岡市に公民館が三つ誕生いたしました。それから70年の歴史を迎え、現在は市立公民館が36館、自治公民館が382館です。令和2年2月1日に70周年記念式典を行い、中西会長には来賓として祝辞も頂きました。



そういう中で70年間の歩みということ振り返ったときに、一番伝統あるものとして高岡市公民館研究大会というものがあります。これは60回を数えております。382館、それに36館を加えた公民館が、順番に発表する機会を設けております。

それから17回を迎えた高岡市公民館フェスタというものもございます。これは市内の公民館がお互いに切磋琢磨しながら日常生活、サークル活動、並びに作品展示とかいろいろな形で発表する機会を与えようではないかということで、17回続いております。本年度はコロナのために中止いたしましたけれども、例年、芸能発表や作品展示は各公民館から出品されたり、発表されたりして大変充実したものでございます。

もう一つは、平成22年より金沢市の公民館連合会との交流が始まりました。これは皆さんもご存じのとおり、加賀藩前田家の関係で非常に親しい付き合いがあるということで、石川県の金沢の方から交流しないかという話があり、それを受けて平成22年6月に金沢市の教育長を中心として締結いたしました。それから毎年、お互い交流を進めようということで芸能発表、金沢の方からコースや踊り、民謡など、いろいろな形で参加していただき、われわれの方も毎回、金沢の方に参加しております。最初のうちは作品発表もあったわけですが、今は芸能発表で交流を深めております。これも11年目を迎えて大変充実しております。

本年度、新しい試みとして、「人生100年時代のこれからの公民館運営について」というテーマで、地域懇談会が開催されました。成美公民館は7月27日、第一発目で当たりまして、市の方から教育長がお見えになり、いろいろな運営についての話があり、地域の人と懇談し、充実した懇談会になりました。これは36館全部を教育長が回って懇談するというので、そろそろまとめに入ってくるのではないだろうかと思っております。これが高岡市の連絡協議会の一コマでございます。

少し現場からのお話をさせていただきます。私が担当しているのは成美公民館という公民館です。誕生したのは昭和24年11月3日です。ということは、もう70年がたったということで、歴史的には非常に長いわけです。私たちの地域は自治会数が37、高齢化率がものすごく高いので、これからも大変だなと思うのですが、今、40%です。そういう環境の中で公民館運営をどのようにしていけばいいのかということは、これからの大きな課題になるかと思えます。

公民館を支えていただいているのは、連合自治会・各種団体が14団体、それから自治公民館が19館、サークル活動が40サークルあります。そういう中でわれわれの公民館の利用者が年間2万2,000人ほどであります。非常に高齢化が高いので、これからこの高齢化社会に対応して私たちはどういうふうな運営をしていけばいいのかということで、日夜努力をしているわけですが、私たち成美公民館として六つのポイントを置きながら運営をやっています。

一つ目は窓口の業務、受付です。玄関を見ればその家分かる、とよく言われます。ということで、まず公民館の入り口から開放的にして、職員は明るく「おはようございます」「おばあちゃん、元気だね」という声掛けを積極的にするようにいたしました。最近はお年寄りの方も全部、大きな声で挨拶を玄関先でしてくれますので、入る瞬間から非常に温かい、ホットな環境をつくらうということで、カウンターの配置をいたしました。多くの公民館を見ても、事務所はずっと奥、事務員の席が奥の方にあり、なかなか来館者の顔が見えないのが現状だと思いますから、窓口をまずそういうふうにしました。

二つ目は、年間行事の見直しです。私たち自身が楽しいこと、館長をはじめ、主事、事務員、それから地域の方々が楽しいものを見付けだそう、そしてそれを実行しようということに心がけています。

それから、一番大切なのは、やはりそういう活動を計画しても人が集まらないといけません。そこで三つめは、チラシ、ポスターの工夫です。色別にして貼ったり、白いっぺんであると何が書いてあるのか分からないので、ポスターに色を付けたりして、目に付きやすい工夫もしております。

こういうチラシ、ポスターの配布は、連合自治会の役員にお力を借り、全自治会に配布します。ポスター等というのはやはり公民館の前だけに貼っておいても意味がないので、四つ目は、各自自治会の掲示板に貼ってもらうことが大きなメリットになるかと思えます。

五つ目は、各種団体との連携です。これがやはり大事なのです。皆さんの地元でも公民館のお祭りごとがあると思えます。うちの公民館もやっているわけですが、会場づくりから後片付け、バザーのお運びも全部各種団体と、中にはお運びは各種団体長も自らやっていただけるような雰囲気が出てきました。そういうことで、非常に地域との連携が今のところうまくいっているように思えます。

六つ目は、小学校との連携も非常に大切な分野です。土曜学習ということでいろいろと行事をつくっていくわけですが、しめ縄づくりをやったり、ハーバリウムの教室を開いたり、いろいろな形でしていくわけですが、成美小学校の先生方に協力をいただきまして、人を集めていただきます。子供が集まると親が来ます。今、私たちが一番悩んでいることは、一生懸命子育てをしている方々がなかなか公民館に目を向けてくれないということです。ですから、土曜学習を通じて子供と一緒に公民館に来ていただくという仕組みをしております。

おかげさまでそういう効果もあり、70年を迎えてやっとここへ来て地域に認められ、地域の人から愛されるような公民館になってきたかなと、最近思っております。そういうことで、平成22年には富山県から優良公民館表彰、27年には文部科学大臣表彰、つい最近では県民ふるさと大賞を受けることができました。これは私たち公民館が頂いたものではなく、地域の方の協力があってこそその賞だと思ひ、これからも高齢化社会、そして少子化を迎えている中で何とか人が集まる公民館、立ち寄りやすい公民館を目指して頑張っていきたいと思ひます。今日のいろいろな発表を元にこれからも頑張っていきたいと思っております。

中西 高岡市公連の方の事業、そしてご自分が館長さんをしておられます高岡市の成美公民館の取組についてお話しいただきました。最後に遠慮がちに話されましたが、数々の表彰も受けておられます。今日のお話は、恐らくほんの表面だと思ひますので、ぜひ成美公民館を訪ねられて、高井館長さんにもう少し突っ込んだお話を聴くような機会を、それぞれの公民館がおもちになってもいいのかなと思っております。何しろ県公連の役員、この中の皆さんも含めてかもしれませんが、公民館関係の経歴が一番長い方ですので、ぜひまたお訪ねしてみてください。

中西 ひと通りお話しいただきましたので、今度は第2ラウンドということで、本日のテーマにさせていただきます。今日は「新しい時代の公民館活動」に移りたいと思ひます。

視点を三つ掲げておきました。一つ目は、「自然災害の多発に備えた防災拠点としての公民館」という視点です。平成23年に東日本大震災がございました。その後も地震、台風、集中豪雨、災害が多発しています。そういったことに対応して、公民館は避難所として、あるいは日頃からの防災教育の場として存在意義が再認識されており、この状況は今後も重視さ

れていくと思われます。

それから、二つ目の視点が、「人口減少時代の新しい地域づくりとしての公民館の役割」です。平成30年12月に中央教育審議会が文科省の諮問に答え、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」という答申を出しています。その中では、人生100年時代とか、持続可能な幾つかの目標（SDGs）がありました。それから、狩猟・農耕・工業、情報までが第4世代、そして現在はそういったものを全部統合したような新しい時代だというSociety5.0。そういうようなキーワードで表現されるこれからの時代、社会教育はどうあるべきかを問いかけているのが文科省中教審答申です。

三つ目は、目下の最大課題であります「新型コロナ禍における公民館活動」という視点です。

皆さん方もこの春以来、この問題で大変頭を悩ませてこられたと思いますが、全公連では5月に公民館活動再開に向けてのガイドラインを公表し、10月2日付で2度目の改訂、全部で3回出しました。その他にも、「月間公民館」というものを毎月出しておりますが、実はその9月号と10月号で「新型コロナ禍における公民館活動」という特集を組んでいます。いろいろな事例なども出しておりますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思ひます。

こういう三つの視点を念頭に置いて、パネリストの皆さん方がそれぞれの立場で考えていらっしゃる事、新しい公民館活動という意味で考えていらっしゃる事を自由にご発言いただくかと思ひております。

それでは、一つ目の「自然災害の多発に備えた防災拠点としての公民館」に関するご発言をお願いします。

自然災害の多発に備えた防災拠点としての公民館

高 井 東日本大震災で、陸前高田市は大変大きな被害を受けました。そのときに成美小学校の子供たちが救援活動をしたことで、陸前高田市の自治会長さんと役員の方が、成美小学校に「このたびは本当にありがとうございました」と挨拶に来ていかれました。その後、成美小学校では自然災害や防災について大変深く研究されておりました。その陸前高田市の方がおっしゃったことでいまだに忘れることができないのが、災害に備えていろいろな研修会を開いたりしていたわけですが、皆、全く耳を貸さなかった。津波が来たときに「大変だから逃げよう」と言ったけれども、全く無関心。「そんなもん、来るはずないわい！」と言った人たちが、ほとんど全滅だったということです。そういうことを考えると、日頃から防災についての意識はしっかりもたなければいけないと、子供たちに積極的に話されました。それを聞いた子供たちが非常に関心をもって、防災について小学校で頑張って、いろいろな研究発表もしたりしています。

そういうことを考えたときに、私たち成美校区の各自治公民館では、防災についての訓練をやったり、講話をやったりしております。いろいろと情報を集めてみますと、それなりに設備も整えながら準備を進めています。それは、陸前高田から来られたときの話が非常によかったのではないかなと思ひております。

吉 田 私からは、県の事業に参加していただいている公民館さんの活動を紹介させていただいて、併せて今の観点からということで少しお話をさせていただきたいと思ひます。

県では昨年度から行っているのですが、人生100年時代に向けて地域の生涯学習の拠点である公民館が実施する地域振興や絆づくりなど地域課題の解決に向けたモデル的な学びの活

動を支援するという形で、昨年度からは「はつらつ公民館学び支援事業」というものを県公連に委託して実施しております。

はつらつ公民館学び支援事業

(県公民館連合会委託)

- 対象 355公民館(準拠的公民館)
- 主体 体験型研修、自導型、夜校型、講義
- 時期 4月～2月
- 参加者 地域住民、幼児から中学生とその保護者

地域振興型(9公民館)

地域の高齢化や魅力発掘など地域課題をテーマとした実践的な学習会や現地調査、グループワークなどを通じて地域振興の活動につなげていく。

体験交流型(28公民館)

地域の若い親子世代と高齢者世代の交流を通じた自然体験やふるさと学習を行うことにより、地域コミュニティの活性化や絆づくりにつなげる。

これまでもふるさとの学びや身近な自然体験活動については体験交流型という形で28館、それに加えて昨年度から地域課題の解決に向けた学びのモデル的な活動を行う地域振興型という活動、これは5館ということで支援させていただいています。

新たに昨年度から始めさせていただいている地域振興型というものについて、少し紹介させていただきます。まず、富山市の黒瀬谷地区のふるさとづくり推進協議会です。こちらは「住民誰もが暮らしやすい地域社会の構築」という地域課題に基づき、地域住民の熟議により作成した子供たちを災害等から守る「ひやりマップ」、あるいは小学校の「総合的な学習の時間」に地域住民も参加し、共に作り上げた「ふるさとまっぷ」を作成しました。「熟議」とありますが、これはやはり地域の方々が将来の地域を考える。自分もその当事者としてよりよい地域づくりに取り組もうという意欲につながるような取組になると思います。また、先ほどもありました地域の小学校、学校とつながると。今現在、学校の方では新しい教育課程で「開かれた教育課程」ということで地域の方々と一緒に授業をつくっていきこうということが始まっております。こういった子供たちとつながることで、地域を担う人材を育成するということもあるかと思います。

はつらつ公民館学び支援事業

富山市 黒瀬谷地区ふるさとづくり推進協議会
「地域マップづくり等」

地域振興型

- 幅広い世代による熟議
- 学校教育との連携・協働

はつらつ公民館学び支援事業

砺波市立 梅檀山公民館
「避難訓練等」

地域振興型

- よりよい地域づくりにつながる企画
- PDCAサイクルによる活動の推進

続きまして、砺波市立梅檀山公民館です。こちらは「地域住民の防災に対する危機意識の高揚」という地域課題に基づきまして、危機意識を高める体験会の設定や地域全体で危険箇所を共有した巡回活動、全ての活動を振り返り、

次に生かす地区住民による話し合いの様子です。計画してやってみるといのは、それだけでも大変なところなのですが、こちらの公民館は計画して、やってみて、それを評価すると。「どうだったのかな」と、それを次に生かす改善ということで、よくいう計画 (Plan)、実践 (Do)、評価 (Check)、それを元に改善するActということで、PDCAサイクルを回していることが非常に素晴らしい取組だと思います。また、地域で大きな課題となっている地域防災という観点からも先進的な取組かなと思っています。

また、南砺市の南山田地域づくり協議会も「地域の安全・安心に対する意識の向上と災害に強い地域づくり」という地域課題に基づいて、防災意識を高める地区ごとの避難所の状況把握や防災訓練を実施しています。こちらも課題解決や地域づくりの担い手の育成を進めているよい事例かなと思います。

川上 「災害は忘れた頃にやってくる」と言いますが、最近は忘れないうちにやってくるように

なっています。私も何度か避難勧告発令もしておりますが、やはり痛切に感じるのは、避難勧告を発令したときに、町では消防サイレンや広報車等々を使いながら住民に周知をし、公民館等への避難を呼びかけます。しかしながら、最近の住居は密閉性がいいのでなかなか室内にいと聞こえないということもあり、本当に住民一人一人が避難したかどうか、一軒一軒行政が確認することには、限界を感じているところです。また、年々、自然災害の規模も拡大しております。

そういった意味では自助努力は当然ですが、やはり何かあったときには、自主防災組織というものがあるかと思いますが、向こう三軒両隣で声を掛け合って、特に向こう三軒の中でも高齢者とか要支援者もいればそういった方々も含めて助け合い、避難する共助、共に助け合う体制の強化が必要だというふうに考えております。公民館は避難所として、また防災学習ができる場ですので、日頃から防災教育、防災訓練の場としての公民館活動であってほしいと思っております。

中西 どうもありがとうございました。それでは、二つ目の「人口減少時代の新しい地域づくりとしての公民館の役割」に関するご発言をお願いします。

人口減少時代の新しい地域づくりとしての公民館の役割

高井 これから人口が減少していくわけですが、どれだけ減少してもお年寄りは増えていきますので、このお年寄りの方々を何とか呼び込んでいきたい。そういうふうな工夫が、これから必要ではないか。

吉田 二つの公民館の取組をご紹介します。

まず、魚津市の道下公民館の取組です。三味線や踊りを通した民謡の継承と後継者対策という地域課題に基づいて、専門性をもつ地域の人たちにお越しいただいて、親子で参加しやすい機会となった三味線体験会、子供たちの地域への理解と愛着を育むせりこみ蝶六、地元の民謡ですが、その練習会や街流しの様子です。こういった地域の多様な専門性をもつ方々というのは各地域にいらっしゃると思いますが、そういった方を講師、あるいは教室の先生

をしていただきます。こちらもやはり子供さんが来るということで、後継者の育成ということも図られるのかなと思います。

次は黒部市立東布施公民館です。「地域の強みを見つけだし、それらを生かした活動の推進」という地域課題に基づいて、よりよい地域づくりにつながる歴史や伝承行事の学習会の様子です。

こちらの特徴としては大学生の協力を得て地域のよさを発見する活動ということです。10年ほど前から金沢大学の学生と地域活性化に取り組んでいるということです。

最近、大学においても地域づくりに貢献するといった動きがありますので、そういった大学とつながるということもいいのかなと。若者の参加を引き出す工夫ということもされていらっしゃるということで、大学と連携して学生と地域社会を結び付けていらっしゃるよい事例かなと思います。



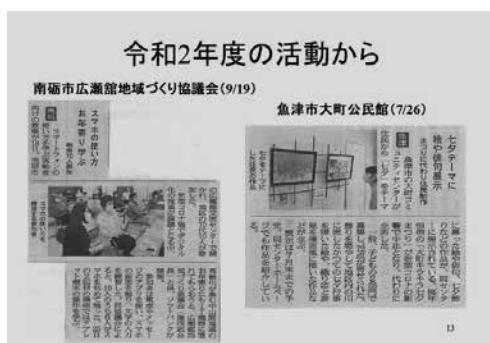
中西 どうもありがとうございました。人口減少社会を見据えた部分については、なかなか触れにくい部分もありますし、まだまだ見通せない部分もありますので、今日はそこまで突っ込めなかったかもしれません。

それでは、最後になります。三つ目の「新型コロナ禍における公民館活動」に関するご発言をお願いします。

新型コロナ禍における公民館活動

高井 今日お集まりの皆様方も経験されたと思いますが、緊急事態宣言が発令され、公民館から人影がなくなりました。ただ、そこに建築物があるだけの状態で、われわれ勤務している者も公民館へ行っても何一つ声がしない。ただ事務所にいるだけのつらい時期がありました。6月頃に解除になり、ようやく人の姿が、まばらですけれども増えました。現在は各種団体の会合等々はありませんけれども、サークル活動は本来の姿に戻ってきたように思います。公民館へ来られる方々の話では「なんちゅう公民館ちゃあ、いいとこやね。こうやって集まってしゃべれるってことは大変うれしい。家にじーっとしてテレビばっか見とってなんも楽しいことなかったがいね」。人と接することができるということの楽しみをあらためて感じる、これはコロナのおかげではないだろうかと思っております。やはり、公民館というのは、そういう人が集まり、絆が深まることが大事な場ではないだろうか。中西会長も日頃から「愛される公民館、親しまれる公民館」とよく言われるわけですが、それを目指してコロナに立ち向かい、災害にも立ち向かう強い公民館、そして、地域の皆さんとの絆を深めながら頑張りたいと思っております。

吉田 コロナ禍でも活動していच्छるところが新聞記事でよく取り上げられていますので、幾つかご紹介します。



黒部市の浦山公民館は、新型コロナを考慮した避難所の運営図上訓練ということで、コロナを意識した避難所運営にはどういったやり方があるのかということに取り組んでいच्छいます。

南砺市の広瀬館地域づくり協議会は、コロナ禍のお年寄りの健康増進につなげるために、体力測定や軽体操に取り組んでいます。

南砺市の広瀬館地域づくり協議会は、新型コロナ禍でデジタル化の推進が課題となる中、お年寄りにもIT機器に慣れてもらおうと「スマホの使い方を学ぶ教室」を開催しています。こちらの特徴は、公民館の方、地域住民だけではなく行政と民間、実は県と情報通信会社が連携した取組であるところです。地域のお年寄りがスマホの使い方などを学んだという



ことで、これは県や行政、民間と連携したよい取組でもあると思っております。

魚津市の大町公民館は展示ということで、これも新型コロナウイルスに対応した活動であるかなと思っております。

また、黒部市の愛本公民館、あるいは氷見市の女良公民館の方でもこういったリモートとか、地元の大切な自然環境を守るというような活動を今年度はしておられます。

私からは、こういった素晴らしい活動をご紹介させていただきました。

川 上 コロナ禍における公民館活動の関係ですが、今年に入ってから新型コロナウイルス感染拡大ということで、その対応に伴う社会全体が大きな影響を受けており、特に北海道は早めの感染対策によって収束の兆しが見えておりましたが、最近は第三波が来ており感染者が400人を超える日も出てきております。そういった意味においては、大人数が集まるイベントをはじめ公民館活動は大きく制限せざるを得ない状況が再び続いています。そういった中で、コロナ禍では個人でも家庭での自粛生活が求められており、テレワークあるいは遠隔授業をはじめ、オンラインシステムのZoomを併用した活動が大きく進んでおります。さらにはインターネットでの様々なコンテンツが活用できるようになり、自ら学ぶ生涯学習にとってはプラスの面が多いと考えます。しかしながら、逆に会話が少なくなり、直接コミュニケーションが求められることが多い社会教育にとっては非常に難しい面も出てきているのかなと感じているところです。

しかしながら、私ども社会教育関係者はどんな状況でも常に何ができるか、前向きに進めなければなりません。そういった意味においても、デメリットの部分はどう解決していくか、さらに議論を重ねながら新しい公民館づくりを進めていかなければならないと感じております。

中 西 パネリストの皆様、どうもありがとうございました。

IV

地域の特性を生かした 公民館活動の実践

1 公民館活動研究委嘱事業

- (1) 「公民館は『活動』である」という認識の定着
- (2) 「平素からの人と人との絆づくり」を意図した活動
- (3) 「地域づくり・まちづくり」をネットワークする活動

2 県公連会報に見る公民館活動

- (1) 少子・高齢化社会における活動の工夫
- (2) 地域の文化・伝統の伝承と再発見
- (3) 新たな地域ニーズへの対応

3 市・郡公民館関係者研修会

4 第49回東海北陸公民館大会富山大会

- (1) 大会趣旨
- (2) 大会主題
- (3) 分科会構成・テーマ
- (4) 成果等

5 第52回東海北陸公民館大会富山大会

- (1) 大会までの準備経過
- (2) 大会概要
- (3) 成果等

6 県公民館連合会予算の推移（平成22→27→令和2年度）

1 公民館活動研究委嘱事業

本事業は、公民館における学習活動や人々の参加促進について実証的な研究を委嘱し、公民館活動の振興を図ることを目的に昭和54年度に始まった事業であり、長い研究実践の伝統をもっている。実施に当たっては、県内を5ブロックに分け、各1館に委嘱し、各公民館が独自性を発揮し、地域の実情を生かして研究に取り組むとともに、広くその成果が共有されるよう要項を定めている。

公民館活動研究委嘱事業要項

富山県公民館連合会

1 趣旨

住民の要望や地域の特性を生かした「学びあい ふれあい 結びあい」の場、機会をつくりあげるとともに、今日的な社会の要請に応え、人々の自らの地域に対する誇りと愛着を高め、主体的な参加を促進することのできる公民館事業（地域生涯学習事業）の在り方について実践研究を委嘱し、その成果を広く普及啓発して公民館活動の充実活発化に資する。

2 委嘱対象 市町村教育委員会（※委嘱館（施設））

3 委嘱条件

ア 実践研究実施場所は市町村が設置・管理する公民館活動施設とし、市町村教育委員会が選定し、事業計画書を様式に基づいて作成し、富山県公民館連合会に提出する。

イ 地域の特性を生かした課題を設定し、研究委員会を中心に研究を推進する。

- （課題例）
- ・ 住民参画による事業の工夫・推進
 - ・ ふるさと（まち）づくり、地域の自然や文化の再発見
 - ・ 家庭教育・子育て支援、男女共同参画、世代交流
 - ・ 青少年の健全育成、子供たちの居場所づくり・体験の充実
 - ・ 人と自然との共生、環境改善・エコライフの推進
 - ・ 地域防災、安全・安心の地域づくり
 - ・ 学校・幼稚園・保育所、地域（各種団体等）の連携促進
 - ・ その他、本事業の趣旨に合致するもの

ウ 研究委嘱期間は、1年（委嘱を受けた当該年度末まで）とする。

エ 研究委嘱費は、1館当たり50,000円とし、対象経費は報償費、旅費、需用費、役務費とする。

オ 研究委嘱事業の終了後、速やかに事業報告書を様式に基づいて作成し、富山県公民館連合会に提出する。

カ 研究成果は、次年度に富山県公民館連合会主催の研修会等で、実践研究を行った公民館が発表する。

※委嘱館（施設）…15市町村を下記のように5組に分け、それぞれの組から毎年1館ずつ委嘱する。2～5組の市町村は別途ローテーションにより指定する。

組	市町村教育委員会	委嘱数
1	富山市	1
2	魚津市、入善町、朝日町、黒部市	1
3	滑川市、立山町、上市町、舟橋村	1
4	射水市、高岡市、氷見市	1
5	砺波市、小矢部市、南砺市	1

平成23年度から本年度まで、委嘱を受けた各公民館は地域の特性を生かし、それまでの実践を発展させる研究、新たなアイデアを盛り込んだ研究等に取り組んできた。その成果は、次のように総括することができる。

(1) 「公民館は『活動』である」という認識の定着

本事業の実施を通して、公民館は学習者を受け入れ、活動の場を提供する「ハード」であるだけでなく、地域課題の解決、活性化などのための「ソフト」であることをアピールすることができ、公民館が「公民館」という建物を出て活動する実践が大きく広がっている。個人の生きがいとして『テーマ』で学ぶ生涯学習と並び、住民として『エリア』で学ぶ学習活動は県内公民館に着実に根をおろしてきており、そこから行事の実施だけでなく、地域の課題や進むべき方向が人々によって見出されてきている。

(2) 「平素からの人と人との絆づくり」を意図した活動

この10年間の委嘱館の研究実践では、社会のグローバル化や地域における生活様式の多様化等に伴って顕在化してきている様々な問題、新たな課題等を取り上げていち早く取り組んできたことがうかがえる。特に、東日本大震災以後、事業は世代間交流、安全・安心の地域づくりなどを、プログラムの中に組み入れ、「ふるさと再発見」を大きなテーマとして、「地域の伝統的行事や風習」「地域の歴史や史跡」「地域の自然観察・保護」を取り上げた現地学習、継承活動、アイデアを積み上げて独自の活動として継続的に実施されるようになってきている。

(3) 「地域づくり・まちづくり」をネットワークする活動

公民館事業の在り方・地域への啓発を実践の形で提言するとともに、本事業を機会として地域の諸団体との連携を構築し、公民館自体の活性化を図る工夫も進められてきている。それは、地域のよさ・誇り、地域を築き上げてきた自然・歴史、地域住民の連帯意識、関係者や関係団体の協力、地域人材の発掘などに必要なノウハウの蓄積をもたらしている。

これからの公民館の役割・方向性を巡って様々な議論が出ている今日、県内の公民館は、地域を見つめ、実践をもってその答えを示してきた。研究委嘱事業を実施した公民館は、翌年度の県公民館初任者研修会、同館長研修会、そして県公民館大会で、その成果や残された課題等を報告している。研究委嘱事業はこのような形で職員・関係者に共有され、多くの公民館の事業企画にヒントを与えるとともに、公民館活動の企画に当たる担当者のネットワーク形成に役立っている。



■参考：委嘱公民館の研究実践概要

年度	研究委嘱館	研究実践概要
平成	室牧公民館 (富山市)	○ 地域の地蔵を巡り、歴史・いわれ、人との関わりを学び、ふるさと発見・世代交流 点在する“お地蔵さん”を巡る野外活動を通して、住民の関わり・いわれを聞き取り、地域の歴史やよさを知るとともに世代交流を推進する ・地蔵鎮座マップ作成、いわれを知る長老確認など関係団体で準備活動（18体発掘） ・現地で除草・清掃、お身ぬぐいを親子活動として実施。 ・前掛け・たすき・帽子交換のための縫物教室 ・お地蔵さん講座で歴史的背景を学習
	宮崎公民館 (朝日町)	○ 宮崎探検オリエンテーリングで三世代交流 オリエンテーリング形式の地域巡りで地域の自然や文化を再発見するとともに、防災訓練の避難路・避難場所確認、人と人の交わりによる地域づくり体験の機会とする ・ポイント選定：津波避難所、史跡・旧跡や知られた場所、会ってほしい住民 等 ・小学生が4チームに分かれ、実施。大人は安全管理・サポートスタッフとして交流
	利田公民館 (立山町)	○ 体力づくりでふるさと探訪 地区内の古い石仏や神社をウォーキングで巡り、体力づくりをしながら世代交流を通して地域を再発見するとともに地区内の地理的理解を深める ・4キロコースと7キロコースを設定し、コース途中の石仏・神社等案内パンフを用意 ・ゴール後、豚汁とおにぎりの会食会で住民交流
	宇波公民館 (氷見市)	○ 灘浦地域合同による郷土愛を育てる地域ふれあい教育の推進 宇波・女良2館合同事業を進めて、統合小学校区全体の相互理解や地域への誇りを高め、住民全体の交流を深める ・虹が島清掃活動と自然観察・調査を小学生・青少年・一般住民で実施 ・ふるさと灘浦の名所巡り、釣り大会・調理体験 ・灘浦中学生の壁新聞を公民館で発表
	福野東部公民館 (南砺市)	○ 異文化交流による公民館活動の活性化と地域づくり・ふるさと再発見 異文化に接し学ぶことを通して、自分たちの生活と異なる文化を尊重し、改めて日々の生活を見直し、ふるさと再発見へとつなげる（テーマ「韓国の音楽と生活を学ぶ」） ・韓国を知る講座：韓国の衣食住の講演、民族楽器演奏・踊りと体験交流 ・キムチ作り体験と白菜漬けとの違いを学ぶ教室、韓国チヂミ作り体験と懇談会
23	下夕北部公民館 (富山市)	○ 中山間過疎地の「ふるさと再生」、誇りをもつことのできるふるさとづくり ふるさと再発見・伝統行事や住民交流の場の活性化を進め、世代間ネットワークを構築 ・住民運動会・盆踊り大会・収穫感謝祭などでの発表や成果披露と住民交流 ・ふるさとの自然・歴史・文化を訪ねる「舟倉用水歩こう会」実施 ・伝統の「まゆ玉」「かがり」の製作体験
	中央公民館 (入善町)	○ 親子で学ぶ入善の自然～ in 沢スギ～ 小学生とその保護者を対象に国指定天然記念物「杉沢の沢スギ」を学び、自然体験学習を啓蒙 ・沢スギ内で発見された新種「入善乙女キクザクラ」を中心に桜の名所巡りを実施 ・クイズやゲームを通して沢スギを学ぶ現地学習、冬の沢スギ地帯を観察する学習を設定
	弓庄公民館 (上市町)	○ 世代間交流の推進 各種団体と連携して年代各層にわたる参加者の増員を図り、地域の連帯感を強め、活性化を進める ・休耕田を利用した世代交流菜園活動（植え付けから収穫まで） ・救命救急講習会、自転車安全教室、火災予防・避難訓練の実施
	黒河コミュニティセンター (射水市)	○ 市無形民俗文化財「黒河夜高祭」の保存と伝承 地区の幼児から高齢者までが交流しながら夜高祭りの準備から実施に関わり、伝統行事継承の大切さや意義を考え、住民の連帯意識を高める ・小学生による夜高祭の由来学習・野外劇練習、夜高祭あんどん製作教室 ・夜高祭実行委員会を自治会・児童クラブ育成会等各種団体で組織、保存会と連携 ・黒河ふれあい祭り特設展示場で夜高祭写真展、地区住民に成果報告
	梅檀山公民館 (砺波市)	○ 学んで徒歩で巡る 庄東地区戦国絵巻体験 地区にある山城「安川城」を地元の史跡として後世に伝え、広く住民に周知する「安川城再生プロジェクト」を立ち上げ、児童生徒・高校生から高齢者までが参加 ・安川城跡の歴史、城の構造についての学習会、現地まで歩き、堀・曲輪・主郭等確認 ・灌木・竹・雑草除去、散策路整備を実施
24	下夕北部公民館 (富山市)	○ 中山間過疎地の「ふるさと再生」、誇りをもつことのできるふるさとづくり ふるさと再発見・伝統行事や住民交流の場の活性化を進め、世代間ネットワークを構築 ・住民運動会・盆踊り大会・収穫感謝祭などでの発表や成果披露と住民交流 ・ふるさとの自然・歴史・文化を訪ねる「舟倉用水歩こう会」実施 ・伝統の「まゆ玉」「かがり」の製作体験
	中央公民館 (入善町)	○ 親子で学ぶ入善の自然～ in 沢スギ～ 小学生とその保護者を対象に国指定天然記念物「杉沢の沢スギ」を学び、自然体験学習を啓蒙 ・沢スギ内で発見された新種「入善乙女キクザクラ」を中心に桜の名所巡りを実施 ・クイズやゲームを通して沢スギを学ぶ現地学習、冬の沢スギ地帯を観察する学習を設定
	弓庄公民館 (上市町)	○ 世代間交流の推進 各種団体と連携して年代各層にわたる参加者の増員を図り、地域の連帯感を強め、活性化を進める ・休耕田を利用した世代交流菜園活動（植え付けから収穫まで） ・救命救急講習会、自転車安全教室、火災予防・避難訓練の実施
	黒河コミュニティセンター (射水市)	○ 市無形民俗文化財「黒河夜高祭」の保存と伝承 地区の幼児から高齢者までが交流しながら夜高祭りの準備から実施に関わり、伝統行事継承の大切さや意義を考え、住民の連帯意識を高める ・小学生による夜高祭の由来学習・野外劇練習、夜高祭あんどん製作教室 ・夜高祭実行委員会を自治会・児童クラブ育成会等各種団体で組織、保存会と連携 ・黒河ふれあい祭り特設展示場で夜高祭写真展、地区住民に成果報告

年度	研究委囀館	研究実践概要
25	愛宕公民館 (富山市)	○ 身近な自然「環水公園」の魅力を再考する 貴重な水辺空間として親しまれる環水公園を地元住民の立場から、その豊かな自然を再確認し、まちづくりを推進、地区住民の交流を深める ・富岩水上ライン体験、運河祭りに参加し、現状を把握 ・公園の自然についての講演と園内散策 ・自遊館でリフレッシュ体操・元気回復教室
	内山公民館 (黒部市)	○ 内山地区の伝統行事・ふれあい活動の推進 普段交流の少ない幼児から高齢者までの楽しいふれあいの機会をつくる ・内山公園の川にイワナやニジマスを放流し、釣ったり捕まえたりする交流会開催 ・地区に伝わる盆踊りの伝承。大人のシカタと子供のヤンサイを練習し、披露 ・獅子舞伝承のため保存会の指導で練習、祭り当日、子供たちが地区を巡り披露
	山加積地区公民館 (滑川市)	○ 地域の伝統行事の継承を通したふるさとづくりの推進 昔から受け継がれてきた行事のよさを見直し、世代を越えた住民の交流を活性化する ・ふるさと講座で上市町と分離される以前の山加積、黒川地区巡りを実施 ・おしょうらい、門松作り、左義長を実施。由来や習わしを住民交流を通して学習
	成美公民館 (高岡市)	○ 家族とのふれあいを重視した青少年の健全育成の推進 家族と一緒に様々な活動を体験し、交流と学びの場を広める機会の拡大を支援し、絆を深め達成感を味わうことを通して青少年の健全育成を推進 ・家族でドラえもん電車に乗って海王丸パーク・内川遊覧 ・家族でガラス工房体験 ・家族で干支の土人形作り・しめ縄作り・ひな祭り・フラワーアレンジメント
	南谷公民館 (小矢部市)	○ 炭焼きを通して学ぶ地域の歴史と自然・三世交代 親子が祖父母世代の炭焼きサークルから教わりながら、間伐材を利用した炭焼き体験を通して地区の歴史や伝統、環境への関心をもつ機会とする ・親子で窯入れ作業体験、子供たちのアイデアで花炭にも挑戦 ・窯出し作業体験 ・炭焼きが地区の産業だった歴史、木炭とエネルギー問題等について世代交流の中で学習
26	月岡公民館 (富山市)	○ 身近にある史跡の再発見 住民が日頃忘れがちな地元の名所旧跡を訪ねる活動を企画し、郷土の歴史を学ぶとともに大事な地域財産が滅失しないよう保存活動を推進 ・月岡地区の遺跡と石造物、城跡についての講座を開催 ・講座で学んだ史跡を実地に巡検、現地の人のお話を聞き学習を深めた
	西布施公民館 (魚津市)	○ 江戸時代から歌い継がれてきた「布施谷節」の伝承と踊りの継承 布施谷節の継承と地域の児童を対象にした布施谷節踊り継承の取組を通した郷土理解・郷土愛の促進、住民の交流機会充実を図る ・全児童の新布施谷節踊りを学校、公民館の連携で実施。運動会・敬老会・文化祭で披露 ・小6女子児童が正調布施谷節踊りを練習。歌詞の意味についての学習交流
	釜ヶ淵公民館 (立山町)	○ 地域の子供たちの公民館との関わり合い、住民との交流促進 公民館行事や各種セミナーの工夫を通して世代間交流を促進し、公民館への理解を深める ・シャボン玉作りやペットボトルロボット作りなどで保育所児・小学生の交流を拡大 ・魚道見学で農業用水と魚の保護を学習、天文教室で皆既月食と星について紙芝居で学習 ・冬まつりの出前講座化、餅つきは昔ながらの方法体験、敬老会等の保小・世代交流化
	宇波公民館 女良公民館 (氷見市)	○ 灘浦地域を対象とした郷土愛を育てる地域ふれあい教育の推進 宇波・女良公民館の出前講座や海岸・虻が島清掃活動、昔の遊び・魚釣り等を通したふれあいとふるさと再発見を推進（小学校の育成会と連携） ・昔の遊びやバルーンアート、宇波・女良音頭を楽しむふるさと・ふれあい祭りの開催 ・親子ふれあいを目指した魚釣りと魚調理体験 ・虻が島島内清掃と自然観察調査活動
	太美山公民館 (南砺市)	○ 「舞台に立ち自分の表現力を付けよう」& 「地域の大人に学ぼう」 公民館での舞台発表を通じて表現力を磨く。また、地域の大人たちと子供が共に学ぶことを通して連帯感を高め、地域活性化を図る ・公民館コンサート、公民館祭りで舞台上で成果を披露。地域住民と交流 ・小学生対象の「夏休み子供教室」で縄編み・草履作り体験、田んぼの生き物調査

年度	研究委囀館	研究実践概要
27	豊田公民館 (富山市)	○ 餅つき大会 餅つきの由来について学び、児童と一般住民が交流しながら餅つき体験をする ・身近な餅の文化を絵本や歳時記関係の本の展示で紹介 ・もちとうちの比較学習 ・洗米、蒸し、つきの工程学習、子供用の杵と臼で体験
	笹川公民館 (朝日町)	○ 自然体験を通じた交流促進 ホタルの観察会を通して自然に親しむとともに、地区の魅力を再発見する ・観察会の前にホタルの生態について学習する ・観察コースを周り、ホタルを間近に観察するとともに、地域の自然の豊かさを味わう
	山加積公民館 (上市町)	○ 異世代交流を通して地域の歴史や文化を学び、郷土のよさを知る活動の推進 各種団体との連携を図り、地区に残る遺跡や伝えられている業績に触れ、ふるさとへの愛着心をもつとともに、子供たちにふるさとのよさを伝える ・郷土の伝統和菓子(草餅・おはぎ・桜餅)作りを通じた世代交流の集い開催 ・地域清掃をしながらの歩こう会で、植物観察し遺跡を訪問 ・黒川良安碑清掃 ・納涼祭の開催、黒川フェスティバルへの参画で住民交流促進、地域への意識を高める
	新湊コミュニティセンター (射水市)	○ 新湊曳山のミニチュア作り 県無形文化財である伝統ある地域の祭りの華、曳山をミニチュアで製作し、興味を高める ・幼児から中学生までの子供たちを対象に、保護者・住民も参加し、製作を通じて交流 ・途中経過を確認し、できた物を新湊コミュニティセンターの「センター祭り」で展示
	青島公民館 (砺波市)	○ 地域の資源を活用した生涯学習の推進 庄川の恩恵である鮎や柚子、伝統的工芸品の庄川挽物木地などを住民に身近に感じてもらう企画を三部構成で実施 ・三世代が一堂に会し、地域資源を知る学習会を開催 ・祖父母世代を講師に大門素麺の作り方、柚子を使った出汁作り、鮎の串焼きを実習 ・庄川鮎祭りに参加、地域の資源のよさを世代交流を通して再認識
28	広田公民館 (富山市)	○ 郷土の歴史を再認識し、生活習慣病予防への関心を高める「史跡巡り歩こう会」の実施 地区の名所・旧跡を巡り、地区のよさを再発見するとともに、「歩く」健康づくりを推進 ・健康作り推進のためのウォーキング講座を開催 ・郷土史資料を参考に地域名所・旧跡巡りのマップ作成し、世代ふれあいウォーキング
	桐山公民館 (入善町)	○ 各種サークル・住民三世代参加の「ふれあい祭り」の開催 園児・児童、高齢者、女性団体などが広く参加し、成果を発表するとともに、手遊びコーナーを設けて親子・高齢者交流を実施 ・企画の重視、地区の各種団体から参加。利用者みんなで公民館大掃除から活動開始 ・園児・児童の遊戯や楽器演奏、各サークルの発表、愛好家による浪曲鑑賞や獅子舞披露
	中加積地区公民館 (滑川市)	○ 先人の業績や地区の歴史について学ぶ遺跡・文化財巡り 3年間のふるさと教育推進事業の総まとめとして、世代交流による遺跡・文化財巡りを実施し、ふるさと再発見を促進 ・椎名道三をテーマに生誕地、室山野用水頭彰碑、墓碑などを訪ね、現地解説で学習 ・中世堀江城をテーマに城跡、有金館・有金正楽寺跡、栄正楽寺跡、立山寺など訪問
	二塚公民館 (高岡市)	○ 誰もが楽しめる軽スポーツを通じた世代交流 世代を越えてふれあえるスポーツとしてペタンクを通じた三世代交流を推進 ・児童を対象にペタンク教室実施。高齢者がルールや投げ方を実地指導 ・保護者、地域住民も参加してペタンク大会を開催
	松沢公民館 (小矢部市)	○ 子供たちが先人の農業の苦勞、収穫物の大切さを学ぶ昔の米作り体験 昔ながらの道具を使った作業を体験するとともに、収穫した米を食し、しめ縄作りを体験 ・ころがしと手植えによる田植え体験で世代交流。児童のバケツを利用した米作り ・手刈りによる稲刈りとはさ掛け、昔の機械での脱穀を体験 ・親子でおはぎを作って収穫感謝祭を実施 ・収穫後の稲藁でしめ縄作り講習会開催

年度	研究委囀館	研究実践概要
29	蛸川公民館 (富山市)	○ 親子でさつまいも作り体験 農作業の大変さや収穫の喜びを感じてもらうことを通して、親子・世代間の交流を深める ・地元小学校と連携、食改団体・おやじ倶楽部、一般住民の協力で事業推進 ・親子で苗植え、芋掘り体験を実施。草取り・つる返しなどを通して世代間交流
	東布施公民館 (黒部市)	○ 金沢大生と一緒にを行う地域コミュニティの促進 学生企画のイベントに住民が参加したり、地域のイベントに大学生が参加したりするなどの交流を通して、今後の地域コミュニティを考える ・旧東布施小学校舎清掃。布施谷健康ウォーク（学生企画） ・地元食材を使った山菜レシピ（学生考案）ピザ作り、そば打ち体験、流しそうめん ・黒部市総合防災訓練参加で地元民と学生交流
	新川公民館 (立山町)	○ 子供たちと地域住民のふれあいの場をつくる公民館活動 子供たちの活動に住民が参加、住民の活動に子供たちが参加できるように工夫 ・七夕づくりを三世交流に。星空観察会を実施 ・地域住民の「新川サロン」に子供たちも参加、クラフトバンドのおわら人形作り ・保護者や地域住民と一緒にアレンジフラワーに挑戦 ・北部っ子フェスティバルや左義長で子供たち同士の異年齢ふれあい
	阿尾公民館 (氷見市)	○ 健康ウォークを通して地域の歴史探訪といいもの発見 ウォーキング活動を通して心身の健康増進・交通安全、世代交流、ふるさとを再発見 ・氷見ラボ水族館を訪ね、絶滅危惧種イタセンパラの生態・保護について学習 ・布施の丸山登頂、布施を詠んだ大伴家持の歌について学習 ・健康ボランティアを交え、カレーライスで交流会実施
	大鋸屋公民館 (南砺市)	○ 地域コミュニティを支える「地域のために一汗かける人材」の育成推進 地域の子供たちが大人たちと一緒に、楽しみながら助け合いながら各種活動を実施。連帯と地域を愛する心を育てる ・家族や地域の人と一緒に木曾駒ヶ岳登山に挑戦 ・地域総参加の文化祭 ・さつま芋掘り&焼き芋大会、ブルーベリー摘み&ジャム作りで親子・祖父母と孫の交流
30	朝日公民館 (富山市)	○ 健康づくり、絆づくりを通じた住みよい地域づくり 健康寿命を意識付け、自らの健康に目を向けるとともに、地域の住民同士のふれあいや絆の深まりを体感する機会を推進 ・健康寿命をテーマに講座を開催。健康体操教室で認知症予防体験 ・ふれあい文化祭で健康づくり展、食生活改善コーナーを実施・啓発
	下中島公民館 (魚津市)	○ 指定無形民族文化財、せり込み蝶六の継承活動 伝統の意義を伝え子供たちに継承するための踊りを学ぶ機会を設け、世代、地域交流促進 ・17回の練習会、小1～高3の参加。教えあう場づくり ・魚津祭りせり込み蝶六街流しに参加し、成果を発表
	白萩西部公民館 (上市町)	○ 地域住民の参画による事業の工夫、推進 若年層から高齢者までが共に集い学び、連帯感をもつことができる公民館事業を実施 ・避難訓練、運動会、公民館祭り、地域ふれあい交流運営、参加促進 ・児童と保護者、長寿会員の交流でガーデニング ・スマートフォン教室で地域リーダーとしてIT時代に対応
	ふたぐちコミュニ ティセンター (射水市)	○ 児童育成事業 ～わんぱく学校 5限～ の実施 乳幼児・青少年健全育成の充実を地域団体の連携で総合的に推進 ・お話活動「みんなの本棚」で飛び出す絵本作り。夏祭り縁日 ・三世交流活動で竹細工・木工（夏季）、軽運動とゲーム（冬季） ・ハロウィンパーティ、クリスマス会の開催 ・歴史探訪歩こう会の実施
	般若公民館 (砺波市)	○ 地域の歴史や文化再発見と異世代交流促進 自分たちの住む地域のいにしえを知ることで地域の歩み・先人の努力に思いをもつとともに、地域伝統の焼き物づくりを体験 ・北般若、福山地区で地域巡り実施。（荘園成立、取水の苦労等） ・地元の三助焼きを体験。平安の須恵器からの地域史を学習

年度	研究委囀館	研究実践概要
令和 1	大庄公民館 (富山市)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験学習を通じた大庄地区の年長児の交流促進 様々な体験活動を通して地区内の保育園と幼稚園に通う年長児の交流を促進するとともに、春からの小学校生活の不安軽減を図る ・ 幼・保を越えて楽しく過ごせるよう、ゲームやリズム遊びを工夫 ・ コアトレーニング&Jポップダンス、英語に親しむ集いを実施 ・ 体験学習の内容をまとめた写真展を開催、保護者などにも紹介
	山崎公民館 (朝日町)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元食材を使ったオリジナル・クリスマスケーキづくり クリスマスケーキづくり教室での実習を通して、地元食材を知り、活用を学ぶとともに、世代交流や仲間との交流を促進 ・ 子供たちと親や祖父母がペアを組み、オリジナルケーキを製作 ・ ケーキと一緒に地区伝統料理「みそかんばん」「金糸瓜」も味わう試食会交流
	東加積地区公民館 (滑川市)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東加積地区の自然・文化財巡りと地域マップづくり 小学5年生を対象に自然・文化遺跡巡りを実施し、地域の歴史や自然理解を深めるとともに、全戸配布用の地域マップを製作 ・ 12年続く地域巡りを利用して子供たち向けの自然・遺跡学習を実施 ・ 地域マップの製作、全戸配布を通じ、大人世代にも周知
	古府公民館 (高岡市)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ぐるみの情報教育支援を通じた青少年健全育成 高度情報社会に適応できるよう、小学生や住民の興味・関心を高め、ITに親しみ活用する意欲を醸成 ・ 講座を通してARとVRの違い、それぞれの利便性を理解 ・ 小学生が実際にコンピュータを操作して、プログラミングを体験
	藪波公民館 (小矢部市)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域への愛着を高め、主体的に地域に関わる意識の醸成 住民交流・地域への愛着促進を柱として「健康麻雀教室」「歴史講座」を実施するとともに、運営リーダーを育成 ・ 毎土曜20回、毎水曜11回実施として「麻雀教室」開催 ・ 地区のいわれや歩み(座学)、高木山遺跡・藪波神社現地学習実施 ・ 親子交流、地域活動関係者が一堂に会してクリスマス会開催
2	山室公民館 (富山市)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウィズコロナ時代の地域住民の「学び ふれあい 結びあい」の構築
	横山公民館 (入善町)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公民館の文化サークルと保育所・小学校の交流による世代交流促進
	速川公民館 (氷見市)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童対象の農業体験事業(昔ながらの米作り、さつまいもづくり)
	高瀬交流センター (南砺市)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多世代にわたる住民の公民館活動参加促進による地域の絆強化

2 県公連会報に見る公民館活動

「とやま県公連会報」は、平成18年度から年3回の発行となり現在に至っている。各号では、「活動風景表紙写真構成」「各種事業報告」「わが町の公民館活動」「研究委嘱館の実践発表」「新刊紹介」等を掲載し、県公民館大会や東海北陸公民館大会等の各種大会や館長研修会、初任者研修会、主事・指導員等研修会等の各種研修会の概要を報告し、公民館を取り巻く現代的な課題や特色ある取組とその成果等について周知している。また、わが町の公民館活動や新館紹介では、地域の絆を深める取組や地域文化・伝統の伝承と再発見、子供たちの地域における活動の支援、IT化に対応したパソコン講座や災害発生時の緊急避難場所としての公民館の在り方等の新たな地域ニーズへ対応した活動の紹介が掲載され、県内各公民館への貴重な情報提供として一翼を担っている。

(1) 少子・高齢化社会における活動の工夫

日本社会における少子・高齢化の進行は、年々増加の一途をたどっている。富山県においてもその傾向は厳しさを増しており、限界集落という言葉がささやかれる地域も出始めている。そのような中、各地域では、従来からよく開催されてきたもちつき大会、七夕づくり、流しソーメン、クリスマス会といった活動に加え、公民館まつり、地域文化祭、みのり鍋、公民館フェスティバル、高齢者運動教室、子育て支援講座、親子料理教室、公民館宿泊学習、健康ウォーク、食生活改善講座、高齢者料理教室、認知症予防体操といった、地域住民が幅広く参加しやすい事業や子供・保護者を対象とした事業、家に閉じこもりがちな高齢者の参加を促す事業など、様々な工夫を凝らした事業の開催が見られる。

(2) 地域の文化・伝統の伝承と再発見

現代社会では、盆踊り大会など地域の伝統行事の衰退や核家族化の進行等により、地域の伝統文化を体験したり、高齢者（特に祖父母）から学んだりする機会が少なくなりつつある。このような現状への対応として、地域の史跡・名勝巡り歩こう会やふるさと探訪会、地域再発見ウォーク、三世代農業（田植え、稲刈り、野菜づくり）といった事業が展開されるようになり、子供から高齢者までが気軽に参加できて、地域住民相互の交流の場も広がるとともに、地域の伝統・文化や産業を学ぶ機会が増えてきている。また、こういった活動を通して、参加した子供たちがやがて各種事業の指導者・支援者として活躍する状況も拡大してきている。

(3) 新たな地域ニーズへの対応

社会の急激なIT化や大規模な自然災害の発生に伴い、いずれの地域でも高齢者パソコン講座や緊急避難訓練・緊急避難所設営訓練、ハザードマップづくり等の事業開催への社会的要望が高まってきている。このような中、パソコンが不足する公民館では、各市町村の行政担当者と協力して、市町村の社会教育施設を活用したパソコン講座を開催したり、公民館を避難所とする避難訓練、緊急避難場所設営訓練等が実施されたりするようになってきている。

富山県は比較的自然災害の少ない地域ではあるが、各地域では自主防災組織の結成も進んでおり、公民館と連携した様々な防災訓練が今後も幅広く行われていくことが予想される。

■参考：会報に見る特色ある公民館活動

年度	号数	発行月日	記事の概要
平成 23	311号	7月20日	・ 1面「生きがいと潤いを求め、連帯感を高める公民館活動～高齢者の活動を中心に～」（立山町高野公民館）
			・ 4面：わが町の公民館活動 「世代を超えた交流とふれあい」（入善町立野中公民館） 「地域住民交流の場『コミュニティセンター』」（射水市大島コミュニティセンター）
			・ 5面：わが町の公民館活動 「食と笑顔が結ぶ奥北の輪・和」（富山市立奥田北公民館） 「地域に密着した体験活動」（南砺市北山田公民館）
	312号	12月21日	・ 6面：新館紹介……富山市立保内公民館
			・ 1面「集まろう、語ろう、みんなの公民館!!」（高岡市立野村公民館）
			・ 6面：わが町の公民館活動 「『ふるさと教育推進事業』で地域を見直す活動を」（滑川市立早月加積地区公民館） 「人々の結びつきを高める公民館に」（高岡市立東部公民館）
			・ 7面：わが町の公民館活動 「『三日市まち歩き事業』でまちを再認識」（黒部市立三日市公民館） 「『三世代交流』で地域づくり」（小矢部市立松沢公民館）
	313号	3月19日	・ 8面：新館紹介……射水市ふたくちコミュニティセンター
			・ 1面「明日への希望と感動」（南砺市福野中部公民館）
24	314号	7月18日	・ 4面：わが町の公民館活動 「地域全体で担う育成事業を目指して」（富山市立岩瀬公民館） 「地域に根ざした交流活動で絆を深める」（氷見市速川公民館）
			・ 5面：わが町の公民館活動 「歴史と文化に根ざした地域づくりを目指して」（魚津市西布施公民館） 「様々な行事でふれあいを深める」（砺波市立若林公民館）
			・ 1面「故郷（ふるさと）を学ぶ」（黒部市立中央公民館）
	315号	12月20日	・ 4面：わが町の公民館活動 「『親子ふれあい自然体験』で地域づくり」（朝日町立宮崎公民館） 「これからの公民館活動を考える」（南砺市上平公民館）
			・ 5面：わが町の公民館活動 「故郷の歴史や自然を友に楽しい交流の輪を繋いでいこう」（高岡市立西五位公民館） 「地域住民交流の場『コミュニティセンター』」（射水市作道コミュニティセンター）
・ 6面：新館紹介……富山市立清水町公民館			
316号	3月22日	・ 1面「新しくなった公民館で、新たな発見、出会いを!」（富山市立杉原公民館）	
		・ 4面：わが町の公民館活動 「絆と連帯を深める活動」（黒部市立荻生公民館） 「心通い合う、豊かな地域をめざして」（砺波市立油田公民館）	
		・ 5面：わが町の公民館活動 「郷土の偉人の足跡を訪ねて」（滑川市立滑川西地区公民館） 「隣接する公民館と共に地域づくり」（氷見市宇波公民館）	
316号	3月22日	・ 6面：新館紹介……射水市太閤山コミュニティセンター	
		・ 1面「新湊大橋開通で新しい町づくり」（射水市堀岡コミュニティセンター）	
		・ 6面：わが町の公民館活動 「明るく健康で心ゆたかな地域づくり『体力づくりとふるさと探訪』」（立山町立利田公民館） 「津沢の伝統文化を守り育てる公民館活動」（小矢部市立津沢公民館）	
316号	3月22日	・ 7面：わが町の公民館活動 「地域組織と一体となって活動しています」（魚津市松倉公民館） 「世代を超えた交流で地域の活性化を」（富山市立速星公民館）	

年度	号数	発行月日	記事の概要
25	317号	7月19日	・ 1面「庄川観光祭を核として“ふるさと学習”の推進」(砺波市中央公民館)
			・ 4面：わが町の公民館活動 「文化の継承と地域コミュニケーションの推進」(富山市立大庄公民館) 「『ふれあい』『学びあい』『結びあい』一人一人が共に学び・助け合い・交流できる場を目指して！」(南砺市福野東部公民館)
			・ 5面：わが町の公民館活動 「地域住民の集いの場：愛称『いこいの館』設立」(黒部市立下立公民館) 「地域住民と共に歩み続ける公民館」(高岡市立木津公民館)
			・ 6面：新館紹介……富山市立柳町公民館
	318号	12月13日	・ 1面「出会い・ふれあい・学びあい」(入善町新屋公民館)
			・ 6面：わが町の公民館活動 「学びと健康のよくばりウォーキング」(氷見市阿尾公民館) 「住民の支え合い・助け合いを高める」(富山市立大久保公民館)
			・ 7面わが町の公民館活動 「ふるさと教育で地域再発見」(魚津市村木公民館) 「地区の活性化をめざして」(小矢部市立北蟹谷公民館)
			・ 8面：新館紹介……高岡市立西条公民館
	319号	3月14日	・ 1面「子供たちの笑顔で地域を明るく」(魚津市下中島公民館)
・ 4面：わが町の公民館活動 「地域の絆を深める場を目指して」(上市町立宮川公民館) 「地域に『ねばる』＝根を張る」(砺波市立林公民館)			
・ 5面：わが町の公民館活動 「親子三世代が集い地域交流」(滑川市立東加積地区公民館) 「故郷のよさを生かし、ふれあいを深める」(射水市池多コミュニティセンター)			
26	320号	7月22日	・ 1面「花植えを通して、魅力あるふるさとづくりの推進～みんなでさかそう！えがおの花～」(富山市立光陽公民館)
			・ 4面：わが町の公民館活動 「伝統を受け継ぐ」(立山町立高野公民館) 「伝統文化の学習と心豊かなふるさと創り活動」(南砺市蓑谷公民館)
			・ 5面：わが町の公民館活動 「高齢化が進む県境の公民館」(朝日町立境公民館) 「情報紙がむすぶ地域と世代」(高岡市立北般若公民館)
			・ 6面：新館紹介……入善町舟見公民館(舟見交流センター)
	321号	12月15日	・ 1面「蛇が島と有磯海を通じた地域の交流」(氷見市女良公民館)
			・ 6面：わが町の公民館活動 「人が輝く元気な長岡地区”を目指して」(富山市立長岡公民館) 「公民館活動の原動力」(上市町立音杉公民館)
			・ 7面：わが町の公民館活動 「『米作り体験』で異世代交流」(魚津市上中島公民館) 「文化の伝承や礼儀作法は小さい頃から」(小矢部市立石動公民館)
			・ 8面：新館紹介……富山市立太田公民館
	322号	3月16日	・ 1面「文化と伝統を次世代へ」(朝日町立笹川公民館)
・ 4面：わが町の公民館活動 「歴史と伝統のある町を盛り上げたい！」(高岡市立福田公民館) 「『新保ル・ロード』花いっぱい運動でのおもてなし」(富山市立新保公民館)			
・ 5面：わが町の公民館活動 「地域のきずなを大切に…『公民館まつり』を年2回開催」(滑川市浜加積地区公民館) 「地域と共に生き続ける公民館活動」(砺波市立五鹿屋公民館)			

年度	号数	発行月日	記事の概要
27	323号	7月23日	・ 1面「自然豊かな山間地での地域コミュニティの場～世代間交流や地域間交流、古里の歴史伝承を繋ぐ～」(小矢部市立南谷公民館)
			・ 4面：わが町の公民館活動 「地域コミュニティの充実に向けて」(魚津市本江公民館) 「住民参加の地域づくりを目指して」(射水市大門コミュニティセンター)
			・ 5面：わが町の公民館活動 「昔の道具で米づくり」(富山市立五福公民館) 「地域に根ざして」(上市町立大岩公民館)
			・ 6面：新館紹介……高岡市立横田公民館
	324号	12月15日	・ 1面「将来の公民館を担う若者達への願い」(立山町立釜ヶ淵公民館)
			・ 4面：わが町の公民館活動 「地区の皆様と共に」(砺波市立柳瀬公民館) 「世代間交流と地域の交流を目指して」(黒部市立田家公民館)
			・ 5面：わが町の公民館活動 「多様な学習ニーズに応じて…大学との連携」(氷見市中央公民館) 「小さい地区の大きなイベント」(富山市立室牧公民館)
			・ 6面：新館紹介……黒部市立浦山公民館
	325号	3月16日	・ 1面「『住んで良かった』『住んでみたい』そんな音川」(富山市立音川公民館)
・ 4面：わが町の公民館活動 「伝統行事で深める絆」(滑川市山加積地区公民館) 「地区の皆様と共に」(南砺市井波公民館)			
・ 5面：わが町の公民館活動 「世代を超えた交流とふれあい」(入善町野中公民館) 「地域の住民とふれ合う」(高岡市立二塚公民館)			
28	326号	7月22日	・ 1面「安心、安全、笑顔あふれるまち 片口」(射水市片口コミュニティセンター)
			・ 4面：わが町の公民館活動 「地区の皆さんと心を合わせて！」(富山市立山室公民館) 「地区の皆様と共に」(上市町立相ノ木公民館)
			・ 5面：わが町の公民館活動 「文化遺産の継承を目指して」(小矢部市立埴生公民館) 「子供からお年寄りまで」(魚津市経田公民館)
			・ 6面：新館紹介……高岡市立伏木公民館
	327号	12月15日	・ 1面「住み心地のいい 元気な大布施」(黒部市立大布施公民館)
			・ 6面：わが町の公民館活動 「子供とふれあい 元気に！」(氷見市窪公民館) 「魅力あるふるさとづくりを地区の皆様と共に」(富山市立奥田公民館)
			・ 7面：わが町の公民館活動 「繋がりが広がる」(立山町立新川公民館) 「集いふれあう公民館活動」(砺波市立高波公民館)
			・ 8面：新館紹介……入善町横山公民館
	328号	3月16日	・ 1面「地域住民と共に活動」(南砺市福光公民館)
・ 4面：わが町の公民館活動 「親子で地域の良さを再発見！」(朝日町立大家庄公民館) 「是戸健康おたっしゅ教室の実践」(高岡市立是戸公民館)			
・ 5面：わが町の公民館活動 「異世代間交流で心にも栄養を」(富山市立水橋中部公民館) 「さらに新しいつながりを求めて」(滑川市北加積地区公民館)			

年度	号数	発行月日	記事の概要
29	329号	7月21日	・ 1面「三世代の絆を結ぶ！」(上市町立柿沢公民館)
			・ 4面：わが町の公民館活動 「2泊3日の通学合宿を通して～約束、感謝、交流～」(小矢部市立正得公民館) 「地区のみなさんと共に」(魚津市上野方公民館)
			5面：わが町の公民館活動 「子供も大人もみ～んな集まって！」(射水市金山コミュニティセンター) 「地区のみんなであそぶとづくり」(富山市立上条公民館)
	330号	12月15日	・ 1面「伝統文化の町」(富山市立八尾公民館)
			・ 6面：わが町の公民館活動 「あそぶ！まなぶ！むすぶ！」(立山町立五百石公民館) 「みんなが高める地域の文化」(砺波市立南般若公民館)
			・ 7面：わが町の公民館活動 「豊かな伝統文化の継承」(黒部市立生地公民館) 「ボランティアとの連携で」(氷見市上庄公民館)
331号	3月16日	・ 8面：新館紹介……射水市作道コミュニティセンター	
		・ 1面「地域文化の継承・地区活性の拠点」(高岡市立小勢公民館)	
		・ 4面：わが町の公民館活動 「自然の豊かさを実践」(富山市立速星公民館) 「後世に伝えるふるさと愛」(滑川東地区公民館)	
30	332号	7月24日	・ 5面：わが町の公民館活動 「交流と支えあいで活力あふれる地区に」(南砺市山田公民館) 「ふれあいの場を求めて」(入善町青木公民館)
			・ 1面「都市との交流で地域の活性化をめざす！」(魚津市片貝公民館)
			・ 4面：わが町の公民館活動 「みんな元気！みんな笑顔！のコミュニティを目指して」(射水市水戸田コミュニティセンター) 「異世代交流であそぶとづくり」(富山市立大庄公民館)
	333号	12月17日	・ 5面：わが町の公民館活動 「自然と文化に親しみ地域の絆を深める」(上市町立山加積公民館) 「子供教室実行委員会の取り組み」(小矢部市立荒川公民館)
			・ 6面：新館紹介……富山市立倉垣公民館
			・ 1面「集い！ふれあい！学びあい！～花・水・散居がつなぐ心のオアシス東般若を目指して～」(砺波市立東般若公民館)
334号	3月15日	・ 6面：わが町の公民館活動 「巣箱かけ90年の伝統を継承して」(黒部市立愛本公民館) 「異世代交流事業の推進」(氷見市十三公民館)	
		・ 7面：わが町の公民館活動 「三世代が集う壇ノ山ふれあい公園」(富山市立月岡公民館) 「住民の笑顔を糧に」(立山町立大森公民館)	
		・ 8面：新館紹介……高岡市立能町公民館	
334号	3月15日	・ 1面「“日本一笑顔が輝く舟橋村”を目指して」(舟橋村公民館)	
		・ 4面：わが町の公民館活動 「地域総参加で盛り上げる催し」(南砺市平公民館) 「自立心養う公民館通学合宿」(朝日町立五箇庄公民館)	
		・ 5面：わが町の公民館活動 「『連携・協力』の公民館活動」(高岡市立福田公民館) 「地区住民でつくる納涼まつり」(富山市立荻浦公民館)	

年度	号数	発行月日	記事の概要
令和1	335号	7月23日	・ 1面 「『地域に親しまれる公民館』をめざして」(富山市立広田公民館)
			・ 4面: わが町の公民館活動 「郷土への誇りと愛着を育む公民館活動」(滑川市中加積地区公民館) 「おしゃべり広場と三世代交流の取り組み」(小矢部市立宮島公民館)
			・ 5面: わが町の公民館活動 「チームみちした三味線隊」(魚津市道下公民館) 「『生き生きと暮らせる住みよい街づくり』を目指して」(射水市戸破コミュニティセンター)
			・ 6面: 新館紹介……黒部市立音沢公民館(音沢交流センター)
	336号	12月11日	・ 1面 「小学校との連携事業に感謝の年」(氷見市速川公民館)
			・ 6面: わが町の公民館活動 「世代間交流の場に」(富山市立小羽公民館) 「地域特産で結ばれるイベントの開催」(上市町立南加積公民館)
			・ 7面: わが町の公民館活動 「郷土の暮らしに誇りを」(砺波市立雄神公民館) 「名水の里『黒部』・清水の里『生地』」(黒部市立生地公民館)
	337号	3月17日	・ 8面: 新館紹介……砺波市立五鹿屋公民館
			・ 1面 「地区と人が関わる活動を願って」(入善町入善公民館)
・ 4面: わが町の公民館活動 「多くの人々が楽しく集う公民館に」(高岡市立二上公民館) 「西田地方の歴史を後世に」(富山市立西田地方公民館)			
2	338号	7月15日	・ 5面: わが町の公民館活動 「公民館を地域の笑顔の宝庫に!」(立山町立新川公民館) 「コミュニケーションで結ぶ地域交流活動」(南砺市安居地区協議会)
			・ 1面 「集う・学ぶ・つながる」場に」(小矢部市立水島公民館)
			・ 4面: わが町の公民館活動 「公民館活動で地区のにぎわい創出」(朝日町立山崎公民館) 「花いっぱい 人も地域も元気に」 (射水市金山コミュニティセンター) 「『子ども食堂』始めました!」(富山市立蜷川公民館) 「地域のみなさんと共に」(上市町立上市公民館)
	339号	12月22日	・ 6面: 新館紹介……魚津市村木公民館
			・ 1面 「高めよう地域力! 輪をひろげ集う公民館活動」(滑川市西加積地区公民館)
			・ 6面: わが町の公民館活動 「コロナ禍でもポジティブに!」(砺波市立種田公民館) 「地域を元気に!」(魚津市大町公民館)
340号	3月19日	・ 7面: わが町の公民館活動 「コロナに負けずに行事を継続!!」(氷見市宇波公民館) 「with コロナにおける公民館」(富山市立呉羽公民館)	
		・ 8面: 新館紹介……富山市立八尾公民館	
		・ 1面 「今だからこそ地域のふれあいを大切にしたい」(富山市立新庄北公民館)	
			 砺波市立雄神公民館
			 立山町立新川公民館
			 富山市立蜷川公民館
			 氷見市立宇波公民館

3 市・郡公民館関係者研修会

平成19年度から実施されている「富山県公民館地域づくり研修会事業」では、地域が主体性をもって実施することができるよう実施時期、主題や方法、参加者等は、主催側の裁量・工夫に任せ、各市や郡で、それぞれ教育行政者、社会教育関係者、公民館関係者等の三者が一堂に会して、研修・交流する機会をもっている。現在は、地域の特性を生かした、活力ある地域づくりの推進をテーマとして、公民館活動の今日的諸課題について実践発表や研究討議等を行い、公民館活動の普及・啓発とともに、参加者の資質の向上を図ることをねらいとして開催されている。

事例としては、地域のまちづくり課題に合わせた先進地視察、自らの見聞を広め、新しい情報を収集する体験型職員研修、研究実践の発表や情報交換会を通じた当面する諸課題の共有、公民館同士の連携、地域住民のニーズに応えながら企画・運営するフェスティバルなど、専門的研修から住民による活動成果の発表まで多彩な事業に活用されている。これらの継続的な実施によって、各市や郡の恒例行事として定着しているところもあり、公民館の主要事業として年間計画に位置付けられている。

地域活性化やまちづくりの推進には、現場の職員や関係者、参加者による研修等の学びの場を通じた相互のつながりが必要であり、新しい発想や工夫はこれらを基にして生まれる。各市町村の公民館関係予算が削減される中、地域課題に向き合い、地域独自の強みや特色を生かした取組を進めるために、一人一人が社会を担う当事者としての自覚を高める研修の機会を確保することは、元気で明るい多様な地域社会の共創には不可欠である。

■参考：市・郡公民館関係者研修会の開催状況

平成29年度

市郡	月日・会場	概要 (1=研修課題(趣旨) 2=研修内容等)
下新川	<ul style="list-style-type: none"> 5月13日(土) なないろKAN 12月2日(土) 朝日町図書館 	<ol style="list-style-type: none"> ふるさとの歴史・文学を学び、住民の郷土愛を醸成させる公民館活動の企画について研修を深める。 5月は敬和学園大学考古学非常勤講師の藤田富士夫氏による「翡翠の勾玉はどこへいったか」の講演、12月は地元の2公民館長から、日々の活動での運営方法等で工夫しているところや、効果、課題等について話を聞いた。
黒部市	<ul style="list-style-type: none"> 7月11日(火) 岐阜県羽島市正木コミュニティセンター 	<ol style="list-style-type: none"> 特色ある県外の公民館を視察し、住民のニーズに応えながら運営している公民館を視察した。 正木コミュニティセンターの運営形態や現体系に移行したことによるメリットとデメリット及び運営主体の変化に伴う行事や活動の変化等について意見交換会を実施した。
魚津市	<ul style="list-style-type: none"> 9月14日(木) 郡上市総合文化センター 1月25日(木) スカイホテル魚津 	<ol style="list-style-type: none"> 公民館職員の資質向上をねらいとした先進地区の視察と講演会を実施した。 9月は岐阜県郡上市総合文化センターを訪問し、先進的な活動をしている相生公民館の活動事例を聞き、1月は南砺市福光公民館長出村孝志氏による「災害時における公民館の役割と防災活動」の講演と公民館活動の現状についての分科会を開催して研修を深めた。

市郡	月日・会場	概 要 (1=研修課題(趣旨) 2=研修内容等)
滑川市	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日(日) 滑川市旧町部、東・西地区 	<ol style="list-style-type: none"> 「滑川の歴史的建築の見どころ 神社・寺院・町屋」をテーマに、歴史的建築物の現地研修を行い、地域の歴史的な価値を再認識し、地域に根差した活動を考える。 山形大学教授の永井康雄氏に旧宿場町の町並みの中で、国登録有形文化財に指定された建物を含めた10棟の解説をしていただき研修を深めた。
中新川郡	<ul style="list-style-type: none"> 7月20日(木) 上市町文化研修センター 	<ol style="list-style-type: none"> 地域の史跡を学ぶ研修会実施し、公民館活動において郷土への愛着と誇りを高めることの重要性について学ぶ。 上市町教育委員会生涯学習班係長三浦知徳氏による「史跡上市黒川遺跡群について」の講演と情報交換会を実施した。
富山市	<ul style="list-style-type: none"> 7月21日(金) 富山市大久保ふれあいセンター 12月7日(木) 富山市八尾コミュニティセンター 	<ol style="list-style-type: none"> 豊かな活力ある町づくりを目指す自治公民館の効果的な活動や地域との連携等について 県防災士会小杉邦夫氏や県農林水産総合技術センター小島洋一氏による講演と市立・自治公民館の事例発表を実施した。
射水市	<ul style="list-style-type: none"> 12月3日(日) 射水市高周波文化ホール 	<ol style="list-style-type: none"> 射水市生涯学習フェスティバル、射水市生涯学習作品展を開催した。 新湊小学校管楽器クラブによるオープニング演奏、県ロケーションオフィス前佛聡氏の講演と4団体による芸能発表、作品展を行い、子供から大人まで広く生涯学習を楽しむことをアピールした。
高岡市	<ul style="list-style-type: none"> 2月3・4日(土・日) 高岡市生涯学習センター 	<ol style="list-style-type: none"> 第14回高岡市公民館フェスタ・第57回高岡市公民館研究大会 公民館フェスタでは、618点の作品を展示、20団体 277名が芸能発表。研究大会では、ハーモニカサークルの公演や優良自治公民館表彰、事例発表を実施した。
氷見市	<ul style="list-style-type: none"> 4月26日(水) 氷見市中央公民館 	<ol style="list-style-type: none"> AEDを活用した応急処置講習を実施し、応急手当の指導力向上に努めた。 29年度当初予算で地域公民館5館にAEDが配置されることになり、公民館活動時に応急手当が必要となったときに適切な対応がとれるよう、氷見市消防本部職員による実技研修を実施した。
小矢部市	<ul style="list-style-type: none"> 6月26日(月) 富山市ガラス美術館 1月31日(水) 小矢部市立正得公民館 	<ol style="list-style-type: none"> 富山市ガラス美術館や富岩運河環水公園の見学を通して見聞を広め、職員の資質向上を図る。 食生活改善推進委員による講義と公民館活動の企画や運営、指導を推進する意見交換会を実施した。
砺波市	<ul style="list-style-type: none"> 8月2日(水) 庄川生涯学習センター 	<ol style="list-style-type: none"> 公民館活動の活性化と専門部会役員の資質向上をねらいとした5分科会による研修会を開催した。 市内各公民館の総務・体育・文化学習・広報・青少年育成部会の役員と行政関係者が一堂に会し、各地域の情報交換を実施した。
南砺市	<ul style="list-style-type: none"> 4月19日(水) じょうはな座、利賀地域 10月19・20日(木・金) 12月1日(金) 井波総合文化センター 	<ol style="list-style-type: none"> 施設見学や講演会を通して地域の文化財や歴史を学ぶとともに、南砺市の現状と課題等について研修を深めた。 城端公民館館長松平保夫氏による「城端曳山祭」の講演と曳山会館の見学、利賀地域にある天然記念物や文化財、利賀ダムの施設見学を通して利賀地域の歴史を学習した。 南砺で暮らしません課長市川孝弘氏による「小規模多機能自治体について」の講演を実施した。

平成30年度

市郡	月日・会場	概 要 (1=研修課題(趣旨) 2=研修内容等)
下新川郡	<ul style="list-style-type: none"> 12月8日(土) 入善まちなか交流施設 うるおい館 	<ol style="list-style-type: none"> 地域の自然環境を活用し、地域の活性化に結び付ける公民館活動について研修を深める。 「黒部川扇状地とその利活用による地域活性化」と題し、黒部川扇状地研究所所長水嶋一雄氏による講演を実施した。
魚津市	<ul style="list-style-type: none"> 8月20日(月) 金沢市大野町公民館 1月21日(月) スカイホテル魚津 	<ol style="list-style-type: none"> 先進的な活動をしている公民館を訪問し、活動事例を通して研修を深めた。 魚津市定住応接室小林孝仁氏による「魚津市定住応接室の活動について」の講演と災害対応カードゲームを活用した分科会を開催した。
滑川市	<ul style="list-style-type: none"> 2月17日(日) 滑川市民交流プラザ 	<ol style="list-style-type: none"> 地域づくりと公民館活動 ～地域に根ざした活動を考える～ 富山短期大学木元清明教授による「多死社会を迎えて～人生の『終活』に備える～公民館活動の果たすべき役割」の講演と2公民館による「心豊かなまちづくり推進事業」の実践発表を実施した。
中新川郡	<ul style="list-style-type: none"> 7月24日(火) 舟橋会館 	<ol style="list-style-type: none"> 高齢化が進む中、地域住民や公民館職員の心と体の健康管理について考える。 富山県社会人大楽塾代表柳原正年氏による「人生100年時代『笑顔エクササイズと歌体操』で生きがいづくり～公民館で楽しいつながりをつくるためのコミュニケーションスキル～」の講演とエクササイズ及びコミュニケーションスキルの実技を実施した。
富山市	<ul style="list-style-type: none"> 7月11日(水) 富山市大久保 ふれあいセンター 12月6日(木) 富山市八尾 コミュニティセンター 	<ol style="list-style-type: none"> 豊かな活力ある町づくりを目指す自治公民館の効果的な活動や地域との連携など、地域における社会教育活動指導者としての資質向上を図る。 市の商工労働部薬業物産課主幹由水正恵氏と活力都市創造部富山駅周辺地区整備課主幹山崎悟氏による講演と市立・自治公民館の事例発表を実施した。
射水市	<ul style="list-style-type: none"> 12月2日(日) 射水市高周波文化ホール 	<ol style="list-style-type: none"> 射水市生涯学習フェスティバル、射水市生涯学習作品展を開催した。 富山大学工学部准教授高尚策氏によるAIに関する講演と5団体によるステージ発表、活動サークルやコミュニティセンター及び放課後子ども教室の作品展を実施した。
高岡市	<ul style="list-style-type: none"> 1月26・27日(土・日) 高岡市生涯学習センター 	<ol style="list-style-type: none"> 第15回高岡市公民館フェスタ・第58回高岡市公民館研究大会 公民館フェスタでは、750点の作品を展示、18団体227名が芸能発表。研究大会では、源多良太鼓保存会の講演や優良自治公民館表彰、2公民館の事例発表を実施した。
氷見市	<ul style="list-style-type: none"> 4月20日(金) 氷見市中央公民館ホール 	<ol style="list-style-type: none"> 氷見市の「地域づくり・まちづくり」の現状と方向性について 地域づくり協議会の必要性、設立状況、設立のメリット、これからの地域運営における公民館の役割について意見交換。市の担当者から「市民が主役の地域づくり補助金」と「ふるさと教育の充実」及び「生涯学習の充実」について説明を聞いた。
小矢部市	<ul style="list-style-type: none"> 5月24日(木) 五箇山、白川郷 1月30日(水) 小矢部市立若林公民館 	<ol style="list-style-type: none"> 五箇山、白川郷の合掌造り見学と紙すき体験を通して見聞を広め、職員の資質向上を図る。 砺波市梅檀山公民館長の柳瀬岩蔵氏による「公民館と地域の繋がり」の講演と行事の企画・運営、特徴のある公民館活動について意見交換を実施した。

市郡	月日・会場	概要 (1=研修課題(趣旨) 2=研修内容等)
砺波市	<ul style="list-style-type: none"> 8月2日(木) 庄川生涯学習センター 	<ol style="list-style-type: none"> 1 公民館活動の活性化と専門部会役員の資質向上をねらいとした5分科会による研修会を開催した。 2 市内各公民館の総務・体育・文化学習・広報・青少年育成部会の役員と行政関係者が一堂に会し、各地域の情報交換を実施した。
南砺市	<ul style="list-style-type: none"> 4月18日(水) 11月1・2日(木・金) 12月7日(金) 井波総合文化センター 	<ol style="list-style-type: none"> 1 超高齢化社会における終末期医療を考える機会の提供や地域づくり・人づくりの拠点としての公民館の果たす役割について 2 南砺市民病院院長清水幸裕氏による「最後まで自分らしく」の講演と夢企画代表取締役河川崎葉子氏による「原発事故に学んだ提言」の講演を実施した。

令和元年度

市郡	月日・会場	概要 (1=研修課題(趣旨) 2=研修内容等)
下新川郡	<ul style="list-style-type: none"> 5月11日(土) 入善町健康交流プラザ サンウェル 12月7日(土) 入善まちなか交流施設 うるおい館 	<ol style="list-style-type: none"> 1 まちづくりの拠点としての今後の公民館運営の在り方や災害に備えた公民館の役割等について研修を深める。 2 5月は富山大学藤田公仁子氏による「公民館の活性化について」の講演、12月は県防災士会による「災害に備えた公民館の役割や防災への関わり」についてワークショップを実施した。
黒部市	<ul style="list-style-type: none"> 9月25日(水) 長野県飯山市、飯綱町、信濃町 11月27日(水) 黒部市役所 	<ol style="list-style-type: none"> 1 他地域の伝統文化や産業を視察し、各地域のPRする方法を学ぶ現地研修会を実施した。 2 市総務課による「会計年度任用職員制度」について研修会を実施した。
魚津市	<ul style="list-style-type: none"> 8月30日(金) 金沢市湯桶公民館 11月26日(火) 魚津市役所 1月21日(火) スカイホテル魚津 	<ol style="list-style-type: none"> 1 公民館職員の資質向上と今後の公民館活動の運営の充実・発展をねらいとした講演会の開催と先進地区の視察を実施した。 2 金沢市湯桶公民館を訪問し、地域の特性を生かした事業運営について研修を深めた。射水市ふたくちコミュニティセンター長木倉裕氏による「コミュニティセンターの運営及び事業実施について」の講演とテーマ「学校統合後の各地域での子供たちの活動について」のワークショップを実施した。
滑川市	<ul style="list-style-type: none"> 2月16日(日) 滑川市民交流プラザ 多目的ホール 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「郷土の偉人の足跡を学び知識を深める」をテーマに、郷土の歴史を学び、公民館活動にどう生かすかを考える。 2 前中加積地区公民館長福田恒氏による「郷土の偉人 道三翁の生涯～新発見資料より新事実も～」の講演を実施した。
中新川郡	<ul style="list-style-type: none"> 8月20日(火) 立山町民会館 	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域づくり・人づくりには「笑い」は不可欠なものと考え、三遊亭良楽氏による「笑いとコミュニケーション」の講演会を実施し、相手への対応や話し方について学ぶ。 2 公民館が実施する事業について情報交換会を実施し、地域住民とのコミュニケーションや地域づくりにつながる方策等について研修を深めた。

市郡	月日・会場	概要 (1=研修課題(趣旨) 2=研修内容等)
富山市	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 7月23日(火) 富山市大久保 ふれあいセンター ◦ 12月5日(木) 富山市八尾 コミュニティセンター 	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな活力ある町づくりを目指す自治公民館の効果的な活動や地域との連携など、地域における社会教育活動の指導者として資質の向上を図る。 2 7月は射水市立歌の森小学校長高田昭彦氏、12月には市環境部環境政策課課長代理東福光晴氏による「公民館が地域づくりに果たす役割」についての講演と市立・自治公民館の事例発表を実施した。
射水市	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 12月1日(日) 射水市高周波文化ホール 	<ol style="list-style-type: none"> 1 射水市生涯学習フェスティバル、射水市生涯学習作品展を開催した。 2 影絵師ジャック・ランダル氏による講演と3団体によるステージ発表、活動サークルやコミュニティセンター及び放課後子ども教室の作品展と親子で学ぶ論語塾成果発表展を行い、子供から大人まで幅広く生涯学習を楽しんだ。
高岡市	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 2月1・2日(土・日) 高岡市生涯学習センター 	<ol style="list-style-type: none"> 1 第16回高岡市公民館フェスタ・第59回高岡市公民館研究大会 2 公民館フェスタでは、750点の作品を展示、17団体282名が芸能発表。市公連創立70周年を記念して、都市間交流を行っている金沢市の公民館も発表。研究大会では、富山千吟会の公演や優良自治公民館表彰、2公民館の事例発表を実施した。
氷見市	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 4月24日(水) 氷見市中央公民館ホール 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自然災害に係る緊急避難場所としての公民館の役割について 2 市担当者から「避難場所と避難所との違い」「避難場所開設に係る連絡体制」「防災情報の明確化」等について説明を聞くとともに、情報交換を通して公民館に期待される災害対応について理解を深めた。
小矢部市	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 5月5日(日) 富山湾、新湊内川他 ◦ 1月30日(木) 小矢部市立松沢公民館 	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設見学や体験学習を通して見聞を広め、職員の資質向上を図るとともに、公民館活動の企画・運営、指導を推進する意見交換会を実施した。 2 5月は富山湾の深海調査体験と寄り回り波の講演、1月は高岡万葉歴史館学芸課長新谷氏による「小矢部市ゆかりの万葉集『令和』のこころに触れるとともに」の講演及び公民館祭での意見交換を実施した。
砺波市	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 8月7日(水) 庄川生涯学習センター 	<ol style="list-style-type: none"> 1 公民館活動の活性化と専門部会役員の資質向上をねらいとした5分科会による研修会を開催した。 2 市内各公民館の総務・体育・文化学習・広報・青少年育成部会の役員と行政関係者が一堂に会し、各地域の情報交換を実施した。
南砺市	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 4月26日(金) 井波総合文化センター ◦ 7月11日(木) 氷見市、高岡市 ◦ 11月29日(金) 井波総合文化センター 	<ol style="list-style-type: none"> 1 小規模多機能自治の開始を契機に、住民同士のコミュニケーションを深める研修や公共施設・観光資源の有効活用を学ぶ視察研修、様々な世代が参加できる地域づくりを学ぶ研修会を開催した。 2 4月は富山国際大学の村上満氏による「やさしいコミュニケーションのレシピ 話すは技術、聴くは人の器」の講演、7月は氷見市の柳田布尾山古墳、獅子舞ミュージアム、万葉歴史館の見学と氷見市役所の視察、11月は元富山国際大学の永田円了氏による「しがらみを抜けて」の講演と高瀬西地域づくり協議会による事例発表を実施した。

4 第49回東海北陸公民館大会富山大会

第49回東海北陸公民館大会富山大会は、平成24年9月6日(木)・7日(金)の2日間にわたって、富山市の富山県民会館・富山国際会議場・富山県教育文化会館・パレプラン高志会館・北日本新聞ホールを会場に開催された。

(1) 大会趣旨

大会コンセプトは前回第42回富山大会コンセプトを継承した。今日的課題を具体を通して研究し、成果を共有し、参加者の利便性が高く移動負担等が軽減されるよう市内を循環する路面電車沿線に会場を設定するとともに、「心づくしのもてなし」によって富山らしい大会とすることとした。

大会趣旨については、大会テーマと併せて検討が進められた。社会が大きく変化し、地域社会の意義が薄れ、地域の活力が心配される中で、東日本大震災という未曾有の災害を体験し、地域の連帯感の醸成、その中核としての公民館の役割の重要性が改めて問われていること等を盛り込んだ案が策定された。決定された大会の趣旨は次のとおりである。

近年の急速な少子化は、人口減少、超高齢化、一人暮らし世帯の増加等、地域社会の活力そのものが心配されるところに至っています。また、都市化、グローバル化、ネット社会拡大の陰で、地域における人々の人間関係や地域社会への帰属意識が希薄になっています。

公民館は誕生以来、住民の「自主・相互・総合」の最も身近な教育機関として、実生活に即して地域の課題解決を図り、自治と連帯意識を高めるとともに、住民のニーズに応じて生涯学習を充実・推進する役割を担ってきました。公民館の原点は、地域の人々の協働と学びによる『公共』の創出・向上、「人づくり・絆づくり・ふるさとづくり」にあります。

今、『公民館』が問われ、期待されています。先の東日本大震災によって、今日の社会における『公民館』の意義や役割を再定義し、総ぐるみの協働によって地域の絆や豊かで安全・安心な地域社会を実践的に創りだしていくことの必要性が人々に明らかになりました。私たちは今こそ培われてきた底力を発揮して『絆』を再構築し、激しい社会の変化に揺れ動く地域の課題への対応に努めなければなりません。

ここに、東海北陸各県の公民館関係者をはじめ、社会教育・生涯学習関係者、市民が集い、実践活動を紹介しあい、研究討議を通して交流を深め、これからの公民館活動に、共に歩を進めようとするものです。

(2) 大会主題

大会趣旨を端的・明確に表現し、共有できる言葉として次のように設定した。

地域の絆・人々の連帯を再構築する公民館のあり方
～ 希望の輪・共感の輪を広げる活動の創造 ～

(3) 分科会構成・テーマ

過去の東海北陸大会の分科会テーマの推移、他ブロックの大会の分科会テーマの動向なども参考に、実践研究の継続性を重視し、決定した。分科会数は7とし、各分科会の提案数は2本、うち1本は富山県から提案することとした。各分科会では提案をもとに討議を深め、公民館を取り巻く環境の変化、特に東日本大震災を体験した今、公民館の使命・存在意義、求められている役割、今後の在り方など課題を明らかにして共有し、今後の実践、情報交換に資することとした。

第1分科会	<p>公民館の運営と管理</p> <p>テーマ「公共施設の管理運営を巡る動きと公民館の在り方」</p> <p>助言者 平川 康弘 文部科学省生涯学習局社会教育課課長補佐</p> <p>本県発表者 谷岡 輝男 射水市南太閤山コミュニティセンター長</p> <p>「コミュニティセンターと指定管理」</p>
第2分科会	<p>地域づくりと公民館</p> <p>テーマ「まちづくり・ふるさと教育の実践と情報発信する公民館」</p> <p>助言者 長島 潔 魚津市教育委員会教育長</p> <p>本県発表者 鹿熊 武 魚津市立加積公民館長</p> <p>「『かづりん物語』と『りんご体験教室』によるふるさと教育」</p>
第3分科会	<p>地域防災と公民館</p> <p>テーマ「住民の安全・安心を支える地域防災と公民館の役割」</p> <p>助言者 大西 宏治 富山大学人文学部准教授</p> <p>本県発表者 清水 孝則 氷見市立女良公民館長</p> <p>「住民の安全・安心を支える地域防災と公民館」</p>
第4分科会	<p>地域の絆づくりと公民館</p> <p>テーマ「共同参画社会をつくる公民館の役割」</p> <p>助言者 寺西 外美 財団法人富山県女性財団専務理事</p> <p>本県発表者 伊藤 英子 富山市立堀川南公民館長</p> <p>「共同参画社会をつくる公民館の役割」</p>
第5分科会	<p>家庭・地域と学校の連携と公民館</p> <p>テーマ「学校支援活動と公民館の役割」</p> <p>助言者 神川 康子 富山大学人間発達科学部教授</p> <p>本県発表者 瘧師きよみ 砺波市鷹栖子ども教室推進事業実行委員会委員</p> <p>「子どもたちの安全・安心な居場所づくり」</p>
第6分科会	<p>地域の支え合いと公民館</p> <p>テーマ「少子高齢化など、地域課題への対応と公民館の役割」</p> <p>助言者 宮嶋 潔 富山福祉短期大学准教授</p> <p>本県発表者 中田まり子 南砺市福光公民館指導員</p> <p>「地域の絆を育む福光公民館」</p>
第7分科会	<p>地域の社会教育と公民館</p> <p>テーマ「社会教育団体等の活動をネットワークする公民館」</p> <p>助言者 藤田公仁子 富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授</p> <p>本県発表者 尾崎 汎 富山市公民館連絡協議会会長</p> <p>「自治公民館と共に歩む市公連の活動」</p>

(4) 成果等

大会には東海北陸各県から1,536名が参加した。本県からの参加は1,004名であった。

① 第1日目

中西彰大会実行委員長が開会を宣言し、石井隆一県知事、森雅志富山市長をはじめとする来賓各位の出席のもと、開会式典が行われた。なお、福井県内での豪雨のため列車が大幅に遅延し、東海3県の会長及び一部会員が到着できないという大会が始まって以来の異例の開会であった。大会主催者として鹿熊久三大会長（公益財団法人全国公民館連合会会長・富山県公民館連合会会長）は、挨拶の中で次のように述べ、今大会テーマの意義を強調している。



- ・ 総人口減少時代に入り、極端な一極集中の弊害、少子高齢化の進展など、これまでに経験したことのない変化が起きており、公民館を取り巻く環境においても様々な問題提起がなされ、対応を迫られていること。
- ・ 今後財政の一層の逼迫が予想される自治体では、基礎体力を蓄えながら将来に備えようとする動きが顕在化しており、施設の整備から機能の整備へ、新規整備から既存の有効活用へと転換が進められており、公民館もまたその中にあること。
- ・ 東日本大震災と原発事故の未曾有の災害を経験して、平素の人と人との絆、地域の絆、リーダーの存在がいかに大切であるかを学び、社会教育の再生と公民館の役割をしっかりと果たしていくことを誓った。教訓とともにそのことを今後生かさなければならないこと。

そして、公民館活動に携わる者は人づくり、地域づくりのため一層研鑽を深め、社会の要請、人々の期待に応えられる場となるよう新たな一步を踏み出さなければならない、大会の成果を踏まえ、それぞれの公民館において地域社会全体で取り組むべき現代的課題に対して取り組み、従前にも増して必要不可欠な存在となるようさらなる努力を期待すると結んだ。

全体研修の施策説明では、平川康弘文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐による「社会教育・生涯学習施策の動向」と題する講義が行われた。3年おきに実施されている社会教育基本調査のデータをもとに公民館の現状が示され、公民館を核とした地域元気再生プランの概要説明、特に新しい社会教育行政の括りについて説明があり、従来の学校、家庭との連携だけでなく、女性・青少年・男女共同参画、高齢者・福祉、まちづくり、さらに企業やNPO、民間教育事業者等とも連携していく必要があるとの今後の方向性への示唆があった。

また、記念講演では、細川顕司公益財団法人市民防災研究所特別研究員が「防災・減災と公民館の役割」と題して講演し、阪神・淡路大震災以降の地震頻発を具体例として、「正しく恐れてほしい」と鋭い切り口で「減災」の重要性を訴えた。地域防災計画の見直しが喫緊の課題であること、公民館としての活動のポイントとして「多くの人に責任を分担」「対応は“臨機応変”に」「住民自身の参画が必須」「見せかけの成功は失敗のもと」等が上げられ、地域でのリーダーシップやコーディネート の在り方について大きな示唆を得ることができた。

なお、施策説明と記念講演の間に設けたアトラクションでは、全国高等学校総合文化祭で高い評価を得ている富山県立南砺平高校郷土芸能部の生徒による五箇山民謡・踊りが会場に華を添えた。社会教育関係大会では初めての高校生によるステージは、新鮮な感動を呼び好評を得た。

② 第2日目

分科会では、各地域における工夫・実践、継続してきた活動見直し等の発表や意見交換を通して自分たちの公民館や地域の取組を見つめ直し、課題を共有し、新たな意欲を興すことができた。例年にも増して真剣で率直な意見交換が行われた背景には、昨年3月11日の東日本大震災で、文字通り「命がけ」で地域と住民を支えた東北各地の公民館の仲間たちへの連帯の思いがあった。各分科会協議のまとめは、次のとおりである。

ア 第1分科会

公民館について「指定管理者制度導入」や「コミュニティセンター化」等の制度的問題が出ているが、公民館の教育力、地域づくり・地域振興が担保されるか考えることが重要。

イ 第2分科会

公民館の立地や歴史は多様、地域課題や生活課題も異なる。自分たちの住むまちに自信と誇

りを持ち、ふるさとを愛する気持ちが育つように。要は人、特にサポートスタッフが重要。

ウ 第3分科会

公民館で地域を捉え直し、家族を想定したシナリオを作り、ハザードマップを活用した図上防災訓練の実施を勧めたい。地域に伝わる災害の言い伝えや昔の集落の立地を学ぶことも大切。

エ 第4分科会

父親・男性の子育て参加・親子活動参加が重要だが、公民館への来館だけを求めるのではなく、各種団体と連携し、事業・活動の全体を参加型にするなどの工夫が大切。

オ 第5分科会

今子供はそのままではコミュニケーション能力が欠如してしまう環境にいる。子供たちの五感を育てる、五感を研ぎ澄ます季節感を大事にした異年齢での経験・活動が必要。

カ 第6分科会

公民館がコーディネートする活動を増やすことが大切。地域のいろいろな分野の方々や課題を出し合う話合いの場を設け、地域の「拠点」という特性を活かすことが重要。

キ 第7分科会

公民館でなければできない社会教育機能「地域住民目線で」P D C Aサイクルを。たとえ場所を貸すだけであっても「つどう・まなぶ・むすぶ」の原点をどう反映していくのが重要。

2日間にわたる各県参加者との意見交換、交流等を通して、活動の根幹に地域づくりと地域愛・人と人との関係づくりがあり、公民館関係者がネットワークャーとしての熱い思いをもつことが大切であることなど、これからの公民館活動への決意を確認することができた。

今回の富山大会は、これまで日本の発展を支えてきた社会システムを抜本的に見直す必要に迫られ、公民館にも行財政と教育との両面から改革の目が向けられつつある中、さらに未曾有の「東日本大震災」を経験しての開催であった。東海北陸地区も例外ではなく、災害時の対応や災害への備えは喫緊の課題であり、住民・地域の日頃の取り組みの推進や地域の連帯・協力体制構築は、関係者にとって重い課題となっている。大会テーマの副題に掲げた「希望の輪・共感の輪を広げる……」は、そのような状況の中で本県の各公民館が日々の実践を通して地域のニーズを汲み取り、地域との相互信頼を高め、導き出そうとしてきた方向性である。

公民館の「身近な社会教育機関」とは何なのか、根本的な問いの中で、今後それをどう具体をもって示し、どのように地域を支え、地域の拠点、ネットワークセンターとして存在していけるのかを東海北陸の仲間たちと共に考える機会となったことそのものが、今大会の成果であったと言える。

閉会のことばで、岡本孝平富山県公民館連合会副会長は、問題多き時代、公民館が担わなければならない役割は非常に大きい、このようなときだからこそ誰でも気軽に立ち寄りたくなる公民館、人と人との絆が実感できる公民館の実現を目指して努力しようと呼びかけた。



第3分科会の運営者



第5分科会の発表



第3分科会会場



第5分科会 研究討議の質問



第5分科会 助言者のまとめ



大会旗の引継ぎ

5 第52回東海北陸公民館大会富山大会

第52回東海北陸公民館大会富山大会は、平成27年9月10日(木)・11日(金)の2日間、大会主題「『つどう・まなぶ・むすぶ』を礎に、地域を『まもり』、明日を『ひらく』公民館を目指して」のもと、1,477名の参加者を迎え、富山県民会館、富山市民プラザ、いきいきKAN、北日本新聞ホールの4会場で開催された。

大会初日の開会式典では、大会主催者として中西彰大会長（富山県公民館連合会会長）が挨拶し、次のことについて参加者へ呼びかけた。

- ・ 大会主題のもと協議を通して、絆を深め、地域の発展に寄与するとともに、安全・安心を保証し、新時代を切り拓く公民館活動の歩みを前進させる大会にしよう。
- ・ 今、「地方創生」が国の政策の大きな柱になり、様々な事業が展開されようとしている。私たち公民館関係者にとっては、「地方創生」は戦後公民館が設置されて以来70年にわたって取り組んできた「人づくり」「地域づくり」そのものではないか。この大会は、私たちが「地方創生」の担い手であることを自覚し、そのことを広く世に発信する貴重な機会である。2日間の議論を通して、私たち一人一人が地方創生の担い手となることが実感できる大会になることを期待する。

(1) 大会までの準備経過

県公連では、前年の8月に大会企画委員会を立ち上げ、大会趣旨・主題、部会フォーラムの構成と主題、会場の確保等の準備に取りかかった。

① 第1回企画委員会 平成26年8月8日開催

- ア 実行委員会、企画委員会の構成について
- イ 企画委員会の班構成について
- ウ 大会基本構想案について

<富山大会コンセプト（構想）>

- 公民館設立の趣旨に立ち返り、自前主義を脱却して多様な連携を模索し、
 - ・ 地域の課題を捉え、互助・共助の意識、協働により活力ある地域づくりを進めること。
 - ・ 社会参画や社会貢献に繋げていけるようにするための実践的学習機会を提供すること。
 - ・ より多くの人々が地域社会の中で「居場所」や「出番」があるようにすること。
 - ・ 平素の活動の積み重ねにより人々の絆、連帯感を強め、地域の安全・安心の基盤を構築すること。

等これからの社会教育の要請に応えるべく研究・工夫、実践を一層推進する。

- 北陸新幹線開業を機に、地域の新時代を拓く取組・活動の展開について考える。

<大会主題の方向>

- ・ 多様な連携を創出する公民館
- ・ これからの地域コミュニティにおける人づくり・絆づくり・地域づくりの拠点としての公民館の在り方を端的に表現（提言）する。

- エ 準備日程について
- オ 想定予算について
- カ 参加者期待数について

② 第2回企画委員会 平成26年9月25日開催

- ア 部会フォーラム会場及びアトラクションについて
- イ 大会収支予算（案）について
- ウ 第1回班別協議の報告

③ 第3回企画委員会（1班のみ開催） 平成26年11月14日開催

- ア 大会趣旨（案）の検討
- イ 大会主題（案）の検討

④ 第4回企画委員会 平成26年12月12日開催

- ア 大会の概要について
 - ・ 開催趣旨、大会主題
 - ・ 大会次第（開会行事）
 - ・ アトラクション、記念講演講師
 - ・ 部会フォーラムの構成と助言者
- イ 大会運営分担等（案）について
- ウ 各県参加者期待数（案）について
- エ その他
 - ・ 大会収支予算（案）について
 - ・ 全体会の司会者候補について
 - ・ 参加者集約業務等の業者委託について
 - ・ 第1回実行委員会について



⑤ 第1回実行委員会 平成27年2月26日開催

- ア 企画委員会協議概要の報告
- イ 富山大会の開催趣旨、大会主題、開催期日及び会場、大会日程、アトラクション出演者、記念講演講師、部会フォーラムの構成と助言者、大会予算、参加者期待数等の報告と検討

⑥ 第2回実行委員会 平成27年5月20日開催

- ア 富山大会の県内参加者期待数、大会準備スケジュール、大会日程、実行委員会の大会運営部の組織と分担、大会前日・当日の日程等の報告と検討

⑦ 第3回実行委員会 平成27年8月7日開催

- ア 富山大会の全体会・部会フォーラムの運営について協議

(2) 大会概要

① 趣旨

これまで公民館は、「つどう・まなぶ・むすぶ」を合言葉に、地域住民に学習の場を提供し、人々が生き甲斐をもち、絆を深め、地域の連帯感や教育力を高めるなどの役割を果たしながら、地域の発展に貢献してきました。

しかし、近年、地震や台風とともに、急激な天候異変により増え続ける自然災害から、地域の人々を守り、暮らしの安全・安心を保障する「まもる」役割が求められています。また、北陸新幹線開業を機に、文化や価値観の変化に応じた地域の新時代を「ひらく」取組や活動の展開について考えることも大切になってきました。

私たちは、公民館関係者が今まで高めてきた経験と知恵を十分に活用し、より多くの人々が、地域社会の中での居場所や出番を工夫しながら、さらに人々の絆、連帯感を強め、地域の安全・

安心の向上とともに、新しい時代に即した活力ある地域づくりを進めることが大切です。

ここに、東海北陸各県の公民館関係者をはじめ、社会教育・生涯学習関係者、市民が一堂に集い、実践活動の紹介や研究討議を通して交流を深め、学び合い、これからの公民館活動の歩みを共に進めようとするものです。

② 主題

「つどう・まなぶ・むすぶ」を礎に、地域を「まもり」、明日を「ひらく」公民館をめざして

③ 文部科学省施策説明

演題 「地方創生と社会教育」

講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 課長補佐 佐藤 秀雄 氏

④ 記念講演

演題 「スポーツには世界と未来を変える力がある」

講師 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
常務理事・副事務総長 布村 幸彦 氏

⑤ 部会フォーラムの構成と主題、助言者、発表者

第1部会フォーラム 公民館の管理と運営

- ・主 題 管理運営を巡る動きと公民館の在り方
- ・助言者 佐藤 秀雄 文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐
- ・発表者 衣斐 淳美 岐阜県揖斐川町小島公民館主事
高見 喜義 富山市立清水町公民館長

第2部会フォーラム 地域づくりと公民館

- ・主 題 地域づくりの核となる公民館の取組
- ・助言者 藤田公仁子 富山大学地域連携推進機構生涯学習部門副部門長・教授
- ・発表者 三浦 一彦 愛知県安城市桜井公民館長
野原 忠治 高岡市立是戸公民館長

第3部会フォーラム 地域防災と公民館

- ・主 題 安全・安心を支える公民館の役割
- ・助言者 小杉 邦夫 NPO法人日本防災士会・富山県支部長
- ・発表者 下防 和明 福井県おおい町佐分利地区元区長連絡協議会役員
伊藤 和雄 富山市立倉垣公民館長

第4部会フォーラム 高齢社会と公民館

- ・主 題 高齢社会を支える公民館の役割
- ・助言者 仲井 文之 富山国際大学子ども育成学部教授
- ・発表者 田保 勝男 石川県珠洲市立三崎公民館長
因幡 慎介 南砺市太美山公民館長

第5部会フォーラム 地域・学校と公民館

- ・主 題 地域と学校を繋ぐ公民館の役割
- ・助言者 神川 康子 富山大学理事・副学長
- ・発表者 上垣内守雄 三重県御浜町中央公民館主査
七澤 麗子 朝日町立山崎公民館長

(3) 成果等

今回の大会には、東海北陸の各県から1,477名の参加があり、本県からは954名の参加があった。

第1日目の文部科学省生涯学習政策局社会教育課の佐藤秀雄氏の施策説明では、社会教育行政の現状と今後の役割、地域課題の解決と地域づくり、学校・家庭・地域の連携、教育委員会制度改革、地方創生に向けた国の動向等についての説明があり、公民館に期待される役割や地域に深く根差す公民館活動の在り方等を理解することができた。

また、記念講演では、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会常務理事・副事務総長の布村幸彦氏が「スポーツには世界と未来を変える力がある」と題して講演し、大会開催へ向けた3つのキーワード「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」をもとに、より多くの人々と共に大会をつくっていかうとする思いが強く伝わる講演であった。

2日目の分科会では、各地域の活動報告や意見交換を通して、各部会の研修主題・協議の視点に沿って熱心に協議が行われ、今後の公民館活動へ向けての意欲が高まるフォーラムとなった。

各部会フォーラムのまとめは、次の通りである。

① 第1部会フォーラム

公民館の管理・運営においては、マンパワーの少なさも難しい点も多くあるが、職員が楽しんで仕事ができるように工夫することが大切である。また、市町村の担当者と連絡を密にし、管理・運営面での課題対応や有事の際の対応等について、共通理解を進めておくことが大切である。

② 第2部会フォーラム

活動を通して次世代のリーダーを育てることや、公民館の重要な機能である「つどう・まなぶ・むすぶ」ためのネットワークを組織し、活用し、見える形にしていくことで、地域づくりが活性化し、地域の歴史・文化が継承されていく。

③ 第3部会フォーラム

地域災害について学ぶ機会をつくることや防災マップの作成は、地域住民の防災意識を高める重要な取組となる。公民館が地域防災の要となっていくことが期待される。

④ 第4部会フォーラム

高齢化社会への対応として、住民の「できる課題」をいかに吸い上げて事業を展開していくかが重要である。地域によって少子・高齢化の課題は様々だが、それぞれの地域の「課題の明確化」を推進して活動を展開していくことが大切である。

⑤ 第5部会フォーラム

子供時代の楽しい思い出は、大人になったときにふるさとに気持ちを戻らせていく。子供時代の思い出づくりは重要であり、地域と人をつなぎ止める。学校と連携を取りながら、地域の自然や産業、人材を生かした活動を展開していくことが大切である。

6 県公民館連合会予算の推移

収入の部

科 目	平成22年度	平成27年度	令和2年度	備 考
市町村交付金	315,000	315,000	315,000	
公民館分担金	4,206,000	4,187,000	4,129,000	
県費補助金	3,447,000	3,407,000	3,407,000	
事業費	689,000	669,000	669,000	
運営費	2,758,000	2,738,000	2,738,000	
県事業委託費	8,000,000	2,500,000	2,000,000	
東陸大会		900,000		
富山県補助金		600,000		
富山市補助金		300,000		
公民館振興市町村連盟交付金	110,000	110,000		
諸収入	335,000	250,000	290,000	
繰入金	200,000			
雑収入	976	117	33	
繰越金	263,024	381,883	294,217	
合計	16,877,000	12,051,000	10,435,250	

支出の部

費 目	平成22年度	平成27年度	令和2年度	備 考
事務局費	5,120,000	5,256,000	5,090,000	
職員給等	4,400,000	4,400,000	4,430,000	
諸手当	200,000	186,000	90,000	
借上料	150,000	160,000	160,000	
通信運搬費	170,000	170,000	200,000	
消耗品費	90,000	110,000	120,000	
旅費	110,000	230,000	90,000	
事業費	11,260,000	6,332,000	4,972,000	
会議費	270,000	300,000	270,000	理事会等
研修費	870,000	770,000	910,000	
館長研修会	150,000	130,000	130,000	
県公民館大会	340,000	300,000	300,000	
初任者研修会	80,000	80,000	80,000	
主事・指導員等の研修	300,000	260,000	400,000	
子ども自然体験事業費（県委託）	8,000,000			平成22年度
親子で高志の国探検事業（県委託）		2,500,000		平成26～30年度
はつらつ公民館学び支援事業（県委託）			2,000,000	令和元～
東海北陸公民館大会		900,000		
大会派遣費	120,000	200,000	120,000	
会報発行費	600,000	600,000	600,000	
印刷製本費	350,000	60,000	70,000	
研究委託費	1,050,000	1,002,000	1,002,000	
市・郡研修会	800,000	752,000	752,000	
地区別研修				
公民館活動研究委嘱	250,000	250,000	250,000	
負担金	360,000	362,000	257,000	
全国公民館連合会	164,000	164,000	164,000	
公民館振興市町村連盟	95,000	95,000	0	
県社会教育振興協議会	49,000	51,000	51,000	
社会教育団体				
東海北陸公民館大会	30,000	30,000	30,000	
その他（青少年育成県民会議他）	22,000	22,000	12,000	
慶弔費	10,000	10,000	10,000	
繰出金	0	0	100,000	70周年記念大会積立金
予備費	127,000	91,000	6,250	
合計	16,877,000	12,051,000	10,435,250	

資料

県公連活動 年譜70年

全国公民館研究集会・東海北陸公民館大会参加概要(平成23～令和2年度)

輝く表彰(平成22～令和2年度)

令和2年度富山県公民館連合会役員

平成13～令和2年度 歴代正・副会長・事務局

令和2年度各市・郡公民館連絡協議会(連合会)役員

富山県公民館連合会会則・富山県公民館連合会表彰規程

全国公民館連合会表彰規程

県公連活動 年譜70年

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
S24			・社会教育法制定 郡市単位の「公民館設置促進懇談会」
25	1.30	・富山県公民館連絡協議会結成 第1回総会、会則制定（県議会議場）	・新湊市発足 ・公民館市町村設置率50%越える
26			・全国公民館連絡協議会結成
27	5 7.24~25 1.1	・第2回総会 ・第3回北陸ブロック公民館研究大会（富山市） ・県公民館報発刊	・魚津市、氷見市発足 ・富山県総合開発計画策定 ・第1回全国公民館大会
28	5.24 10.5 12.24	・第3回総会、第3回北陸地区公民館連絡協議会（滑川：田中小） ・公民館長研修会 ・臨時総会	・「社会教育振興方策について」「社会教育施設の整備について」（社教審建議） ・青年学級振興法制定
29	5.20~22 7.8 9.28~10.2 10.11~16	・第3回全国公民館大会（富山：中央公民館（市公会堂）） ・第4回総会（富山：中央公民館（市公会堂）） ・優良公民館視察（関西方面） ・優良公民館視察（関東方面）	・町村合併促進法公布 ・滑川市、黒部市、砺波市発足 ・富山産業大博覧会開催 ・公民館、図書館、博物館設備費補助開始
30	6.12 7.17~18 10.14~18	・第5回総会（富山：総曲輪小） ・県地区別公民館運営協議会（上市町） ・優良公民館視察（中国・四国方面）	・「公民館と公職の選挙について」（社会教育局長通達） ・「社会教育施設の方策はどうあるべきか」（社教審答申）
31	5.18 8.5~10 11.10	・第6回総会（富山市役所）、会則一部改正、総会期日5月とする ・優良公民館視察（奥羽・北海道方面） ・公民館創設10周年記念県公民館大会（県婦人会館） 記念誌「公民館のあゆみ」発刊	・公民館市町村設置率100%達成 ・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」公布
32	5.20 11.15	・第7回総会（富山市役所） ・第7回県公民館大会（富山市役所）	・「公民館の充実振興方策について」（社教審答申） ・第13回国民体育大会開催
33	5.16 11.18 2.27	・第8回総会（富山市役所） ・第8回県公民館大会（富山市役所） ・富山県公民館主事会発足、第1回総会、会則制定	
34	4.27 5.16 7.6~9 11.18	・第2回県主事会総会（富山荘） ・第9回総会（富山市役所） ・県公民館職員研修会（前：八尾町、後：石動町） ・第9回県公民館大会（富山市役所）	・富山県青年の家開所 ・社会教育法一部改正 ・「公民館の建設及び運営上必要な基準について」（社教審答申） ・「公民館の建設及び運営に関する基準」（文部省告示）
35	4.27 5.9 5.21~22 7.5~8 10.3 11.1 11.23 3.9	・第3回県主事会総会（富山荘） ・第10回総会（富山市役所） ・三県公民館大会（魚津市） ・県公民館職員研修会（前：高岡市、後：上市町） ・第1回公民館主事研修会（入善町） ・第10回県公民館大会（富山市役所） ・第2回公民館主事研修会（福野町） ・研究指定公民館発表会（高岡市）	
36	4.21 5.9 7.4~7 10.20 2.26	・第4回県主事会総会（富山荘） ・第11回総会（富山市役所） ・県公民館職員研修会（前：上市町、後：福野町） ・第11回県公民館大会（富山市北日本ホール） ・研究指定公民館発表会（大沢野町）	
37	5.22 5.31 11.30 12.5 2.26	・第5回県主事会総会（富山：山王公民館） ・第12回総会（県婦人会館） ・第12回県公民館大会（富山市北日本ホール） ・北陸、東海両ブロック公民館連絡協議会が大同団結 ・研究指定公民館発表会（県婦人会館）	・小矢部市発足
38	5.20 6.3 8.6~9 11.27 2.27	・第6回県主事会総会（富山：山王公民館） ・第13回総会、常任委員会を理事会に改称（県婦人会館） ・県公民館職員研修会（前：朝日町、後：小矢部市） ・第13回県公民館大会（県婦人会館） ・研究指定公民館発表会（大門：中央公民館）	
39	5.20 6.7 7.14~17 11.6 11.12~14 3.4	・第7回県主事会総会（富山：山王公民館） ・第14回総会（県婦人会館）、会則一部改正（役員任期等） ・県公民館職員研修会（前：魚津市、後：氷見市） ・第14回県公民館大会（富山労働福祉会館） ・県主事会優良公民館視察（岡谷市・箕輪町） ・研究指定公民館発表会（高岡：伏木公民館）	・富山・高岡地区新産業都市に指定 ・富山県民会館開館
40	6.9 6.17 7.19~20 11.9 3.8	・第8回県主事会総会（富山：山王公民館） ・第15回総会（県婦人会館） ・公民館指導者研修会（福野町） ・第14回県公民館大会（県町村会館） ・研究指定公民館発表会（黒部市）	・全国公民館連絡協議会、「全国公民館連合会」に改称

年度	月日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
41	5.26 6.6 8.10 10.7 11.18~19 3.20	・第9回県主事会総会（県婦人会館） ・第16回総会（県婦人会館） ・公民館指導者研修会（富山：呉羽会館） ・第16回県公民館大会（富山労働福祉会館） ・優良公民館視察 ・研究指定公民館発表会（立山町）	
42	5.31 6.16 9.8~9 11.9 11.30~12.1 3.6	・第17回総会（県婦人会館） ・第10回県主事会総会（県婦人会館） ・第5回東海北陸公民館大会（高岡：市民会館） ・第17回県公民館大会（富山：呉羽会館） ・優良公民館視察 ・研究指定公民館発表会（井波町）	・「公民館のあるべき姿と今日的指標」（全公連専門委員会報告）
43	5.15 6.7 7.23 10.11 11.29~30 3.7	・第18回総会（県婦人会館）、会則一部改正（事務局設置） ・第11回県主事会総会（県婦人会館） ・公連事務局独立、専任事務局長就任 ・第18回県公民館大会（県市町村会館） ・優良公民館視察 ・研究指定公民館発表会（高岡市）	・県公害防止条例制定 ・県教育委員会に精神開発室創設
44	5.19 5.29 9.4~5 10.6 10.14 10.26~27 12.1	・第19回総会（県婦人会館） ・第12回県主事会総会（県婦人会館） ・優良公民館視察 ・公民館指導者研修会（富山市） ・第19回県公民館大会（高岡市） ・県主事会宿泊研修会（高岡：二上青少年の家） ・県公民館報、100号記念号発行	・公民館振興市町村長連盟創設 ・全国植樹祭開催（砺波：頼成の森）
45	5.7 5.25 9.4 10.6	・第20回総会（県婦人会館） ・第13回県主事会総会（県婦人会館） ・公民館職員指導者研修会（県民会館） ・第20回県公民館大会（県民会館）	・「都市化に対応する公民館の在り方」、「公民館をめぐる諸制度改善の具体案」（全公連第2次専門委員会報告）
46	5.28 6.4 7.7~10 10.11 3.13	・第21回総会（県婦人会館） ・第14回県主事会総会（県婦人会館） ・県主事会県外研修（静岡県） ・第21回県公民館大会（県民会館） ・県主事会研修会	・派遣者会教育主事制度開始（県単） ・第1回富山県社会教育大会開催 ・「急激な社会構造の変化に対処する社会教育の在り方について」（社教審答申）
47	5.18 6.2 8.23~26 10.18 2.27	・第22回総会（県婦人会館） ・第15回県主事会総会（県婦人会館） ・県主事会県外研修（兵庫県） ・第22回県公民館大会（県民会館） ・県主事会研修会（富山：奥田公民館）	
48	5.23 6.5 7.10~11 8.22~24 10.17 2.27 2.29	・第23回総会（県婦人会館） ・第16回県主事会総会（県婦人会館） ・第11回東海北陸公民館大会（県民会館：参加678名） ・県主事会県外研修（福島県） ・第23回県公民館大会（県市町村会館） ・県主事会研修会（富山：岩瀬公民館） ・事務局、県教育文化会館へ移転	・「生涯教育行政及び県民大学校に関する構想」（県総合開発審答申） ・社会教育振興協議会発足
49	5.31 6.4 9.9~12 11.12 2.27	・第24回総会（県婦人会館） ・第17回県主事会総会（県婦人会館） ・県主事会県外研修 ・第24回県公民館大会（県教育文化会館） ・県主事会研修会（県婦人会館）	・県教育文化会館開館 ・社会教育主事派遣事業（国補） ・社会教育指導員設置事業（国補） ・「市町村における社会教育主事指導者充実強化のための施策」（社教審答申） ・公民館指導員設置事業（県単） ・県民大学校夏期講座開設
50	5.30 6.5 10.6~9 11.27 2.27	・第25回総会（県教育文化会館） ・第18回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修（秋田県） ・第25回県公民館大会（県教育文化会館） ・県主事会研修会（県教育文化会館）	
51	5.27 6.3 8.10~12 11.10 3.20	・第26回総会（県教育文化会館） ・第19回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修（島根県） ・第26回県公民館大会（県教育文化会館） ・県主事会研修会（県教育文化会館）	・社会教育講座開設
52	5.13 6.3 8.2~4 11.10 3.20	・第27回総会（県教育文化会館） ・第20回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修（福島県） ・第27回県公民館大会、パネル討議（県教育文化会館） ・県主事会研修会（県教育文化会館）	・公民館活動促進補助開始

年度	月 日	県 公 連 の あ ゆ み	県 ・ 国 の 出 来 事
53	5.30 6.2 8.2~4 11.9 3.8~22 3.16	・第28回総会（県教育文化会館） ・第21回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修 ・第28回県公民館大会（県教育文化会館） ・第1回社会教育関係者友好訪中に代表参加（北京、大同、太原他） ・県主事会研修会（県教育文化会館）	・「地域社会と文化」（中教審答申）
54	5.29 6.7 8.1~3 8.27~28 11.1 2.7	・第29回総会（県教育文化会館） ・第22回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修 ・第17回東海北陸公民館大会（富山市：参加約1000名） ・第29回県公民館大会（県教育文化会館） ・県主事会研修会（県教育文化会館）	・公民館活動研究委嘱事業開始
55	5.23 6.6 10.15~17 10.31	・第30回総会（県教育文化会館） ・第23回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修 ・創立30周年記念県公民館大会（県教育文化会館）	
56	5.28 6.8 7.10~11 9.2~4 11.6 11.30	・第31回総会（県教育文化会館） ・第24回県主事会総会（県教育文化会館） ・公民館長等宿泊研修会（婦中：いこいの村富山） ・県主事会県外研修（滋賀県・岐阜県） ・第31回県公民館大会（県教育文化会館） ・県主事会研修会（県教育文化会館）	・県立近代美術館開館 ・「青少年の徳性と社会教育」、「生涯教育について」（社教審答申）
57	5.28 6.8 7.9~10 8.24~26 11.11	・第32回総会（県教育文化会館） ・第25回県主事会総会（県教育文化会館） ・公民館長等研修会（新湊：中央文化会館） ・県主事会県外研修 ・第32回県公民館大会（県婦人会館）	・県総合教育センター設立 ・全市町村に公立図書館公的整備完了
58	5.20 7.6~13 11.8 11.16~17 11.25~26	・第33回総会、第26回県主事会総会（県教育文化会館） ・第2回社会教育関係者友好訪中に代表参加（北京、承德、瀋陽） ・第33回県公民館大会（県市町村会館） ・県主事会県外研修（浜松市・焼津市） ・公民館長等宿泊研修会（富山：呉羽ハイツ）	・置県百年記念式典 ・日本新世紀博覧会開催
59	5.23 8.9~10 10.25 11.6~7	・第34回総会、第27回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修（鳥羽市・松坂市） ・第34回県公民館大会（県市町村会館） ・公民館長等宿泊研修会（富山観光ホテル）	・「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」（全公連第5次専門委員会報告）
60	5.23 8.29~30 9.26~28 10.31 12.6	・第35回総会、第28回県主事会総会（県教育文化会館） ・第23回東海北陸公民館大会（県民会館：参加約1000名） ・県主事会県外研修（福島市・郡山市） ・第35回県公民館大会（県市町村会館） ・公民館長等研修会（県教育文化会館）	・学社連携推進事業（県単）
61	5.22 7.22 9.12 9.18~20 10.24 11.27	・第36回総会、第29回県主事会総会（県教育文化会館） ・公民館主事研修会（県教育文化会館） ・「県公連会報」200号発行 ・県主事会県外研修（園部町・生駒市） ・第36回県公民館大会（富山：公会堂別館） ・公民館長等研修会（県教育文化会館）	・「社会教育主事の養成について」（社教審成人教育分科会報告）
62	5.20 9.28~30 10.18 10.30 2.28	・第37回総会、第30回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修（鳥取市） ・公民館主事研修会（呉西：砺波市） ・第37回県公民館大会（富山：公会堂別館） ・公民館主事研修会（呉東：入善町）	・「教育改革に関する第4次答申」（臨教審）
63	5.18 9.27~29 10.18 10.28 11.17	・第38回総会、第31回県主事会総会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修（岡山市・倉敷市） ・公民館主事研修会（県教育文化会館） ・第38回県公民館大会（富山：ポルファート富山） ・公民館長等研修会（県教育文化会館）	・県公民館クリエイティブ活動推進事業 ・「公民館の管理運営等の適正化について」（社教局長通知） ・県教委社会教育課・生涯教育課・生涯教育室を統合、生涯学習室に改組 ・富山県民生涯学習カレッジ開学 ・文部省社会教育局を「生涯学習局」に改組
H1	5.23 9.1~2 10.3~5 11.15 11.17 2.20~22	・第39回総会、第32回県主事会総会（県教育文化会館） ・第27回東海北陸公民館大会（県民会館：参加約1250名） ・県主事会県外研修（浜松市・函南町） ・公民館長等研修会（県教育文化会館） ・第39回県公民館大会（県市町村会館） ・第1回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加	・第1回全国生涯学習フェスティバル

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
2	5.25 7.20 9.26~28 11.8 2.7 3.30	<ul style="list-style-type: none"> ・第40回総会、第33回県主事会総会（県教育文化会館） ・公民館長等研修会（高志会館） ・県主事会県外研修（大宮市・浦安市） ・創立40周年記念県公民館大会 ・公民館主事研修会（県教育文化会館） ・県公連創立40周年記念誌「県公連40年のあゆみ 回顧と展望」発刊 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生涯学習の基盤整備について」（中教審答申） ・「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」公布
3	5.23 7.18 10.7~9 11.7 2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・第41回総会、第34回県主事会総会（県教育文化会館） ・公民館長等研修会（高志会館） ・県主事会県外研修（亀岡市・豊中市） ・第41回県公民館大会（高志会館） ・公民館主事研修会（県教育文化会館） 地区別公民館関係者研修（小矢部市・新湊市・八尾町・魚津市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回県生涯学習審議会 ・公民館指導員増員 ・第1回生涯学習国際シンポジウムin TOYAMA開催 ・公民館コミュニティライフ推進事業開始 ・「公民館の整備・運営の在り方について」（生学審社教分科審施設部会）
4	5.21 5.25 7.23 9.28~30 11.11 11.27 11.21~23 2.18	<ul style="list-style-type: none"> ・第42回総会、第35回県主事会総会（県教育文化会館） ・第1回公民館指導員研修会（県教育文化会館） ・公民館長等研修会（高志会館） ・県主事会県外研修（天童市・秋田市） ・第42回県公民館大会（高志会館） ・第2回公民館指導員研修会（小杉：中太閤山公民館） ・第4回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加 ・公民館主事研修会（県教育文化会館） 地区別公民館関係者研修（大山町・庄川町・小杉町・黒部市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスポ富山博開催 ・富山地域リカレント教育推進協議会学習コース開設 ・「学校週5日制の実施について」（文部省初等中等局長通知） ・「休日の拡大等に関する青少年の学校外活動の充実について」「余裕教室活動方針」（文部省通知） ・「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」（生学審答申）
5	5.20 7.14 7.29 10.7 11.10 11.19~20 1.19~21 2.16	<ul style="list-style-type: none"> ・第43回総会、第36回県主事会総会（高志会館） ・公民館指導員研修会（県教育文化会館） ・公民館長等研修会（高志会館） ・第3回公民館指導員研修会（富山：豊田公民館） ・第43回県公民館大会（高志会館） ・県主事会県外研修（名古屋市・一宮市） ・第5回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加 ・公民館主事研修会（県教育文化会館） 地区別公民館関係者研修（富山市・福野町・高岡市・朝日町） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「富山県生涯学習推進基本構想」策定（県生学審答申） ・県民カレッジ映像センター開設 ・県未来財団発足
6	5.19 6.21 7.28 8.25~26 10.6 11.10 1.18~20	<ul style="list-style-type: none"> ・第44回総会、第37回県主事会総会（高志会館） ・公民館長等研修会（高志会館） ・第4回公民館指導員研修会（県教育文化会館） ・県主事会県外研修（松本市） ・第44回県公民館大会（タワー111） ・第5回公民館指導員研修会（県教育文化会館） ・第6回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加 地区別公民館関係者研修（婦中町・城端町・氷見市・魚津市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回全国生涯学習フェスティバルまなびピアとやま94開催
7	5.25 7.28 8.29~30 9.12 11.1 12.5 1.24~26	<ul style="list-style-type: none"> ・第45回総会、第38回県主事会総会（高志会館） ・公民館長等研修会（高志会館） ・県主事会県外研修（長岡市・柏崎市） ・第6回公民館指導員研修会（県教育文化会館） ・第45回県公民館大会（高志会館） ・第6回公民館指導員研修会（県教育文化会館） ・第7回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加 地区別公民館関係者研修（滑川市・砺波市・新湊市・黒部市） 	
8	5.23 7.26 9.3~4 9.24 11.12 12.13 1.22~24 2.25	<ul style="list-style-type: none"> ・第46回総会、第39回県主事会総会（高志会館） ・公民館長等研修会（高志会館） ・県主事会県外研修（掛川市） ・第1回公民館指導者研修会（小矢部市） ・第46回県公民館大会（高志会館） ・第2回公民館指導者研修会（県教育文化会館） ・第8回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加 ・公民館主事研修会（高志会館） 地区別公民館関係者研修（福光町・立山町・小杉町・宇奈月町） 	
9	5.23 10.23~24 11.26 1.28~30 2.13 2.20 2.27	<ul style="list-style-type: none"> ・第47回総会、第40回県主事会総会（高志会館） ・第20回全国公民館大会・第35回東海北陸公民館大会 テーマ「新時代に果たす公民館の役割は」（オーバードホール他） ・第47回県公民館大会（県民共生センター） ・第9回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加 ・公民館指導員研修会（県東部：富山市水橋公民館） ・公民館指導員研修会（県西部：高岡文化ホール） ・県主事会県外研修（金沢市） 地区別公民館関係者研修（福岡町・大沢野町・高岡市・魚津市） 	

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
10	5.29 7.11 9.17 9.29 11.26 1.27~29 2.16	<ul style="list-style-type: none"> ・第48回総会、第41回県主事会総会（県民共生センター） 県公民館大会を取り止め総会をもってかえる。 ・県公民館研究集会（高志会館） ・公民館指導員研修会（県東部：黒部市） ・県主事会県外研修（松任市） ・公民館指導員研修会（県西部：庄川町） ・第10回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）に代表参加 ・公民館主事研修会（県民共生センター） 地区別公民館関係者研修（井波町・上市町・氷見市・黒部市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の設置及び運営に関する基準（文部省告示） ・とやま生涯学習ボランティア活動推進プラン策定
11	5.25 7.13 9.14 9.28 10.6 1.26~28 2.26	<ul style="list-style-type: none"> ・第49回総会、第42回県主事会総会（県民共生センター） 県公民館大会を取り止め総会をもってかえる ・県公民館研究集会（県民共生センター） ・公民館指導員研修会（県東部：滑川市） ・県主事会県外研修（福井県丸岡町） ・公民館指導員研修会（県西部：新湊市） ・第11回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 ・公民館主事研修会（県民共生センター） 地区別公民館関係者研修（小矢部市・舟橋村・新湊市・黒部市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域で子どもを育てよう三か年戦略（全国子どもプラン）」 ・「生涯学習の成果を生かすための方策について」（生学審答申） ・地方分権推進関連法成立 ・社会教育法一部改正
12	5.25 7.11 8.22 9.28 11.9 11.22 2.14~16 2.15	<ul style="list-style-type: none"> ・第50回総会、第43回県主事会総会（県民共生センター） 記念講演（県民カレッジ学長 飯田宗映 氏） ・県公民館研究集会（県民共生センター） 実践発表：富山市立上条公民館、小杉町立大江公民館 講演「家庭教育と地域教育の連携について」（県立大教授 奥田 貴 氏） ・県公連創立50周年記念大会（県教育文化会館） 記念講演「これからの生涯学習社会」（筑波大教授 山本恒夫 氏） パネル討議「新時代における公民館の在り方」 記念誌「集い ふれあい 学びあう」を発行 ・公民館主事県外研修（金沢市） ・公民館指導員研修会（新川文化ホール） 実践発表：宇奈月町立浦山公民館講演「未来を信ずる心」 （トータルキャリアNW・ブルー代表 重原千賀子 氏） ・公民館指導員研修会（福野町総合市民センター） 実践発表：庄川町立青島公民館 講演「地域に根ざした生涯学習」（富大専任講師 仲嶺政光 氏） ・第12回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 ・公民館主事研修会（県民共生センター） 「笑いとコミュニケーション」（落語家 三遊亭良楽 氏） 地区別公民館関係者研修（庄川町・大門町・八尾町・魚津市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について—情報化で広がる生涯学習の展望—」（生学審答申） ・文科省と科学技術庁を廃止し、文部科学省を設置
13	5.29 6.12 7.12 8.9 9.13 9.28 11.8 1.9~11 2.13	<ul style="list-style-type: none"> ・第51回総会、第44回県主事会総会（県民共生センター） 会則一部改正（正副会長の選出（対象者の範囲）） 講演「求められる大人たちの役割」（教戒師 川越恒豊 氏） ・鹿熊県公連会長、全公連副会長に就任 ・県公民館研究集会（県民共生センター） 実践発表：黒部市立若栗公民館、福野町立西部公民館 パネル討議「活力ある地域づくりをめざして」～地域づくり・人づくり～ ・公民館職員初任者研修会（県教育文化会館） ・公民館指導員研修会（上市町保健福祉総合センター） 実践発表：婦中町立神保公民館 講演「インターネットの普及と生涯学習」（富大教授 米田政明 氏） ・公民館主事県外研修（七尾市） ・公民館指導員研修会（高岡文化ホール） 実践発表：高岡市立東部公民館 講演「コラムの内側」（北日本新聞社論説副委員長 宮川真清 氏） ・第13回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 ・公民館主事研修会（県民共生センター） 「暮らし豊かな地域社会をめざして ～暮らしを豊かにする公民館活動の展開～」 地区別公民館関係者研修（福野町・富山国際大・高岡市・黒部市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全公連創立50周年記念大会開催「21世紀・未来につなげる公民館の確かな歩みを求めて」 ・「新しい時代における教養教育の在り方について」（中教審答申）
14	5.29 7.11 8.8 9.24 11.7 11.21 2.14 2.19~21	<ul style="list-style-type: none"> ・第52回総会、第45回県主事会総会（県民共生センター） 講演「今 そして これからの暮らしを考える～生活環境の視点から～」 （国際大教授 尾畑納子 氏） ・県公民館研究集会（県民共生センター） 実践発表：魚津市下中島公民館、小矢部市立北蟹谷公民館 講演「生涯発達と生涯学習について」（富山大教授 大石 昂 氏） ・公民館職員初任者研修会（県教育文化会館） ・公民館主事県外研修（福井市） ・公民館指導員研修会（入善町武村福祉会館） 実践発表：滑川市立北加積地区公民館 講演「囲碁クラブと科学研究」（県立大教授 岡田敏美 氏） ・公民館指導員研修会（福光町福祉会館） 実践発表：氷見市立余川公民館 講演「南極から見た地球環境」（富山大教授 宇井啓高 氏） ・公民館主事研修会（県民共生センター） ・第14回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 地区別公民館関係者研修（城端町・富山市・氷見市・朝日町） 	<ul style="list-style-type: none"> ・完全学校週5日制の実施 ・「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」（中教審答申）

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事	
15	5.27	・第53回総会、第46回県主事会総会（県民共生センター） 講演「子どもの生活習慣と心身の健康」 （富大生涯学習教育センター副センター長 神川康子 氏）	<ul style="list-style-type: none"> ・第26回全公連研究集会において、行革・市町村合併に伴う緊急アピール採択 ・「今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）」（中教審生学学科会） 	
	7.8	・県公民館研究集会（県民共生センター） 実践発表：立山町立五百石公民館、新湊市立庄西公民館 パネル討議「活力ある地域づくり・人づくり ～住民の考えを反映する公民館活動の在り方～」 （コーディネーター 富大生涯学習教育センター長 大石 昂 氏）		
	8.8	・公民館職員初任者研修会（県教育文化会館） 講義「これからの公民館活動～家庭教育元年にあたって～」 （県教委生涯学習室家庭成人教育班長 寺西外美 氏）		
	9.4	・市町村合併問題調査検討委員会設置、第1回委員会		
	9.24	・公民館主事県外研修（新潟県頸城村）		
	11.12	・公民館指導員研修会（婦中町立速星公民館） 実践発表：朝日町立五箇庄公民館 講演「21世紀の公民館像を考える ～完全学校週5日制時代の公民館の役割～」 （富大助教授 堀井啓幸 氏）		
	11.18	・公民館指導員研修会（新湊市中央文化会館） 実践発表：砺波市立柳瀬公民館 講演「今、なぜ見景観なのか」（高岡短大教授 谷口義人 氏）		
	11.19	・市町村合併に伴い、公民館振興について「緊急アピール」 （県公連理事会）		
	2.17	・公民館主事研修会（婦中町立速星公民館、婦中ふれあい館） 分散会討議「豊かな地域社会をめざす公民館活動の創造」		
	2.25～27	・第15回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 地区別公民館関係者研修（砺波市・婦中町・新湊市・魚津市）		
16	5.2	・第54回総会、第47回県主事会総会（県民共生センター） 講演「江戸時代の発想に学ぶもの」（富大教授 二村文人 氏）	<ul style="list-style-type: none"> ・全公連より「指定管理者制度 ～公民館の今後のあり方を考える資料～」発刊 ・「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」（中教審答申） ・「地方分権時代における教育委員会の在り方について」（中教審教育制度分科会） 	
	8.26～27	・第42回東海北陸公民館大会（県民会館他：本県から938名） テーマ「新しい時代を拓く公民館の創造 ～独自性を生かしたまちづくり・ひとづくり～」 基調講演「生涯学習時代における文部科学省の基本的な方向」 （文科省生涯学習政策局生涯学習総括官 月岡英人 氏） 記念講演「かならずくる大地震」 （立山カルデラ砂防博物館名誉館長 伊藤和明 氏） 8分科会で討議（公民館の管理運営・家庭教育と子育て支援・男女共同参画と人権教育・高齢者の学習と生きがいづくり・学習情報と公民館活動・学校週5日制と青少年健全育成・地域づくりと公民館活動・市町村合併と公民館）		
	11.11	・県公民館研究集会（新川文化ホール） 実践発表：大沢野町立小羽地区公民館、入善町立入善公民館 講演「地域づくりと公民館」 （カレッジ新川地区センター主任社教主事 福田 豊 氏）		
	11.26	・公民館指導員研修会（ウイング・ウイング高岡） 実践発表：南砺市北山田公民館、大門町立柳田公民館 講演「交流からはじまるこれからの地域づくり」 （国交省地域振興アドバイザー 国土開発センター富山支店理事 遠藤 聡 氏）		
	2.14	・公民館主事研修会、初任者研修会（ウイング・ウイング高岡） 「豊かな社会を築き上げる公民館活動の在り方 ～公民館活動の現状とこれからの取り組み～」		
	2.23～25	・第16回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 地区別公民館関係者研修（福光町・大島町・滑川市・黒部市）		
17	5.25	・第55回総会、第48回県主事会総会、県公民館研究集会（県民共生センター） 実践発表：宇奈月町立下立公民館、富山市立堀川南公民館 講演「『公民』について」（県教育委員長 八木近直 氏）		<ul style="list-style-type: none"> ・全公連「第二次基本構想」を発表 ・県「公民館指導員設置事業補助制度」を年度末で廃止
	7.15	・公民館長研修会（八尾コミュニティーセンター） 講演「冤追いし ぶるさと」 （㈱インテック代表取締役会長 中尾哲雄 氏） 講演「子どもの生活と子育て支援の拠点づくり」 （富大助教授 吉見昌弘 氏）		
	7.26	・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 実践発表：高岡市立二上公民館、福岡町立山王・福岡公民館		
	9.29	・公民館主事現地研修（宇奈月町中央公民館、黒部市）		
	2.1～3	・第17回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加		
	2.22	・公民館主事・指導員研修会（庄川生涯学習センター） 講演「支えあおう 子育てと自分育て」（中大教授 広岡守穂 氏） 8分散会で討議		

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
18	5.23	<ul style="list-style-type: none"> 第56回総会、第49回県主事会総会（県教育文化会館） 会則一部改正（主事会を公連に一体化、主事・指導員理事を設置。常任理事廃止。総会に代わる議決機関として市郡代表（主事・指導員含む）による評議員会を新設。） 県公民館研究集会（県教育文化会館） 全国セミナー報告（前富山市立藤ノ木公民館長 申田正英） 講演「新富山大学の社会貢献」（富山大学学長 西頭徳三氏） 	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法全面改正 全公連より「公民館における災害対策ハンドブック～避難所のよりよい運営のために～」発刊 「次代を担う自立した青少年の育成について」（中教審答申） 県教委生涯学習室と文化財課を統合、生涯学習・文化財室に改組
	6.22	<ul style="list-style-type: none"> 公民館初任者研修会（県教育文化会館） 実践発表：黒部市立三日市公民館、上市町立宮川公民館 	
	7.26	<ul style="list-style-type: none"> 講演「今、公民館に求められていること」（全公連副会長 鹿熊久三氏） 公民館長研修会（小杉文化ホール） 実践発表：氷見市立稲積公民館、南砺市北野公民館 	
	9.29	<ul style="list-style-type: none"> 講演「よみがえろう 日本の心と教育」（金城短大教授 丹羽俊夫氏） 	
	1.31～2.2	<ul style="list-style-type: none"> 公民館主事現地研修（射水市立大江公民館、高岡市、氷見市） 	
	2.22	<ul style="list-style-type: none"> 第18回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 公民館主事・指導員研修会（新川文化ホール） 「豊かな社会を築き上げる公民館活動の在り方 ～地域の特性を生かした事業を推進するために～」 	
		5分散会で討議 地区別公民館関係者研修（砺波市・氷見市・富山市・魚津市）	
19	5.15	<ul style="list-style-type: none"> 第1回定期評議員会（県教育文化会館） 	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について—一知の循環型社会の構築を目指して—」（中教審答申）
	6.5	<ul style="list-style-type: none"> 公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「中越大地震の経験から」（十日町市防災安全課参事 庭山広和氏） 	
	7.5	<ul style="list-style-type: none"> 実践発表：魚津市立加積公民館、滑川市立東地区公民館 公民館長研修会（クロスランドおやべ） 講話「地域における子どもの育成について」（県教委小中学校課主幹 藤田 栄氏） 	
	8.7	<ul style="list-style-type: none"> 講演「県内の地震情勢と災害の軽減について」（富大教授 竹内 章氏） 実践発表：砺波市立鷹栖公民館、射水市立戸破公民館 	
	9.27	<ul style="list-style-type: none"> 第1回県公民館大会（県教育文化会館） 	
	1.9～11	<ul style="list-style-type: none"> 記念講演「人口減少時代を見据えたまちづくり～公民館活動へのエール」（公民館振興市町村連盟県支部長・富山市長 森 雅志氏） 	
	2.14	<ul style="list-style-type: none"> 実践発表：富山市立水橋中部公民館 「人の集まる拠点となり、地域に発信する場としての公民館」 	
	3.24	<ul style="list-style-type: none"> 全国セミナー報告：砺波市立般若、中野公民館 公民館主事・指導員現地研修（富山市立鶴坂公民館、富山市） 第19回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 公民館主事・指導員研修会（婦中ふれあい館・富山市立速星公民館） 「豊かな社会を築き上げる公民館活動の在り方 ～地域の特性を生かした事業を推進するために～」 	
		「公民館ガイドブック」発刊	
20	5.15	<ul style="list-style-type: none"> 第2回定期評議員会（県教育文化会館） 	<ul style="list-style-type: none"> 「教育振興基本計画について—「教育立国」の実現に向けて—」（中教審答申） 全公連より「よくわかる公民館のしごと」発刊 社会教育法一部改正 県、市町村派遣社会教育主事を年度末で廃止
	6.12	<ul style="list-style-type: none"> 鹿熊県公連会長、全公連会長に就任 	
	6.13	<ul style="list-style-type: none"> 公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「これからの公民館運営の在り方」（前県公連副会長 河西 求氏） 	
	7.12	<ul style="list-style-type: none"> 実践発表：高岡市立大滝公民館、小矢部市立菟波公民館 	
	7.25	<ul style="list-style-type: none"> 第37回県社会教育大会において、富山市立岩瀬公民館発表 公民館長研修会（新川文化ホール） 講演「公民館と地域振興」（魚津市長 澤崎義敬氏） 	
	8.28	<ul style="list-style-type: none"> 実践発表：朝日町立泊二区公民館、立山町立新川公民館 第2回県公民館大会（県教育文化会館） 講演「公民館活動が今の社会を再生する」（NPO法人教育支援協会 吉田博彦氏） 	
	9.18	<ul style="list-style-type: none"> 全国セミナー報告：高岡市立古府公民館 道前正光 館長 	
	1.16～18	<ul style="list-style-type: none"> 公民館主事・指導員現地研修（五箇山合掌集落） 	
	2.20	<ul style="list-style-type: none"> 第20回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 公民館主事・指導員研修会（高周波文化ホール・射水市中央公民館） 「地域住民の学習と活動の拠点としての公民館の在り方 ～地域の特性を生かした地域づくりや人づくり～」 	
		☆県委託「公民館わくわくどきどき自然体験事業」28公民館で実施 ☆国委託「『学びあい、支えあい』地域活性化推進事業」 8地区実行委員会に実施主体として参加	

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
21	5.15 6.12 9.9 9.30 10.29 1.27~29 2.19	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講話「今求められる公民館の役割と職員の仕事」 （前生涯学習・文化財室主任社会教育主事 吉野 肇 氏） 実践発表：富山市立光陽公民館、氷見市立阿尾公民館 ・第3回県公民館大会（県教育文化会館） 講演「笑顔で心と心をかよわせて～つながる言葉、伝える思い～」 （アナウンサー、エッセイスト・全公連理事 村松真貴子 氏） 実践発表：南砺市井波公民館「自然観察のつどい」 ・公民館主事・指導員現地研修（入善町立飯野公民館、朝日町） ・公民館長研修会（県総合福祉会館） 講演「地域住民の、地域住民のための公民館」 （砺波市教委教育委員長 河西 求 氏） 実践発表：上市町立上市公民館、入善町立上原公民館 ・第21回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 ・公民館主事・指導員研修会 （南砺市井口行政センター・井口社会福祉センター） 「地域住民の学習・活動の拠点としての公民館の在り方 ～地域の特性を生かした地域づくり・人づくり～」 ☆県委託「公民館わくわくどきどき自然体験事業」48公民館で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全公連より「よくわかる公民館のしごと増補改訂版」発刊 ・全公連より「公民館関係者必携（平成22年版）」発刊
22	5.19 6.11 7.10 9.8 1.25 1.26~28 2.9 2.16 3.22	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講話「公民館職員の心構えと企画力」 （生涯学習・文化財室主任社会教育主事 山本一弘 氏） 実践発表：黒部市立若栗公民館、滑川市立西地区公民館、富山市立牧公民館 ・第39回県社会教育大会において、射水市立大島公民館発表 ・県公民館連合会創立60年記念第4回県公民館大会（県教育文化会館） 記念講演「社会教育の『出番』と『居場所』」 （文科省生涯学習制作局社会教育課企画官 岩佐敬昭 氏） 実践発表：砺波市庄下公民館「子育て支援ルーム“はとぼぼ”の実践」 ・地域の教育力を考える地区研修会兼主事・指導員現地研修会 （魚津市大町公民館） 公民館ふるさと教育推進事業発表 魚津市大町公民館・同村木公民館 現地見学 魚津城址（歴史館：大町小）・米騒動発祥地・埋没林博物館・魚津水族館 ・第22回生涯学習推進研究協議会（公民館全国セミナー）代表参加 ・地域の教育力を考える地区研修会兼主事・指導員現地研修会 （高岡市立古府公民館）公民館ふるさと教育推進事業発表 福野地区・砺波地区・氷見地区 現地見学 高岡万葉歴史館・国宝瑞龍寺 ・地域の教育力を考えるフォーラム（県教育文化会館） 記念講演「ICTで広げ深めるふるさと教育—地域の絆が教育力を高める—」（富山大学教授 山西潤一 氏） シンポジウム 基調提案（和歌山大学教授 出口寿久 氏） ・県公連創立60周年記念誌発刊 ☆国委託「富山県公民館ふるさと教育推進事業」56公民館で実施 ☆県委託「公民館子ども自然体験事業」80公民館で実施 	
23	5.18 6.10 9.6 9.30 11.16 2.17	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「公民館職員の心構えと地域づくり・人づくり」 （砺波市立鷹栖小学校長 山本一弘 氏） 実践発表：魚津市村木公民館、舟橋村立舟橋村公民館 ・第5回富山県公民館大会（県教育文化会館） 講演「富山県教育について」（富山県文化振興財団理事長 東野宗朗 氏） 実践発表：富山市立音川公民館 ・公民館主事・指導員現地研修（県東部対象：南砺市井波・福光地区） ・公民館長研修会（県高岡文化ホール） 講演「地域を担う公民館の役割と展望」 （富山大学地域連携推進機構教授 藤田公仁子 氏） 第49回東陸富山大会事前研（県公連副会長・実行委員長 中西 彰 氏） 実践発表：高岡市立平米公民館、小矢部市立東部公民館 ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 分科会研修『熟議』 ☆県委託「公民館子どもふるさと自然体験事業」70公民館9地区で実施 ☆県民カレッジ主管「とやま学遊ネット」に全公民館のWEBサイト開設 	

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
24	5.18 6.12 ◇9.6~7 2.26	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「地域社会教育の担い手」 （富山県公民館連合会副会長 中西 彰 氏） 実践発表：朝日町立宮崎公民館、富山市立室牧公民館 事業説明：本県のエイジレス社会活動推進事業について 第49回東海北陸公民館大会を富山県民会館で開催（本県から1,004名） テーマ「地域の絆・人々の連帯を再構築する公民館のあり方 ～希望の輪・共感の輪をひろげる活動の創造～」 施策説明「社会教育・生涯学習施策の動向」 （文科省生涯学習政策局社会教育課課長補佐 平川康弘 氏） 記念講演「防災・減災と公民館の役割」 （公益財団法人市民防災研究所特別研究員 細川顕司 氏） ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 講演『熟議のすすめ』（教育支援協会代表理事 吉田博彦氏） 分散会研修『リアル塾議』 ☆県委託「公民館子どもふるさと自然体験事業」145公民館で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新・元気とやま創造計画策定 ・第6期中教審生学分会における議論の整理 （中教審生学分会）
25	5.16 6.11 9.10 10.4 11.6 2.21	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「社会教育と公民館」（滑川市立南部小学校長 石澤 靖 氏） 実践発表：（入善町中央公民館、富山市立下夕北部公民館） ・第7回富山県公民館大会（県教育文化会館） 講演「ワークライフバランスの実現が少子化日本を救う」 （同志社大学政策学部教授 川口 章 氏） 実践発表：黒河夜高保存会 ・公民館主事・指導員現地研修 （県西部対象：富山地区・富山市立市鶴坂公民館、県広域消防防 災センター） ・公民館長研修会（県新川文化ホール） 対談「公民館のつどいから」 （全公連会長 鹿熊久三 氏、県公連会長 中西 彰 氏） 実践発表：上市町立弓庄公民館、砺波市立梅檀山公民館 ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） テーマ：「理想の公民館を考えよう」 （分散会と全体会、 講師 富山大学地域連携推進機構教授 藤田公仁子 氏） ☆県委託「公民館親子ふるさと自然体験事業」53公民館で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期教育振興基本計画について（中教審答申） ・今後の地方教育行政の在り方について（中教審答申）
26	5.16 6.11 9.10 10.1 11.5 2.20	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「公民館とふるさと学習」（県公連前事務局長 中村啓志 氏） 実践発表：小矢部市立南谷公民館、滑川市山加積地区公民館 ・第8回富山県公民館大会（県教育文化会館） 講演「2020年に向けた公民館・社会教育への期待」 （文科省スポーツ・青少年局競技スポーツ課長 坪田知広 氏） 実践発表：黒部市立内山公民館 ・公民館主事・指導員現地研修 （県東部対象：高岡地区・高岡市立西条公民館、万葉歴史館） ・公民館長研修会（ウイング・ウイング高岡ホール） 講演「生涯学習あれこれ」 （富山県総合教育センター研修顧問 加藤敏久 氏） 実践発表：高岡市立成美公民館、富山市愛宕地区ふるさとづくり推進協 議会 ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 講演「今、公民館に求められていること」 （富山大学地域連携推進機構 藤田公仁子 氏） 講演「音響及び映像の効果的な活用法について」 （株式会社オトムラ 新甫善文 氏） ☆県委託「公民館親子で高志の国探検事業」48公民館で実施 	
27	5.18 6.11 ◇9.10~11 2.19	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「公民館に期待されること」（南砺市立利賀小学校長 坂本博昭 氏） 実践発表：魚津市西布施公民館、氷見市宇波公民館 第52回東海北陸公民館大会を富山県民会館で開催（本県から954名） テーマ「『つどい・まなぶ・むすぶ』を礎に、地域を『まもり』、明日を 『ひらく』公民館をめざして」 施策説明「地方創生と社会教育」 （文科省生涯学習政策局社会教育課課長補佐 佐藤秀雄 氏） 記念講演「スポーツには世界と未来を変える力がある」 （公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 常任理事／副事務総長 布村幸彦 氏） ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 講演「1+1=きずな」（電卓日本一 重原佐千子 氏） 実践発表：富山市月岡校下ふるさとづくり推進協議会 ☆県委託「公民館親子で高志の国探検事業」48公民館で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームとしての学校の在り方と今後の改善方策 について（中教審答申） ・「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた 学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進 方策について」（中教審答申） ・富山県教育大綱策定

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
28	5.20 6.15 9.7 10.5 11.9 2.22	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「公民館運営の期待」 （高岡市立成美公民館 館長 高井 清高氏） 講演「公民館活動と地域の活性化」 （富山市立上条公民館 主事 嘉藤 隆幸氏） 実践発表：富山市立豊田公民館、朝日町立笹川公民館 ・第10回富山県公民館大会（県教育文化会館） 講演「公民館 は・で・に」 （富山県生涯学習カレッジ 学長 山崎 弘一氏） 実践発表：砺波市立青島公民館、砺波市教育委員会生涯学習・スポーツ課 ・公民館主事・指導員現地研修 （県西部対象：魚津地区・魚津市大町公民館、YKKセンターパーク丸屋根展示館、くろべ牧場まきばの風） ・公民館長研修会（新川文化ホール） 講演「ふるさとを愛し次代を担う人づくり」 （氷見市教育委員会 教育長 山本 晶氏） 実践発表：上市町立山加積公民館、射水市新湊コミュニティセンター ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 実践発表：「富山学遊ネットの活用について」 （富山市立山室公民館主事 布施 智課氏） 演習：「とやま学遊ネットへの情報発信の実際」 （富山県生涯学習カレッジ本部 学習専門員 網 功治氏） <p>☆県委託「公民館親子で高志の国探検事業」 48公民館で実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の耐震化の促進について （文科省生学局社教課長通知）
29	5.19 6.16 9.13 10.4 11.9 2.20	<ul style="list-style-type: none"> ・第11回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「公民館運営の在り方」（入善町立桃李小学校長 廣瀬 修氏） ・第11回富山県公民館大会（県教育文化会館） 講演「映画の誘致と地域活性化」 （富山県口ケーションオフィス 富山県観光振興室 主幹 前佛 聡氏） 実践発表：小矢部市立松沢公民館 ・公民館主事・指導員現地研修（県東部対象：砺波地区、砺波市立般若公民館、砺波民具展示室、増山城跡） ・公民館長研修会（高周波文化ホール） 講演「民具6900点が国の文化財に」 （砺波市郷土資料館 館長 高原 徹氏） 実践発表：高岡市立二塚公民館、黒田新町自治公民館、滑川市中加積地区公民館 ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 演習「富山学遊ネットへの情報発信の実際」 （富山県生涯学習カレッジ本部学習専門員 網 功治氏） <p>☆県委託「公民館親子で高志の国探検事業」 48公民館で実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全公連より「新訂よくわかる公民館のしごと」 発刊 ・全公連より「公民館必携（平成29年版）」 発刊 ・新富山県教育振興基本計画策定
30	5.24 6.22 9.14 10.2 11.7 2.20	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「公民館と地域づくり」 （砺波市立雄神公民館 館長 杉森 貢氏） 講演「社会教育の担い手」 （富山県公民館連合会 会長 中西 彰氏） 実践発表：富山市立蜷川公民館、氷見市阿尾公民館 ・第12回富山県公民館大会（県教育文化会館） 講演「笑顔で広げる地域の輪」 （元NHKキャスター・エッセイスト 全国公民館連合会理事 村松 真貴子氏） 実践発表：黒部市立東布施公民館 ・公民館主事・指導員現地研修（県西部対象：富山地区、富山市立熊野公民館、猪谷閣所館、イタイイタイ病資料館） ・公民館長研修会（大久保ふれあいセンター 多目的ホール） 講演「立山砂防の歴史と世界遺産登録への取り組み」 （富山県総合政策局 参事・課長 松島 吉信氏） 実践発表：立山町立新川公民館、南砺市大鋸屋公民館 ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 講演「地域防災力を高める公民館活動」 （NPO法人富山県防災士会 理事長 小杉 邦夫氏） ワークショップ：「地域の絆を深める公民館事業の立案」 <p>☆県委託「公民館親子で高志の国探検事業」 47公民館で実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公立社会教育施設の所管の在り方等に関する生涯学習分科会における審議のまとめ（中教審生涯学習分科会） ・人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（中教審答申） ・文科省生涯学習政策局を「総合教育政策局」に改組

年度	月 日	県公連のあゆみ	県・国の出来事
R1	5.23 6.21 9.12 10.2 11.6 2.20	<ul style="list-style-type: none"> ・第13回定期評議員会（県教育文化会館） ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 講演「地域の絆づくりと公民館の役割」 （県公民館連合会 前事務局長 清水 賢氏） 実践発表：砺波市立般若公民館、上市町立白萩西部公民館 ・第13回富山県公民館大会（県教育文化会館） 講演「廃棄物である吾輩は資源である」 （富山県立大学環境工学専攻・環境・社会基盤工学科 准教授 立田 真文氏） 実践発表：射水市ふたぐちコミュニティセンター ・公民館主事・指導員現地研修（県東部対象：高岡地区・高岡市立能町公民館、瑞龍寺、御車山会館、山町筋） ・公民館長研修会（アイザック小杉文化ホールラポール まどかホール） 講演「補償制度の事故実績から見た公民館の安全管理」 （エコー総合補償サービス㈱ 代表取締役 山口 高寛氏） 実践発表：富山市立朝日公民館、魚津市下中島公民館 ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 演習「広報に役立つデザインの考え方」～イメージを形にする方法～ （橋本利久デザイン事務所 代表 橋本 利久氏） 講演「災害救護の現場から～避難所での生活について～」 （日本赤十字社富山県支部 看護主任 藤城 優子氏） 	
2	5.21 6.19 6.29 10.2 11.11 11.26 2.26 3.19	<ul style="list-style-type: none"> ・第14回定期評議員会 書面決議 ・公民館初任者研修会（県教育文化会館） 新型コロナウイルス感染予防のため中止 ・中西彰県公連会長、全公連会長に就任 ・公民館主事・指導員現地研修（県西部対象：魚津地区） 新型コロナウイルス感染予防のため中止 ・公民館長研修会（新川文化 小ホール） 講演「コロナピンチを学校改革のチャンスに～朝日町におけるオンライン授業等の取組を中心に～」 （朝日町教育委員会 教育長 木村 博明氏） （朝日町教育センター 指導主事 上田 勝氏） 実践発表：朝日町立山崎公民館、高岡市立古府公民館 ・富山県公民館連合会創立70周年記念 第14回県公民館大会（県教育文化会館） 基調講演「社会が大きく変容する中で持続可能な地域づくりの推進のために～北海道公民館振興首長会構想から5年～」 （全国公民館連合会理事・北海道平取町前町長 川上 満氏） パネルディスカッション「新しい時代の公民館活動」 全国公民館連合会理事・北海道平取町前町長 川上 満氏 富山県教育委員会生涯学習・文化財室室長 吉田 学氏 富山県公民館連合会副会長・高岡市立成美公民館館長 高井 清高 コーディネーター 全国公民館連合会・富山県公民館連合会会長 中西 彰 実践発表：滑川市東加積地区公民館 ・公民館主事・指導員研修会（県教育文化会館） 報告「新しい公民館のカタチーコロナに負けない公民館活動ー」 （富山県公民館連合会 事務局長 本田 正則） 演習「心つながるアナウンス」 （とやまアナウンスアカデミー 主宰 米原 由紀子氏） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全公連「公民館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を作成 ・第10期中教審生学分科会における議論の整理（中教審生学分科会）
		<ul style="list-style-type: none"> ☆県委託「はつらつ公民館学び支援事業」33公民館で実施 	
		<ul style="list-style-type: none"> ☆県委託「はつらつ公民館学び支援事業」34公民館で実施 	

全国公民館研究集会・東海北陸公民館大会参加概要（平成23～令和2年度）

- ・平成23～令和2年度までの参加者数は延べ3,449名であり、多くの関係者が全国や東海北陸の仲間と交流し、研修を深め、その成果をもち帰って広げ、日々の実践向上、活動の工夫に活かした。
- ・平成28年度から、全国公民館研究集会の形態が変わり、全国7ブロックの公民館大会に全国公民館研究集会という名称が付き、合同大会の形となった。
- ・平成30年度のように全国公民館研究集会を首都圏で開催するときは、各ブロック大会は休会となる。

東海北陸公民館大会

年度	回	開催地	大会テーマ	参加者数
23	48	三重県桑名市	「新しい公共性をめざす公民館の創造」～地域の絆を育てる公民館へ～	183
24	49	富山県富山市	「地域の絆・人々の連帯を再構築する公民館のあり方 ～希望の輪・共感の輪をひろげる活動の創造～」	1004
25	50	愛知県半田市	「地域を創る 人を創る～愛と絆の公民館活動～」	160
26	51	福井県福井市	「つどい、まなび、支えあい、人と地域をつなげる公民館を目指して」	199
27	52	富山県富山市	「つどう・まなぶ・むすぶ」を礎に、地域を「まもり」、 明日を「ひらく」公民館をめざして	954
28	53	岐阜県高山市	「より深めよう 地域の絆」	220
29	54	石川県金沢市	「人づくり・地域づくりに貢献する公民館」 ～地方創生の担い手としての公民館を目指して～	344
30			（ 休 会 ）	
1	55	愛知県刈谷市	「公民館で創る地域の未来」 ～地域や人がつながる魅力ある公民館づくりをめざして～	150
2	56	福井県福井市	「持続可能な社会を支える公民館」 ～“人・つながり・地域”づくりに貢献する拠点を目標として～ ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度に延期	

全国公民館研究集会

年度	回	開催地	大会テーマ	参加者数
23	33	佐賀県佐賀市	「地域再建の活路を拓く『原動力』としての公民館 ～活力のあるコミュニティづくりに資する社会教育の視点から～」	15
24	34	滋賀県大津市	「『今こそ活力ある公民館活動を！』 ～新しい公民館像と役割を求めて～」	92
25	35	北海道富良野市	「地域を育む公民館活動 ～コミュニティづくりに求められる公民館のあり方～」	9
26	36	埼玉県熊谷市	「公民館よあつくなれ！」 ～時代の変化に対応し、地域との連携を深める公民館をめざして～	29
27	37	鳥取県鳥取市	「未来を拓く公民館力」 ～人が輝き 地域がきらめく～	13
28	38	岐阜県飛騨市	（上掲）	220
29	39	石川県金沢市	（上掲）	344
30	40	東京都	「公民館がひらく日本の未来」 ～地域性・個性を活かした新しい公民館活動を！～	77
1	41	愛知県刈谷市	（上掲）	150
2	42	福井県福井市	（上掲）	

全国公民館研究集会・東海北陸公民館大会における本県の発表

年度	回	分科会	発表館・発表者	発表題
23	48・三重	1. これからの公民館の管理、運営のあり方	高岡市立醍醐公民館 指導員 原野 和子 戸出を知る会 運営委員 加藤 律子	公民館の連携事業が地域をひとつに ～かるたでふるさと歴史学習～
		4. 生活課題・地域課題を学び、町づくりに取り組む公民館	富山市立速星公民館 館長 山口 吉弘	安心安全な町づくりのリーダーシップを取る公民館
	33・全国 佐賀	5. 人権教育	入善町連絡協議会 会長 中塚 忠光	生涯学習推進大会・男女共同参画フォーラムの取り組み
24	49・富山	1. 公民館の運営と管理	射水市南太閤山コミュニティセンター センター長 谷岡 輝男	コミュニティセンターの役割と指定管理
		2. 地域づくりと公民館	魚津市加積公民館 館長 鹿熊 武	「かづりん物語」と「りんご体験教室」によるふるさと教育
		3. 地域防災と公民館	氷見市立女良公民館 館長 清水 孝則	住民の安全・安心を支える地域防災と公民館
		4. 地域の絆づくりと公民館	富山市立堀川南公民館 館長 伊藤 英子	共同参画社会をつくる公民館の役割
		5. 家庭・地域・学校の連携と公民館	砺波市鷹栖子ども教室推進事業実行委員会 委員 瘧師 きよみ	子どもたちの安全・安心な居場所づくり
		6. 地域のささえあいと公民館	南砺市福光公民館 指導員 中田 まりこ	地域の絆を育む福光公民館
		7. 地域の社会教育と公民館	富山市民館連絡協議会 会長 尾崎 汎	自治公民館と共に歩む市公連の活動
25	50・愛知	2. 家庭・学校・地域との連携	黒部市立荻生公民館 館長 山口 直次	地域の絆と連帯を深める公民館活動
26	51・福井	地域づくりと公民館	高岡市立牧野公民館 館長 岡本 孝平	郷土に誇りと愛着を ーふるさとの万葉に親しむー
27	52・富山	1. 公民館の管理と運営	富山市立清水町公民館 館長 高見 喜義	地域の願いに即した公民館活動の役割
		2. 地域づくりと公民館	高岡市立是戸公民館 館長 野原 忠治 是戸地区 健康おたっしや教室7名	ふるさと教育と地域再発見 ～高齢者と作る地域の紙芝居～
		3. 地域防災と公民館	富山市立倉垣公民館 館長 伊藤 和雄	安全・安心を支える公民館役割
		4. 高齢社会と公民館	南砺市太美山公民館 館長 因幡 慎介	少子・高齢化地域での公民館活動
		5. 地域・学校と公民館	朝日町山崎公民館 館長 七澤 麗子	地域と学校を繋ぐ公民館の役割
28	38・全国 53・岐阜	3. 家庭・地域・学校等との連携	砺波市立青島公民館 館長 松井 仁	昔ながらの農業体験を通じ、家庭、地域、学校との連携の向上を図る
29	39・全国 54・石川		発表なし	
30	(休 会)			
1	41・全国 55・愛知	地域防災と公民館	富山市立清水町公民館 館長 伊藤 和雄	地域防災に果たすべき公民館の役割
2	42・全国 56・福井		※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度に延期	

輝く表彰

1 文部科学大臣表彰

年度	個人		公民館	
H22			入善町飯野公民館	小矢部市立敷波公民館
23			魚津市大町公民館	南砺市高瀬西公民館
24			富山市立五福公民館	小矢部市立若林公民館
25			魚津市村木公民館	高岡市立牧野公民館
26			滑川市中加積地区公民館	高岡市立成美公民館
27			立山町立新瀬戸公民館	氷見市窪公民館
28			上市町立柿沢公民館	砺波市立青島公民館
29			黒部市立下立公民館	砺波市立梅檀山公民館
30	谷井 光昭	元県公連副会長	魚津市加積公民館	南砺市南山田公民館
R1	岡本 孝平	前県公連副会長	朝日町立大家庄公民館	射水市三ヶコミュニティセンター
2	山口 吉弘	県公連副会長	黒部市立若栗公民館	小矢部市立松沢公民館

2 富山県教育委員会表彰・富山県知事表彰

年度	教育功労者表彰（県教委）		公民館	県功労表彰（県知事）
	個人			
H22			高岡市立牧野公民館	鹿熊 久三 県公連会長
23			魚津市村木公民館	
24			滑川市中加積地区公民館	
25	山口 吉弘	県公連副会長	氷見市窪公民館	
26	尾崎 汎	前県公連副会長	上市町立柿沢公民館	
27	谷井 光昭	富山市公民館連絡協議会副会長	黒部市立下立公民館	
28	岡本 孝平	県公連副会長	朝日町立笹川公民館	
29	殿山美喜夫	小矢部市立敷波公民館館長	小矢部市立水島公民館	
30	高井 清高	高岡市公民館連絡協議会副会長	朝日町立大家庄公民館	
R1	藤木 一仁	富山市公民館連絡協議会副会長	滑川市滑川東地区公民館	谷井 光昭 元県公連副会長
2	上田 一夫	滑川市公民館連絡協議会前会長	氷見市宇波公民館 氷見市女良公民館	

3 ふるさと教育とやま賞・県民ふるさと大賞 受賞一覧

ふるさと教育とやま賞

年度	公民館名	個人	備考
H22	砺波市立太田公民館		
23	魚津市大町公民館		
24	小矢部市立敷波公民館		
25	入善町飯野公民館		

県民ふるさと大賞

年度	公民館名	個人	備考
26	高岡市立古府公民館		
27	魚津市村木公民館		
28	氷見市窪公民館		
29			
30	黒部市立下立公民館		
R1	南砺市高瀬西公民館		
2	高岡市立成美公民館		

4 全国公民館連合会・東海北陸公民館連合会優良職員表彰

年度	全国公民館連合会		東海北陸公民館連合会	
H22	山口 吉弘 館長	富山市立速星公民館	吉野 一夫 前館長 藤澤 律子 主事	富山市立婦中熊野公民館 砺波市立林公民館
23	谷井 光昭 館長	富山市立呉羽町公民館	岡本 孝平 館長 田村美律子 主事	高岡市立牧野公民館 富山市立新保公民館
24	岡本 孝平 館長	高岡市立牧野公民館	平内 幸典 館長 山下 忠 前館長	魚津市大町公民館 小矢部市立宮島公民館
25	榎田 寛昭 館長	上市町立柿沢公民館	嘉藤 隆幸 主事 久世よし子 主事	富山市立上条公民館 上市町立柿沢公民館
26	柴田 秀紀 前館長	砺波市立鷹栖公民館	高井 清高 館長 荻野 康子 指導員	高岡市立成美公民館 黒部市立三日市公民館
27	土田 博 館長	小矢部市立正得公民館	山本 武夫 館長 長田 弘子 館長	小矢部市立北蟹谷公民館 入善町飯野公民館
28	山崎 能伸 館長	高岡市立下関公民館	澤村真由美 専任主事 清原 茂夫 専任主事	砺波市立柳瀬公民館 砺波市立中野公民館
29	高井 清高 館長	高岡市立成美公民館	島崎 昌美 前事務局員 太田 京子 主事	富山県公民館連合会 砺波市立般若公民館
30	藤澤 律子 専任主事	砺波市立林公民館		
R1	長田 弘子 館長	入善町飯野公民館	上田 一夫 館長 川田 真弓 前専任主事	滑川市滑川西地区公民館 砺波市立出町公民館
2	太田 京子 専任主事	砺波市立般若公民館	永田 晋治 館長 北村外志子 主事	滑川市山加積地区公民館 砺波市立種田公民館

5 富山県公民館連合会表彰

平成23年度

●優良自治公民館

富山市海岸通新町公民館
高岡市八ヶ自治会公民館
上市町柿沢一区公民館

富山市月岡東緑町第一公民館
滑川市泉ヶ丘公民館

●勤続20年以上

林 陽子 生涯学習推進委員
射水市放生津コミュニティセンター
広田 範子 主事補 上市町立南加積公民館

廣田 章 主事 上市町立白萩南部公民館

●勤続10年以上

日和 祐樹 館長 高岡市立淵ヶ谷公民館
左近 悦恵 指導員 魚津市松倉公民館
水井 勤 館長 滑川市滑川東地区公民館
上田 順子 指導員 滑川市滑川西地区公民館
中山 誠信 主事 南砺市大鋸屋公民館
松本 一幸 前館長 上市町立宮川公民館
嘉藤 峰子 主事 上市町立大岩公民館
酒井 京子 主事 上市町立南加積公民館
折谷 隆三 館長 朝日町立笹川公民館

櫻井 時子 事務員 高岡市立木津公民館
干場 広光 主事 氷見市八代公民館
金川 充 主事 滑川市立東加積地区公民館
小森 兼重 館長 砺波市立般若公民館
澤田 秀子 指導員 南砺市南山見公民館
久世よし子 主事 上市町立柿沢公民館
松本 悦雄 主事 上市町立山加積公民館
清水 孝司 主事 上市町立白萩東部公民館
水野 真也 主事 朝日町立大家庄公民館

●功労賞

井上 都 社会教育指導員
射水市教育委員会

平成24年度

●優良自治公民館

富山市常盤台公民館
高岡市縄手中町自治会公民館

富山市米田すずかけ台公民館
滑川市追分会館

●勤続20年以上

坂林 春美 事務員 富山市立朝日公民館
前田久美子 事務員 高岡市立定塚公民館
酒井栄代子 公民館指導員
高岡市立北般若公民館

田嶋 広子 事務員 高岡市立国吉公民館
岡本 恵美 事務員 高岡市立佐野公民館
森永 章子 生涯学習推進委員
射水市新湊コミュニティセンター

川口 順子 生涯学習推進委員
射水市庄西コミュニティセンター

●勤続10年以上

小畔 幸子 主事 富山市立清水町公民館
平岡 春美 主事 富山市立山室中部公民館
深澤由紀子 主事 富山市立水橋東部公民館
川辺 幸子 事務員 高岡市立古府公民館
向野佐知子 センター職員
射水市池田コミュニティセンター
後藤 順治 館長 魚津市片貝公民館
道音 唯夫 書記 魚津市松倉公民館
村田 登 館長 氷見市速川公民館
岡田 千春 社会教育指導員 黒部市立中央公民館
寺井 正次 主事 南砺市井波公民館
辻 直幸 主事 南砺市西太美公民館
野村 由夫 主事補 上市町立柿沢公民館
石原 亜紀 主事補 立山町立下段公民館

室 真由美 主事 富山市立星井町公民館
谷井 千秋 主事 富山市立八幡公民館
道前 正光 館長 高岡市立古府公民館
高木由紀子 事務員 高岡市立古府公民館
宮浦由美子 センター職員
射水市中太閤山コミュニティセンター
高島 晃子 書記 魚津市下中島公民館
池田 澄子 指導員 魚津市本江公民館
浦田 保清 館長 滑川市立東加積地区公民館
天池 信一 前館長 南砺市南山田公民館
南 成子 公民館指導員 南砺市井波公民館
高田 栄子 指導員 舟橋村立舟橋公民館
松原 睦実 主事補 立山町立新川公民館

平成25年度

●優良自治公民館

富山市布目自治公民館

高岡市西佐野自治会公民館

滑川市菰原自治公民館

富山市中沖公民館

高岡市下関児童館自治会公民館

●勤続20年以上

村上 俊樹 主 事 魚津市下中島公民館

●勤続10年以上

小川香奈子 事務員 高岡市立小勢公民館

山崎 能伸 館 長 高岡市立下関公民館

森山由加利 書 記 魚津市片貝公民館

北村外志子 主 事 砺波市立種田公民館

山本 章子 指導員 小矢部市立津沢公民館

嶋谷 憲一 館 長 小矢部市立東蟹谷公民館

黒田真由美 主 事 上市町立音杉公民館

金尾 吏佳 前主事補 立山町立日中上野公民館

松田 知幸 主 事 朝日町泊二区公民館

谷保 修二 主 事 高岡市立北般若公民館

高倉 満広 前主事 魚津市天神公民館

稲積 重雄 前館長 氷見市東公民館

土田 博 館 長 小矢部市立正得公民館

殿山美喜夫 館 長 小矢部市立藪波公民館

島崎 貞子 指導員 小矢部市立東蟹谷公民館

志鷹 崇子 主事補 立山町立芦嶺公民館

大谷 和哉 主 事 朝日町泊三区公民館

平成26年度

●優良自治公民館

富山市上熊野公民館

高岡市内島自治会公民館

滑川市神明町公民館

富山市高園町1区公民館

高岡市宮町自治会公民館

上市町正印公民館

●勤続20年以上

米谷真由美 主 事 富山市立総曲輪公民館

鷹屋 證了 主 事 南砺市福野東部公民館

柏原 博光 主 事 入善町上原公民館

高瀬 英明 館 長 南砺市福野中部公民館

中田 篤志 主 事 入善町入善公民館

●勤続10年以上

永井 幸恵 主 事 富山市立神明公民館

若林 祐子 主 事 富山市立浜黒崎公民館

大嶋 啓子 主 事 富山市立上滝公民館

谷口ルリ子 主 事 富山市立牧公民館

野口るり子 主 事 富山市立黒瀬谷公民館

中尾 靖嗣 前主事 富山市立宮川公民館

島田 真弓 事務員 高岡市立東五位公民館

畠山 建雄 館 長 高岡市立立野公民館

秋村 好美 主 事 富山市立広田公民館

嘉藤 隆幸 主 事 富山市立上条公民館

高橋 順子 主 事 富山市立文珠寺公民館

平澤佳代子 主 事 富山市立杉原公民館

福田 愛子 主 事 富山市立卯花公民館

林 真由美 事務員 富山市立婦中熊野公民館

高井 清高 館 長 高岡市立成美公民館

寺本東志子 職 員

高島 文枝 職 員

射水市中太閤山コミュニティセンター

黒崎 充 館 長 射水市太閤山コミュニティセンター

魚津市松倉公民館

馬場 均 館 長 魚津市上野方公民館

松崎 映憲 前主事 魚津市上中島公民館

真下 星子 書 記 魚津市西布施公民館

清原 茂夫 主 事 砺波市立中野公民館

甲谷志美子 指導員 小矢部市立藪波公民館

齋田 亨 主 事 南砺市東太美公民館

長川 孝之 前館長 立山町立新瀬戸公民館

坂井 繁好 公民館指導員 立山町立下段公民館

島先 紀子 主事補 入善町櫛山公民館

藤森 芳憲 前館長 魚津市西布施公民館

野島 裕子 書 記 魚津市大町公民館

安田恵美子 指導員 魚津市天神公民館

野原 英子 主 事 砺波市立若林公民館

中嶋 伸一 前館長 南砺市福野西部公民館

寺田 俊一 主 事 砺市北山田公民館

山本 美紀 前公民館指導員 立山町立新川公民館

長澤 成晃 公民館指導員 立山町立岩嶺公民館

宮沢久仁恵 主事補 入善町野中公民館

平成27年度

●優良自治公民館

富山市中川原自治公民館
高岡市矢田自治会公民館

富山市花園町公民館
高岡市野村第二自治会公民館

●勤続20年以上

野崎未弥子 職員
射水市七美コミュニティセンター

永田 晋治 館長 滑川市山加積地区公民館

●勤続10年以上

恒川 明美 主事 富山市立光陽公民館
坂井久美子 主事 富山市立老田公民館
今井 正美 主事 富山市立細入公民館
加藤きみい 主事 富山市立野積公民館
多田 時枝 職員
射水市海老江コミュニティセンター
堀 智枝子 職員
射水市堀岡コミュニティセンター

石黒真里子 主事 富山市立豊田公民館
野田 静江 主事 富山市立水橋東部公民館
前田 幸美 主事 富山市立細入南部公民館
定田 真弓 事務員 高岡市立成美公民館
浦上勇貴有 生涯学習推進委員
射水市塚原コミュニティセンター
中田 進 前館長 魚津市天神公民館

濱田 信治 主事 魚津市本江公民館
山下 進 前館長 氷見市八代公民館
水牧 尚 館長 小矢部市立石動公民館
大谷富士子 主事 小矢部市立南谷公民館
杉本 澄子 公民館指導員 南砺市南山田公民館
藤井 宣雄 館長 南砺市井口ふれあい公民館

高林 洋恵 指導員 魚津市大町公民館
山口 哲央 主事 滑川市山加積地区公民館
山本 武夫 前館長 小矢部市立北蟹谷公民館
片瀬眞佐恵 主事 小矢部市立北蟹谷公民館
梅原 雅美 公民館指導員 南砺市蕨谷公民館
高田 里美 公民館指導員
南砺市井口ふれあい公民館

清瀬伊紀子 公民館指導員 南砺市福野中部公民館
中山 京子 公民館指導員 南砺市高瀬西公民館
堀口 睦子 主事 上市町立白萩西部公民館
舟橋 勉 館長 立山町立利田公民館
浅井美智子 前主事補 立山町立利田公民館

西部 重世 館長 南砺市福野北部公民館
筒井 桂子 主事補 上市町立上市公民館
柳瀬久美子 主事補 上市町立弓庄公民館
尾谷 都 公民館指導員 立山町立五百石公民館
吉田 清美 主事補 入善町青木公民館

●功労賞

井出 寛子 社会教育指導員 魚津市教育委員会

鶴森 羊子 社会教育指導員 射水市教育委員会

平成28年度

●優良自治公民館

富山市水橋大正町公民館
高岡市馬場町自治会公民館

高岡市南田町自治会公民館
滑川市河端町公民館

●勤続20年以上

茶木 明美 主事 富山市立愛宕公民館

宮林 睦美 センター職員
射水市金山コミュニティセンター

稲場佳代子 書記 魚津市加積公民館
稲谷 久雄 館長 上市町立上市公民館

藤澤 律子 主事 砺波市立林公民館
秋田 郁美 主事補 入善町舟見公民館

●勤続10年以上

金井ひとみ 主事 富山市立総曲輪公民館
日吾 幸子 事務員 富山市立船峠公民館
野村 信孝 主事 富山市立鶴坂公民館
久保美由紀 センター職員
射水市大島コミュニティセンター

下井 春美 主事 富山市立新保公民館
吉田 昌美 主事 富山市立大長谷公民館
新納 耕一 館長 高岡市立醍醐公民館
佐野千栄子 センター職員
射水市大島コミュニティセンター

宮野 浩一 主事 魚津市経田公民館
谷口 裕子 書記 魚津市天神公民館
山口美智子 指導員 滑川市西加積地区公民館
土田 恵子 主事 砺波市立庄下公民館
角田 麗子 指導員 小矢部市立東部公民館
松井サダ子 主事補 上市町立音杉公民館

黒田 美冬 指導員 魚津市下中島公民館
南 留美子 前社会教育指導員 氷見市上庄公民館
松平由美子 主事 黒部市立内山公民館
中川千美子 主事 小矢部市立松沢公民館
上坂 英規 主事 南砺市太美山公民館
松岡 正美 主事 入善町小摺戸公民館

平成29年度

●優良自治公民館

富山市新根塚町公民館
高岡市六家自治会公民館
砺波市浦之島公民館
高岡市角自治会公民館
砺波市中野一区公民館

●勤続20年以上

濱岸 裕子 書記 魚津市村木公民館
按田 淳美 主事 上市町立弓庄公民館
山田 久就 主事 立山町立谷口公民館
荒木美智子 主事 上市町立上市公民館
藤井 伸暁 館長 立山町立五百石公民館

●勤続10年以上

桶谷 弘美 主事 富山市立水橋中部公民館
山本みゆき 事務員 富山市立鷺坂公民館
野原 忠治 館長 高岡市立是戸公民館
笹岡伊希子 主事 富山市立福沢公民館
谷崎 直美 主事 富山市立堀川南公民館
谷岡 輝男 センター長
射水市南太閤山コミュニティセンター
武田佐千代 書記 魚津市経田公民館
山下 幸夫 館長 前氷見市上庄公民館
前田 週二 館長 氷見市宮田公民館
椀沢 孝信 館長 前氷見市碁石公民館
作田 厚子 社会教育指導員 氷見市窪公民館
上田 一夫 館長 滑川市滑川西地区公民館
岡本 秀和 主事 滑川市東加積地区公民館
安本 晶誉 主事 滑川市中加積地区公民館
松井千恵子 指導員 滑川市早月加積地区公民館
千先 美鈴 指導員 前滑川市浜加積地区公民館
松本 陽子 主事 小矢部市立荒川公民館
林 静夫 館長 上市町立相ノ木公民館
十文字一郎 館長 上市町立白萩西部公民館
伊藤 好子 主事 上市町立山加積公民館
室岡 経子 主事補 上市町立相ノ木公民館
村上嘉代子 主事補 上市町立白萩西部公民館
山崎 春美 主事補 上市町立弓庄公民館
宮崎千代美 主事 前上市町立宮川公民館
久保 富男 主事補 前上市町立柿沢公民館
尾崎 律子 主事補 前上市町立柿沢公民館
高橋 光邦 指導員 立山町立釜ヶ淵公民館
建部 真吾 主事 朝日町立宮崎公民館

平成30年度

●優良自治公民館

滑川市吾妻町公民館
高岡市若富町自治会公民館
滑川市赤浜公民館
高岡市横越下自治会公民館

●勤続20年以上

稲田恵美子 主事 富山市立安野屋公民館
太田 京子 専任主事 砺波市立般若公民館
川田 真弓 専任主事 前砺波市立出町公民館

●勤続10年以上

林 恵子 主事 富山市立西田地方公民館
桑本 里佳 主事 富山市立奥田公民館
松本みどり 主事 富山市立針原公民館
瀬山 雅代 主事 富山市立新庄公民館
布施 智課 主事 富山市立山室公民館
見高 知子 主事 富山市立熊野公民館
津山 節子 主事 富山市立四方公民館
中谷由香里 主事 富山市立室牧公民館
野田磨里子 主事 富山市立仁歩公民館
山崎睦津美 主事 富山市立音川公民館
金和 賢仁 主事 魚津市大町公民館
杉森 久範 館長 上市町立大岩公民館
嘉藤 英子 主事補 上市町立大岩公民館
吉堀なぎさ 事務員 高岡市立牧野公民館
廣瀬富志美 センター職員
池田万利子 指導員 南砺市安居公民館
射水市本江コミュニティセンター
斉藤 悦子 指導員 南砺市福野東部公民館
今村加代子 指導員 南砺市南蟹谷公民館
山田 政寛 館長 南砺市北山田公民館
出村 忍 館長 砺波市立林公民館
林 紀世美 専任主事 砺波市立油田公民館
井端 紀子 社会教育指導員
小矢部市教育委員会生涯学習文化課
松本 秀雄 館長 小矢部市立東部公民館
多地 勇一 前館長 氷見市速川公民館
矢代美樹子 主事 氷見市中央公民館

令和元年度

●優良自治公民館

滑川市高塚曙町公民館

高岡市上北島自治公民館

滑川市大窪公民館

高岡市五十里西町自治公民館

●勤続20年以上

荒井 千秋 事務員 富山市立古里公民館

木村 隆子 指導員 立山町立大森公民館

●勤続10年以上

森川 美子 主 事 富山市立堀川南公民館

三浦みゆき 主 事 富山市立大広田公民館

竹橋 紀子 主 事 富山市立三郷公民館

山本 康磨 館 長 立山町立大森公民館

開発 光邦 主 事 立山町立五百石公民館

寺林 賢司 主 事 立山町立日中上野公民館

安田 玲子 主事補 立山町立大森公民館

吉田 重成 館 長 高岡市立赤丸公民館

多田 省吾 センター長
射水市浅井コミュニティセンター

御器谷 勉 主 事 小矢部市立石動公民館

河原 眞弓 指導員 小矢部市立松沢公民館

浜本 純雄 館 長 氷見市阿尾公民館

中川 桂子 主 事 氷見市加納公民館

令和2年度

●優良自治公民館

高岡市京田荒川自治公民館

高岡市館ヶ丘自治公民館

滑川市下島町公民館

砺波市九本杉公民館

●勤続20年以上

寺岡 則子 指導員 小矢部市立若林公民館

澤村真由美 主 事 砺波市立柳瀬公民館

●勤続10年以上

加藤 美加 主 事 富山市立藤ノ木公民館

杉木 紀子 主 事 富山市立新庄北公民館

高野 恭子 センター職員
下村コミュニティセンター

前田真由美 指導員 魚津市上野方公民館

長谷川恵理子 書 記 魚津市上野方公民館

扇谷 寛之 館 長 氷見市宇波公民館

茶谷 正清 社会教育指導員 氷見市宇波公民館

中島 昭雄 館 長
滑川市東加積地区公民館 蕨輪分館

中谷 三嗣 館 長 黒部市立前沢公民館

竹田 朋子 指導員 小矢部市立北蟹谷公民館

大浦まゆみ 主 事 小矢部市立南部公民館

野原 恵子 生涯学習部会リーダー
南砺市利賀地域づくり協議会

道林 栄行 主事補 上市町立白萩西部公民館

中岩 淳一 館 長 立山町立谷口公民館

菅田 宣雄 館 長 朝日町立中央公民館

久野木利佳 主 事 朝日町立泊一区公民館

本村 邦子 書 記 朝日町立泊三区公民館

森丘 智美 社会教育指導員 黒部市立中央公民館

澤田志津子 主 事 黒部市立東布施公民館

佐々木照子 主 事 黒部市立下立公民館

6 富山県社会教育大会社会教育功労表彰

平成22年度	岡本 孝平	富山県公民館連合会副会長（高岡市）
平成23年度	水牧 尚	富山県公民館連合会理事（小矢部市）
平成24年度	尾崎 汎	富山県公民館連合会副会長（富山市）
平成25年度	櫛岡 勝英	富山県公民館連合会前理事（射水市）
平成26年度	菅田 宣雄	富山県公民館連合会前副会長（朝日町）
平成27年度	上田 一夫	富山県公民館連合会理事（滑川市）
平成28年度	谷井 光昭	富山県公民館連合会理事（富山市）
平成29年度	山口 吉弘	富山県公民館連合会副会長（富山市）
平成30年度	高橋 久雄	富山県公民館連合会理事（小矢部市）
令和元年度	杉森 貢	富山県公民館連合会前副会長（砺波市）
令和2年度	（コロナウイルス感染予防のため中止）	

令和2年度富山県公民館連合会役員

●顧問

鹿熊 久三

●会長

中西 彰 富山市公民館連絡協議会会長

●副会長・理事

山口 吉弘 富山市公民館連絡協議会副会長
森 秀樹 入善町舟見公民館長
若林 祐子 富山市立浜黒崎公民館主事

高井 清高 高岡市立成美公民館長
大沼 宗義 小矢部市立松沢公民館長

●理事

〔富山地区〕

藤木 一仁 富山市公民館連絡協議会副会長
伊藤 和雄 富山市公民館連絡協議会副会長
清水日登美 舟橋村舟橋公民館長

中村 茂信 富山市公民館連絡協議会副会長
永田 晉治 滑川市山加積地区公民館長

〔高岡地区〕

蒲田 幸雄 高岡市立能町公民館長

澤井 達司 射水市生涯学習推進協議会長
(南太閤山コミュニティセンター)

草山 利彦 氷見市中央公民館長

〔魚津地区〕

馬場 均 魚津市上野方公民館長

谷口 政芳 黒部市立三日市公民館長

〔砺波地区〕

境 豊志 砺波市立太田公民館長

山田 政寛 北山田地域づくり協議会生涯学習部会長
(南砺市北山田交流センター)

〔主事・指導員代表〕

池上 恵子 氷見市上庄公民館主事

梅原 雅美 菟谷地域づくり協議会事務局長
(南砺市菟谷交流センター)

浜田 信治 魚津市本江公民館主事

●監事

木下 眞 魚津市本江公民館長
高田 栄子 舟橋村舟橋公民館指導員

山本 誠 砺波市立梅檀野公民館長

●評議員

〔富山市〕

前田 美香 富山市立光陽公民館長
荒田 照夫 富山市立八尾公民館長
土田 隆 富山市立速星公民館長
瀬山 雅代 富山市立五番町公民館主事

大下 勝 富山市立船嶺公民館長
柴田 宙三 富山市立上滝公民館長
杉木 紀子 富山市立新庄北公民館主事
恒川 明美 富山市立光陽公民館主事

〔高岡市〕

古市 猛広 高岡市立太田公民館長
平島 信明 高岡市立福田公民館長
大野きよみ 高岡市立博労公民館主事

吉田 重成 高岡市立赤丸公民館長
岩坪智恵子 高岡市立成美公民館主事

〔射水市〕

高坂 理香 射水市生涯学習推進協議会理事
(庄西コミュニティセンター)
鳥崎 裕治 射水市生涯学習推進協議会理事
(黒河コミュニティセンター)

矢後 雅幸 射水市生涯学習推進協議会理事
(七美コミュニティセンター)
金谷 明菜 射水市教育委員会主任

〔魚津市〕			
山城 清	魚津市片貝公民館長	岡崎 明子	魚津市天神公民館長
金和 賢仁	魚津市大町公民館主事		
〔氷見市〕			
河上 昌俊	氷見市速川公民館長	清水 孝則	氷見市女良公民館長
西川 孝	氷見市窪公民館指導員		
〔滑川市〕			
水井 勤	滑川市滑川東地区公民館長	中島 文典	滑川市北加積地区公民館長
毛利 恒治	滑川市西加積地区公民館主事		
〔黒部市〕			
岡島 茂	黒部市立村椿公民館長	大橋 清信	黒部市立内山公民館長
中野千恵美	黒部市立石田公民館主事		
〔砺波市〕			
野村 幹夫	砺波市立東野尻公民館長	藤井 和男	砺波市立種田公民館長
林 紀世美	砺波市立油田公民館主事		
〔小矢部市〕			
安田 寛	小矢部市立南谷公民館長	藤田 一彦	小矢部市立藪波公民館長
加賀谷賢二	小矢部市立埴生公民館主事		
〔南砺市〕			
玉井 順一	高瀬地域づくり協議会 生涯学習リーダー・文化部体育部会長 (南砺市高瀬交流センター)	角能 衛	福野南部地域づくり協議会 生涯学習リーダー (南砺市福野南部交流センター)
水上 和夫	南山田地域づくり協議会 学習・スポーツ部会長 (南砺市南山田交流センター)	中田まり子	いつついし自治会事務員 (南砺市福光交流センター)
〔中新川郡〕			
酒井 務	立山町立利田公民館長	山崎 正晴	上市町立弓庄公民館長
高田 栄子	舟橋村舟橋公民館指導員		
〔下新川郡〕			
永井 隆	入善町新屋公民館長	水島 忠彦	朝日町立境公民館長
山崎 康治	朝日町立山崎公民館主事		

●事務局

本田 正則	事務局長
木本 聡子	事務局員

平成13～令和2年度 歴代正・副会長・事務局

年 度	会 長	副 会 長				事 務 局		
		魚津地区	富山地区	高岡地区	砺波地区	主事・指導員	事務局長	事務局員
H13	鹿熊 久三	朝日 吾一	奥平 正	豊本 剛久	浦野 康德		赤井 隆幸	島崎 昌美
14	鹿熊 久三	朝日 吾一	奥平 正	豊本 剛久	溝口 春夫		赤井 隆幸	島崎 昌美
15	鹿熊 久三	尾崎 法	柴垣 孝雄	豊本 剛久	溝口 春夫		赤井 隆幸	島崎 昌美
16	鹿熊 久三	尾崎 法	柴垣 孝雄	豊本 剛久	松井 洲一		荒谷 進	島崎 昌美
17	鹿熊 久三	本井 尚身	谷井 光昭	盛野 成信	河西 求		荒谷 進	島崎 昌美
18	鹿熊 久三	本井 尚身	谷井 光昭	盛野 成信	河西 求		荒谷 進	島崎 昌美
19	鹿熊 久三	本井 尚身	谷井 光昭	岡本 孝平	河西 求	高田 伸二	荒谷 進	島崎 昌美
20	鹿熊 久三	本井 尚身	谷井 光昭	岡本 孝平	水牧 尚	村上 俊樹	荒谷 進	島崎 昌美
21	鹿熊 久三	松岡 定夫	尾崎 汎	岡本 孝平	水牧 尚	村上 俊樹	中村 啓志	島崎 昌美
22	鹿熊 久三	堀内直次郎	尾崎 汎	岡本 孝平	西部 重世	村上 俊樹	中村 啓志	島崎 昌美
23	鹿熊 久三	菅田 宣雄	尾崎 汎 中西 彰	岡本 孝平	小森 兼重	嘉藤 隆幸	中村 啓志	島崎 昌美
24	鹿熊 久三	菅田 宣雄	尾崎 汎 中西 彰	岡本 孝平	—	嘉藤 隆幸	中村 啓志	島崎 昌美
25	中西 彰	菅田 宣雄	尾崎 汎 山口 吉弘 9/1～	岡本 孝平	土田 博	清原 茂夫	中村 啓志	島崎 昌美
26	中西 彰	中田 進	山口 吉弘	岡本 孝平	土田 博	清原 茂夫	清水 賢	島崎 昌美
27	中西 彰	大崎 勇	山口 吉弘	岡本 孝平	中道 實	谷岡 輝男	清水 賢	島崎 昌美
28	中西 彰	大崎 勇	山口 吉弘	岡本 孝平	中道 實	谷岡 輝男	清水 賢	島崎 昌美
29	中西 彰	池田 宏	山口 吉弘	岡本 孝平	杉森 貢	松岡 正美	清水 賢	佐藤 智子 木本 聡子 1/5～
30	中西 彰	池田 宏	山口 吉弘	岡本 孝平	杉森 貢	松岡 正美	清水 賢	木本 聡子
R1	中西 彰	森 秀樹	山口 吉弘	高井 清高	大沼 宗義	若林 祐子	加藤 博 清水 賢 7/1～	木本 聡子
2	中西 彰	森 秀樹	山口 吉弘	高井 清高	大沼 宗義	若林 祐子	本田 正則	木本 聡子

令和2年度各市・郡公民館連絡協議会（連合会）役員

●富山市公民館連絡協議会

会 長 中西 彰（市公民館連絡協議会会長）
副会長 中村 茂信（市公民館連絡協議会副会長） 山口 吉弘（市公民館連絡協議会副会長）
藤木 一仁（市公民館連絡協議会副会長） 伊藤 和雄（市立清水町公民館長）

●高岡市公民館連絡協議会

会 長 高井 清高（市立成美公民館長）
副会長 古市 猛広（市立太田公民館長） 四津谷道宏（市立下関公民館長）
吉田 重成（市立赤丸公民館長） 平島 信明（市立福田公民館長）
蒲田 幸雄（市立能町公民館長）

●射水市生涯学習推進協議会

会 長 澤井 達司（南太閤山コミュニティセンター長）
副会長 堀 澄（水戸田コミュニティセンター生涯学習推進委員）

●魚津市公民館連合会

会 長 馬場 均（市上野方公民館長）
副会長 木下 眞（市本江公民館長）

●氷見市公民館連絡協議会

会 長 草山 利彦（市中央公民館長）
副会長 野畑 護（市窪公民館長） 木澤 義実（市八代公民館長）

●滑川市公民館連絡協議会

会 長 永田 晋治（市立山加積地区公民館長）
副会長 水井 勤（市立滑川東地区公民館長）

●黒部市公民館連絡協議会

会 長 谷口 政芳（市立三日市公民館長）
副会長 柳田 紀子（市立若栗公民館長） 佐々木興志（市立音沢公民館長）

●砺波市公民館連絡協議会

会 長 境 豊志（市立太田公民館長）
副会長 野村 幹夫（市立東野尻公民館長） 藤井 和男（市立種田公民館長）

●小矢部市公民館連絡協議会

会 長 大沼 宗義（市立松沢公民館長）
副会長 安田 寛（市立南谷公民館長） 藤田 一彦（市立藪波公民館長）
加賀谷賢二（市立埴生公民館主事）

●南砺市生涯学習連絡協議会

会 長 山田 政寛（北山田地域づくり協議会）
玉井 順一（高瀬地域づくり協議会）

●中新川郡公民館連絡協議会

会 長 酒井 勉（立山町立利田公民館長）
副会長 山崎 正晴（上市町立弓庄公民館長） 清水日登美（舟橋村公民館長）

●下新川郡公民館連絡協議会

会 長 菅田 宣雄（朝日町中央公民館長）
副会長 吉崎 嗣憲（入善町中央公民館長）

富山県公民館連合会会則

第1章 名称及び事務所

第1条 本会は富山県公民館連合会(以下「本連合会」という)と称し、事務所を富山県教育文化会館に置く。

第2章 組 織

第2条 本連合会は富山県内の公民館をもって組織する。

第3章 目 的

第3条 本連合会は県内公民館相互の連絡提携を図り、もって公民館活動の振興発展に寄与することを目的とする。

第4章 事 業

第4条 本連合会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 公民館活動の振興に関する事項
- 2 公民館職員の資質向上に関する事項
- 3 公民館に関する調査並びに資料の収集
- 4 公民館相互の情報交換と連携に関する事項
- 5 広報、啓発に関する事項
- 6 その他必要な事項

第5章 役員及び職員

第5条 本連合会に次の役員をおく。

- 1 会 長 1名
- 2 副会長 若干名
- 3 理 事 別表1による
- 4 監 事 3名
- 5 評議員 別表2による

第6条 本連合会の理事及び評議員は、市・郡公民館連絡協議会(連合会)より選出し、配分は別表の通りとする。

- 2 会長は市町村公民館及び自治公民館の館長あるいは館長経験者から理事会において選出し、評議員会の承認を得るものとする。なお、会長選出の市・郡の理事は、当該市・郡で補充する。
- 3 副会長は市町村公民館及び自治公民館の館長あるいは館長経験者から若干名、主事・指導員の中から1名を理事会において選出し、評議員会の承認を得るものとする。
- 4 監事は理事会において選出し、評議員会の承認を得るものとする。

第7条 役員の任期は、2年とし再任は妨げない。

補欠によって選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第8条 会長は本連合会を代表し、会務を統轄する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
- 3 理事は会務の執行運営に当たるとともに、理事会を組織し、評議員会の付議事項その他、必要事項を審議する。
- 4 監事は会計を監査する。

第9条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会に諮り、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の重要事項について会長の諮問に応じるとともに、本会の運営に関し、理事会等において助言する。

第10条 事務局に事務局長および事務局員を置き、会長がこれを委嘱する。

- 2 事務局長及び事務局員は、会長の命により事務を処理する。

第6章 会 議

第11条 本連合会の会議は次のとおりとし、会長が招集する。

- (1) 評議員会
- (2) 理事会

第12条 評議員会は毎年1回開催し会長が議長を務める。議決及び承認事項は、出席者の過半数の賛成で可決するものとする。

2 評議員会の議決及び承認事項は、次のとおりとする。

- (1) 事業及び収支決算報告の承認
- (2) 事業計画及び収支予算の議決
- (3) 役員の承認
- (4) 会則の改正
- (5) その他本会運営上の必要事項

3 必要に応じ臨時評議員会を開催することができる。

4 理事会は必要に応じて開催し、会長が議長を務める。

第13条 本連合会は第4条の事業を遂行するため必要に応じ専門委員会を設けることができる。

2 専門委員会の設置並びに運営に関することは、会長が理事会に諮り別に定める。

第7章 会 計

第14条 本連合会の経費は、市町村分担金、県補助金その他の収入をもってこれに充てる。

第15条 本連合会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日をもって終わる。

第16条 本連合会の会計は、一般会計と特定の目的のために預金を積み立てる特別会計とし、特別会計は運営積立金とする。

第8章 細 則

第17条 この会則に定めるもののほか連合会の運営に関し必要事項は、会長が理事会に諮り、これを定めるものとする。

別表1 理事数 20名 + 1名 (会長)

市 郡 等	計
下新川郡、中新川郡、黒部市、魚津市、滑川市、射水市、氷見市、小矢部市、砺波市、南砺市 各1名	10名
富山市	4名
高岡市	2名
主事・指導員より	4名

別表2 評議員数 45名。()は内数で主事・指導員より選出

市 郡	計
下新川郡、中新川郡、黒部市、魚津市、滑川市、氷見市、小矢部市、砺波市 各3(1)名	24(8)名
富山市	8(3)名
高岡市	5(2)名
射水市	4(1)名
南砺市	4(1)名

付 則

- 1 本会則は、昭和53年4月1日から施行する。
- 2 昭和26年1月30日制定の富山県公民館連絡協議会会則は廃止する。
- 3 この会則は、平成10年5月29日から、一部改正する。
- 4 この会則は、平成13年5月29日から、一部改正する。
施行は、平成14年4月1日とする。
- 5 この会則は、平成17年5月27日から、一部改正する。
施行は、平成18年4月1日とする。
- 6 この会則は、平成18年5月23日から、一部改正する。
施行は、平成19年4月1日とする。
- 7 この会則は、平成21年5月15日から、一部改正する。
施行は、平成22年4月1日とする。
- 8 この会則は、平成26年5月16日から、一部改正し、同日施行する。

富山県公民館連合会表彰規程

第1条 次の各号に該当する者は、本規程の定めるところにより毎年公民館大会においてこれを表彰する。

- 1 優良なる分館および自治公民館数館以内
- 2 公民館職員でその勤務が満10年、満20年に達し、業務顕著な者に表彰状を贈る。
ただし、公民館職員でない者は、公民館振興に特に功労のあった者について功労賞を贈る。

第2条 前条について、各市・郡公民館連絡協議会より推薦された候補については、理事会において選考の上決定する。

第3条 前2か条の規程にかかわらず、特に業績顕著な者については会長において理事会に諮り、表彰状または感謝状を贈ることができる。

表彰規程の取り扱いについて

第1条第2項より

- 1 県内市町村立中央公民館、公立（地区）公民館の職員および市町村教育委員会職員に限る。
- 2 毎年4月1日現在で、公民館に勤務し満10年に達した職員全員を表彰する
- 3 毎年4月1日現在で、公民館に勤務し満20年に達した職員全員を表彰する
- 4 公民館職員でない者とは、市町村教育委員会で概ね10年以上、公民館振興に功労のあった者をさす。

昭和31年5月

昭和52年5月24日 改正

平成6年5月19日 改正

平成10年4月1日 改正

平成19年4月1日 改正

公益社団法人全国公民館連合会表彰規程

平成24年3月12日制定
平成28年2月24日最終改正

(趣旨)

第1条 この規程は、公益社団法人全国公民館連合会（以下、「本会」という。）の表彰に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程における各用語の定義は次の各号により定める。

- (1) 公民館とは、名称を問わず社会教育法に基づいて、設置された公民館をいう。また、本会が認めた公民館に類似する施設を含むものとする。
- (2) 公民館職員とは、館長、主事、その他これらに準ずる者をいう。
- (3) 表彰対象年度とは前年度の4月1日より3月31日までをいう。
- (4) 正会員とは、本会の定款第5条第1項第1号に定める正会員をいう。
- (5) 正会員の役員とは、正会員となっている団体の役員就任に際し、総会等をはじめとした県公連最高決定機関の承認を要す役職の者をいう。

(表彰種類)

第3条 表彰は、優良職員表彰、永年勤続職員表彰、功労者表彰、公連勤続職員表彰とする。

(表彰審査対象者)

第4条 表彰審査対象者は、表彰対象年度中に次の各号に掲げる表彰の種類の条件を満たした上で、正会員に推薦された者とする。

- (1) 優良職員表彰
公民館職員として公民館活動に従事し、地域社会の振興、社会教育活動の推進に努力した功績が顕著であると認める者。ただし、表彰対象年度中に公民館に在籍した実績を要す。
- (2) 永年勤続職員表彰
公民館職員として、通算15年以上勤め、他の模範となりうる活動をしたと認められる者。
- (3) 功労者表彰
正会員の役員、または、それに準ずる顕著な役割を担ったと認める者として、正会員の活動振興に対して、多大なる貢献をしたと認められる者。
- (4) 公連勤続職員表彰
正会員の事務職員として、正会員の活動振興に対して、多大なる貢献をしたと認められる者。

(表彰方法)

第5条 表彰は、表彰状を授与して行う。また必要に応じて副賞を授与する。

- 2 表彰は本会主催の公民館大会で行う。
- 3 特別の事情があると会長が認めるときは前項にかかわらず表彰を行う。

(推薦及び決定)

第6条 本会は、表彰審査対象者の推薦を正会員に求め、理事会にて表彰審査会を開き決定する。この場合において同一の者に対して、過去に受賞した同じ種類の表彰をしない。

(補則)

第7条 この規程の改廃は理事会の決議による。

- 2 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、会長が理事会に諮り定める。

附則

この規程は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成18年法律第50号）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

附則

平成26年10月15日に改正された本規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

平成28年2月24日に改正された本規程は、同日から施行する。

表彰規程に関する細則

平成24年3月12日制定

(表彰者の数)

第1条 優良職員として表彰する者は、各都道府県につき1名以内とする。また、永年勤続職員及び功労者、公連勤続職員として表彰する者は数を限定しない。

(対象となる公民館職員)

第2条 公民館職員は専任、兼任、常勤、非常勤を問わず辞令を受けている者を対象とする。ただし、他の職務との兼任の場合、主として公民館に携わり、従として関係機関（社会教育課や図書館等）に携わっていることが望ましい。

(年数計算)

第3条 表彰に必要な年数は表彰対象年度最終日（3月31日）以前を計上する。

2 端数の合計は30日を1ヵ月、12ヵ月を1ヵ年として計算する。

(旅費の不支給)

第4条 本会では、受賞のための旅費等の支給はしない。

(推薦の合議)

第5条 正会員が候補者を推薦する場合、選考委員会等を設け選考することが望ましい。

(推薦事由の尊重)

第6条 本会は、推薦した正会員の意向を、つとめて尊重することを原則とする。

(貢献の実績)

第7条 「多大なる貢献」とは具体的な事業の実施や組織の改革の中心的役割などの「実績」を残す貢献とする。

(補則)

第8条 この細則の改廃は理事会の決議による。

2 この細則に定めるもののほか、必要な事項は、会長が理事会に諮り定める。

附則

この細則は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成18年法律第50号）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

あ と が き

昭和26年1月30日富山県公民館連絡協議会の結成以降、幾多の変遷を経て70年を迎えました。

この間、歴代の会長をはじめ公民館を支えてこられた公民館関係者各位の方々の方々の知恵とご尽力により、節目ごとに脈々と継承された事柄の記録として記念会誌が発刊されました。今回の記念会誌はその延長線上に位置付けられるものと思ひ、構成は前例を踏襲し平成23年3月発刊の60周年記念会誌以降の10年間を対象期間として記述しました。この10年間には様々な出来事がありました。年号が平成から令和に変わり新時代を迎え大きな期待と希望をもって進み始めた矢先、年度始めの大切な時期に全世界を震撼させる新型コロナウイルス感染症が発症しました。

令和2年3月30日に新型コロナウイルス一例が富山県で発生し、4月16日全都道府県に緊急事態宣言が発令されました。このことによって教育界や社会教育等にも大きな影響を与えました。公民館活動も大きな影響を受け、全ての公民館にコロナウイルス感染予防の対策がとられ、活動が制限され、事業が見直され、中止または延期されました。公民館から人の姿が消え、歌声や笑い声が消えました。5月25日の緊急事態宣言全面解除により、外出自粛・休業要請が解除され、感染予防対策をとりながら公民館も三密の回避を遵守し、活動が徐々に回復し公民館にも人が集まり、来館者にも笑顔が戻りました。改めて公民館が地域の拠点であることを再認識させられました。

また、富山県公民館連合会にとって誇るべきことがありました。平成20年6月から6年間全国公民館連合会第12代会長に当公民館連合会の鹿熊久三会長が就任されました。令和2年6月には全国公民館連合会第14代会長に当公民館連合会の中西 彰会長が就任されました。このことは富山県公民館連合会が全国公民館連合会より高い評価を受けている上に、就任されたお二人のお人柄が高い評価を受けておられる賜物であり、富山県公民館連合会にとっても名誉なことであります。

発刊にあたりご協力をいただきました富山県教育委員会をはじめ、歴代の事務局長に心より感謝申し上げますとともに原稿作成、編集、校正に携わった当連合会の職員に対して深く感謝いたします。

令和3年3月

富山県公民館連合会
創立70周年記念誌実行委員会

編集委員長 **高 井 清 高**

編 集 委 員

- 編集委員長 高 井 清 高
(富山県公民館連合会副会長)
- 副委員長 中 村 啓 志
(元富山県公民館連合会事務局長)
- 委 員 松 田 弘 人
(富山県教育委員会生涯学習・文化財室主任社会教育主事)
- 委 員 清 水 賢
(前富山県公民館連合会事務局長)
- 委 員 本 田 正 則
(富山県公民館連合会事務局長)
- 委 員 木 本 聡 子
(富山県公民館連合会事務局員)

令和3年3月 発行

編集：富山県公民館連合会 創立70周年記念誌編集委員会

発行：富山県公民館連合会

会 長 中 西 彰

〒930-0096 富山市舟橋北町7-1

富山県教育文化会館内 富山県公民館連合会事務局

TEL/FAX 076-444-5777

E-mail: tomico7@iaa.itkeeper.ne.jp

印刷：株式会社タニグチ印刷

〒933-0238 射水市東明中町7-1



富山県公民館連合会